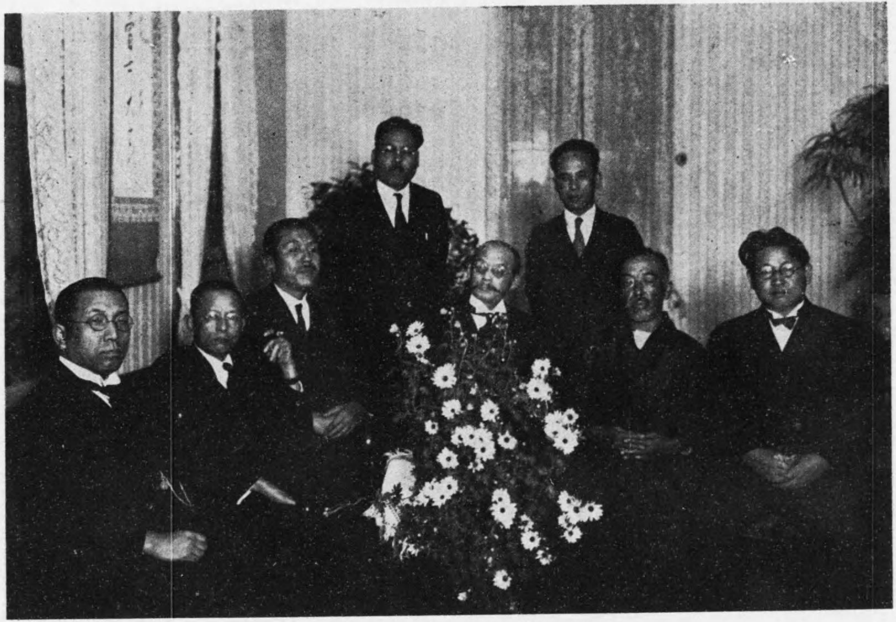
満川亀太郎著

ユダヤ禍の迷妄

平凡社發行

平凡社主催ユダヤ禍問題座談會

昭和三年十一月七日夜麹町富士見軒にて

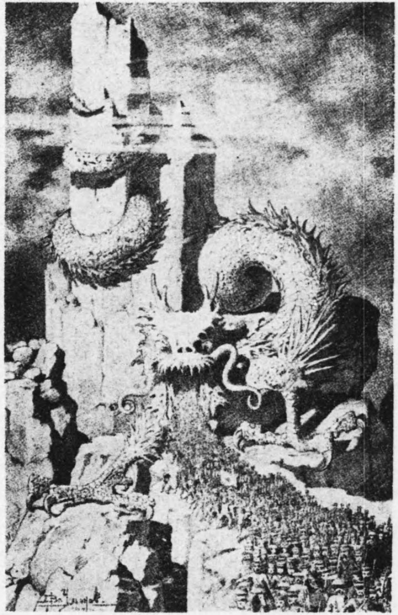


志垣寛氏　下中彌三郎氏

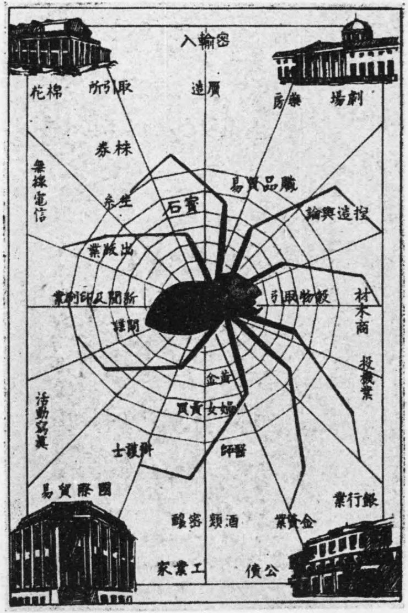
大竹博吉氏　樋口艶之助氏　酒井勝軍氏　大石隆基氏　信夫淳平氏　著者

輸入されたる歐洲人の幻影

昔は黄禍



今は猶太禍



3

No.

(五) 命ヲ達セシメントスル希望ニ燃ユルカ爲メナリ
彼等ノ秘密結社「イスラエル」世界同盟ハ千八百七十年英人「ジヨンレードクリフ」博士之ヲ發見シテ其ノ綱領ヲ世ニ發表シテ以來約六十年「プルトコル」（猶太人長老會議）ハ千九百二年露人「セルゲイニルス」之ヲ發見シテ世界ニ曝露セシ以來二十六年ヲ經過シ、此等ヲ研究シテ近來ニ於ケル世界情勢及我カ國ノ現狀ヲ見ル時ハ悉ク符合シテ毫モ動カスヘカラサル證左ナリ

(六) 露國ノ革命ハ米國紐育ニテ彼等ノ秘密結社カ計畫シタルモノニシテ革命前同所ヨリ一週間ニ約八百人ノ彼等一味ハ露國ヘ入込メリ

(七) 現在露國ノ執政官ハ五百四十四人ニシテ内猶太人ハ四百四十七人ナリ而シテ彼等ハ前記ノ「プルトコール」ニ在ル如ク極端ナル專制壓迫政治ヲ行ヒツヽアリ

猶太人陰謀說に就て

滿川龜太郞氏に與ふ（上）

松居錬石

一

滿川氏は雜誌「日蓮主義」八月號の『虐げられたる民族としてのユダヤ人と黑人』と題する論說の第三項「ユダヤ陰謀論の迷妄」中に

「世には社會主義の父たるカール・マルクスやドイツのリーブクネヒト、ロシヤ共產黨の中堅たりしトロツキー、ヂノヴイエフ等がユダヤ人であるところから、之等の赤化運動と結びつけて、直ちにユダヤ人全体が世界顛覆の大陰謀を企てでもしてゐる如く思つてゐる人もありますが、これは甚だしい迷妄と存じます。今まで散々にユダヤ人を虐めつくしたヨーロッパ人は、將來ユダヤ人から復讐を受けはしまいかといふ幻影に怯れそれがために殊更ユダヤ人の陰謀といふ如き宣傳を發してゐるのであります。ユダヤ人と何の關係もなき我々日本人は聰明なる眼を放つて、所謂ユダヤ陰謀論の正体を看破する必要があります云々」

と、又氏はその著「世界維新に面せる日本」の中にもこれと同じやうなことを書かれてゐる。即ち、

「ロシヤの赤化恐怖論に顛倒若くば同類の人達と見るべきは、夫のユダヤ陰謀論者であります。論者の說によると世界漂泊者であるユダヤ人が世界顛覆の大陰謀を企圖し秘密結社を組織して到るところに潜入しつゝありといふのであります。ロシヤの革命はユダヤ人陰謀の結果である、ドイツの革命も同樣である。世界の帝王國の大部分は覆つた、彼等の恐べき計畫が今や我日本帝國を狙ひつゝあると全部をユダヤ人のせいに歸して眞としやかに說くのであります……何の關係もない日本人がヨーロッパ人の尻馬に乘つてユダヤ人陰謀論を說き廻はるが如きは不見識極る話であります」（同書四〇—一頁）

といつて數年來私共同志が絶叫してゐる猶太人陰謀說を「甚だしい迷妄」だとか「不見識極る話」だとかいつて罵倒されてゐますから之に對して默つてゐるわけに行かないので此文を書くことに致しました。

二

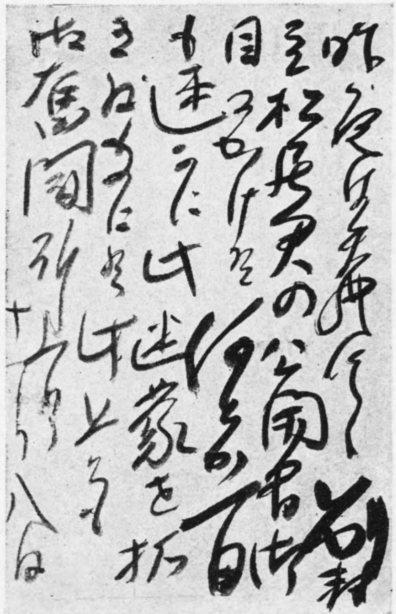
しかし私は私共の主張する說を氏が、クサされたからといつて大に激昂し、一時の感情にかられて之を書くのではありません。又何等怨もない氏に對して私憤を灑すためでないことは無論であります。

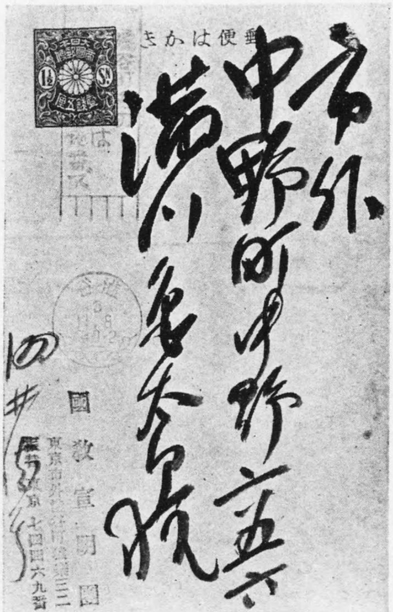
滿川氏は行地社同人であり且つ又私が尊敬する安岡正篤氏、大川周明氏、綾川武治氏等と名を連ねて雜誌「日本」に數々筆を執られて東洋精神の發揮を鼓吹してゐられ

（ユダヤ禍の陥穽に陥れるユダヤ禍論者より著者に送られたる挑戰狀）

—本書第五章参照—

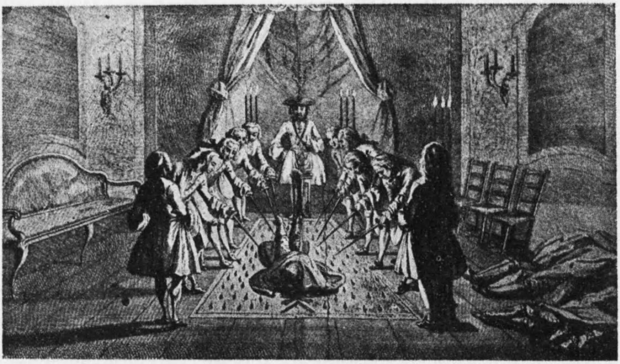
酒井勝軍氏よりの來葉





『昨夜は失禮仕候。別封にて松居君の公開書御目にかけ候。何とか一日も速かに此迷蒙を拓き度ものに候。此上とも御奮闘祈上候』

（昭和三年十一月八日付）

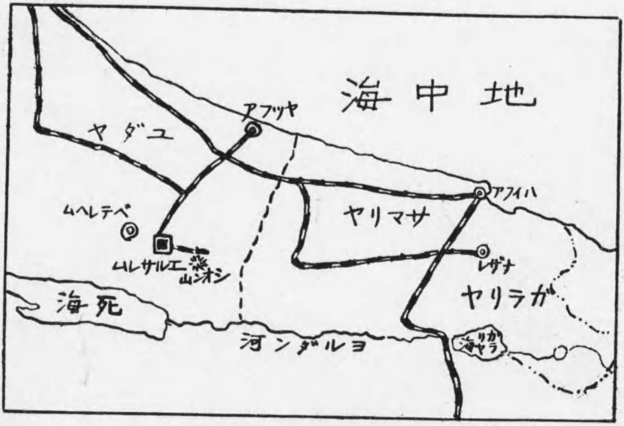


フリーメーソン結社加盟宣誓式

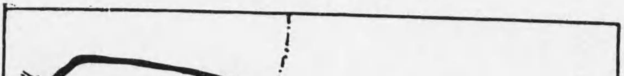
(露文マッソン研究秘書所載)



フリーメーソン社員の葬儀



ユダヤ建國運動の本據パレスタイン
（本文二八頁——三七頁參照）



極東露領に於けるユダヤ新植民地ル・ビヂヤン地方
（本文四二頁——四四頁參照）

序にかへて

征戰の勇士に贈る一矢

大竹博吉

1

ロシアの子供訓話のなかに『ワシカと狼』といふ話がある。

惡童ワシカは、『そら狼が出た！助けてくれ！』と悲鳴をあげては、村人達が大騷ぎをして彼れを助けに飛びだして來るのを見て、いつも痛快がつてゐた。

ところがその後、今度はほんとうに狼があらはれた時には、ワシカがいくら助けをもとめても『またワシカの噓だ』――といつて誰れも飛びだして來て助けようとする者がなかつた。ワシカはとうとう狼に喰はれて死んでしまつた。

國論の統一が必要であつても、そのために自己をあざむき國民をあざむいては不可ない。それは事實において國論の統一どころか、逆に、國論の攪亂である。

かの、シベリア出兵が失敗であつたといふことは、今日では誰れ一人異存なき一致の論である。しかし、此のシベリア出兵失敗のもつとも大きな創痍は、やれ過激派の、それ獨墺俘虜軍團の東漸のといふて、ワシカ流の狼や化物を次から次へとあまりに頻繁に使ひすぎたために、國民が信を措かなくなつたことである。――これは國際外交上のあらゆる瞬間に必要な、國論統一のために絶對的な障害となつて、今後も相當に永い間、わが國の國民生活上に作用するであらう。

そこで、近來またやゝ異つた形で、ユダヤ人の世界的陰謀、乃至はユダヤ禍といふ形で、いはゆる思想國難の日本の舞臺に、無形の狼と化物を活躍させることが流行しはじめた。

畏友滿川君は、これを『ユダヤ禍の迷妄』と名づけて、夙にこの迷妄がわが國民思想の上に甚大な害惡をあたへつゝあるを指摘し、その排擊につとめてゐる。國民一人の意識をあざむくは即ち國の一角を欺むくものであり、全國家の基礎を危ふくするものであるといふ見地から、また、自己の祖國をうばはれて訴ふるに所なき無辜の被抑壓民族に熱烈なる同情をよせるといふ見地から、同君のこの態度は當然だとおもふ。

私は、ユダヤ禍論は、ワシカの嘘の反覆だと思ふ者である。事實において『禍』でも何でもないものを、『禍だ、禍だ、禍だ』と國民をあざむき、正直な、純情な、國民が一時それに乘せられて憂國の情にうごかされてゐるのを見て、ワシカの村人に對するごとくに痛快がつてゐると、いざほんとうの『禍』が來た時に、國民はその『禍』に耳を傾けなくなる。そこでユダヤ禍論者は、例の嘘つきワシカと同じ運命に陷ることになるであらう。『禍』などゝいふ文字は、さう無暗に濫用すべきでない。

現在普通に行はれてゐるユダヤ禍論の迷妄と牽强附會とを反證する根據は、特別の『研究』などをするまでもなく、現代社會人として普通の常識をもつた者なら、隨所に、無數に見いだすことが出來る。滿川君も夙に言つてゐるやうに、また先ごろの平凡社座談會でも殆んど大審院の判決に近い形で多くの列席者によつて承認されたやうに、かのユダヤ禍論者の虎の卷たる『プロトコール』が僞書だといふ觀方もその一つである。(この種の僞書の特質については滿川君が本書のうちで明快に指摘してゐるところである)

だが、この場合千尺桿頭百歩を讓つて、かの『プロトコール』がユダヤ人中の何らかの團體の會議で採用された決議であるとして、また此の『プロトコール』の章句の何れかに書かれてゐる

ところに幾分近い社會現象が現存するとして、それが直ちに普選運動から米騷動、乃至は一切の勞働爭議にいたるまで、悉皆ユダヤ人のなすワザだと斷定するのは、甚だしい論理の飛躍である。滿川君のいふやうに、一天四海皆歸妙法の萬燈をふりかざしてデモンストレーションをする日蓮宗は世界征服の陰謀をめぐらしてゐる――從つてまた、全日本人は日蓮宗の蔭にかくれて世界統一を策してゐる――と斷ずるのと同じである。

ユダヤ禍論者は、ボリシエヴィズムの世界革命理論と、『プロトコール』のユダヤ民族の世界征服理論(?)とを結びつけ、ソヴエト政權はユダヤ政權だといふ。――そしてソヴエト政府の樞要な椅子を悉くユダヤ人が占めてゐるとか、世界ぢうにユダヤ人の金持や天才や偉人がこんなに蜘蛛の巢のごとく配置されてゐるとか、時代も、傾向も、思潮も、事實も、ウソも、何の系統もなく抽象的に、無暗やたらに人名表を羅列するといふ『迷妄』によつて、何か斯う物凄さうに見せかけるのを、常套手段としてゐる。そして、その材料なるものゝ多くが、誰れにでも常識で判斷のできるやうな間違ひ(むしろ出鱈目といふ方がたゞしい)や、牽强附會のものをその儘に、何の吟味もなしに搔き集めたにすぎないこと、つまり『同一の製造場』から提供される惡質の商品を何の加工もせずに陳列棚にならべてゐること――これが私の知るかぎりの『ユダヤ禍研究書』

のもつとも光輝ある特色である。さういふやり方を、現代の用語法では『研究』とは名つけてゐないのだけれども。

多くの『ユダヤ禍迷妄書』(さう名づけることを許して貰ひたい)に鹿爪らしく指摘されてゐるソヴエト政權の重要職員何人のうちユダヤ人が何十何%といふ如き數字をとつて見よ。一たいその重要職員のどういふカテゴリーを對象として取扱つてゐるのか薩張り譯が判らぬ。

全體の中から自分に必要な部分だけを取りあげて他の全體を切りすてゝは、全體の交互關係を說明する材料にはならない。それ以上に、『迷妄書』の指摘してゐる所を見ると、勝手に机上で作りあげた統計(?)と斷ずるほかはないものばかりである。或るユダヤ禍論者は、この點に來ると『材料が古いから今とは少し違つてゐる』——と逃げる。祕密の奥底まで『研究に研究』をかさねてゐるユダヤ禍論者諸彥が、『現時のユダヤ禍』を絕叫しながら、現時の新らしい具體的材料をそつち除けにしておいて『古い過去の』しかも何を對象として取扱つてゐるのか判らぬ材料を後生大事にふり廻して『ユダヤ禍の研究』をしてゐる怠慢ぶりは、一寸と對手にし難いほどである。

もう一つの常套手段たる、長い歷史の時代にユダヤ人中から現はれた革命家や、思想家や、科學者や、藝術家や、金滿家の大小の人名表を列擧することも同じである。

なるほどユダヤ人中から多くの偉大な革命家、思想家、藝術家、金滿家（しかしユダヤ禍論者たるフォードに及ぶ者はなくなつたやうだ）が輩出してゐるのは事實だ。然しそれは、プロトコールの命ずるところによつて彼等が革命家や、天才や、金滿家になつた譯でなく、いはゆる『プロトコール』の以前から存在する、長い世紀間にわたつて彼等を迫害し抑壓した各國における過去の社會的國家的秩序や、彼等のもつ文化史や社會環境が、それを生みだしたのであることは爭ふ餘地がない。プロトコールの命ずるところは絶對的なものであるやうだが、われわれの社會秩序や文化や社會環境はそんなものではない。可變的なものだ。だから『禍』などいふ文字には關係がない。嚴正なる『ユダヤ人研究』をやるなら、固形的なプロトコールなどにかぢりついてゐないで、社會・文化・歴史の方面から問題に立ち向はねば『百年の研究』も無價値だ。

ロシア帝制時代に長い間知事や内務次官を歴任して、日露戰爭から勞農革命勃發の直前まで、ロシア革命黨との鬪爭をその職として來たクルロフ將軍は、革命ののちドイツに亡命してから有名な囘想記を書いてゐる。彼れは最初ミンスクで、その後キエフで縣知事をしてゐた頃に親しくユダヤ人問題にぶつかり、そこで『机上の研究』ではなしに、實際問題としてユダヤ人問題を研究した結果、二つの明瞭な結論に達してゐる。第一に、ユダヤ人がロシア政府に反感をもつのは、

つまりロシア帝制が仆れることを希望する最大原因は、法律上・宗教上の差別待遇から來てゐる。第二にユダヤ人靑年が相次で革命黨に參加するのは、彼等が母親の乳房にすがつてゐる時代からうける、あらゆる形の差別待遇と抑壓の結果である。高度な文化をもつてゐる異民族に差別待遇をあたへてるかぎり、彼らが現存秩序を變革するといふ革命運動に共鳴するやうになるのは當然だ――とクルロフ將軍は斷じてゐる。ロシア革命運動にユダヤ人が多數參加してゐたといふ原因を探究するには何ら眞僞不明のプロトコールの力を借りる必要がない。

赤化防止の專門家たるクルロフ將軍が、ユダヤ人『赤化』の原因は、ロシア帝制政府の差別待遇政治にあると太皷判を押してゐるのである。なにがしロシア人がプロトコールを手に入れて發表したのが一九〇二年だといふ。クルロフ將軍は一九〇三年日露戰爭の勃發に筆をおこし、勞農革命後のロシア脫走に筆をむすんでゐる。しかもそれが一九二二年に書かれたのであるのに、プロトコールの『プ』の字も、いはゆるユダヤ禍の『ユ』の字も指摘してゐない。彼れがユダヤ人問題について力說してゐる點は、最初ウイッテ伯の首相時代に、次でストルイピンの首相時代に、熱心にユダヤ人に對する差別撤廢の必要を建議したことである。そして上院や極右黨の頑迷論者の反對で之がいつでも實現されるに至らなかつたことを、一般にさうした頑迷論者の態度を、帝制崩壞

の期を早めた原因としてあげてゐる。クルロフ將軍のいはゆる『ユダヤ人靑年』の中には、常年のトロツキーも、ジノヴィエフも、カーメネフも、無論はいつてゐたのである。

だが、そのために革命家や學術的・藝術的天才や金滿家が、ユダヤ人の專賣特許だといふことは、少しも論據がない。ユダヤ人を除いた全世界の何十億といふ各民族の長い世紀にわたるそれぞれ歷史の中には、ユダヤ禍論者がまるで『無かつた者』かの如くに『ユダヤ人名士偉人』の名の蔭に抹殺してゐる『不幸』な、しかも偉大な革命家や、學者や、藝術家たちが、比ぶべくもなく無數にゐるのを想ひ起して見よ。

ダントンは、ロビスピエルは、クロンウエルは、ナポレオンは、ソクラテスは、シーザーは、ニーチエは、ビヨルソンは、シユクスピアは、ピヨトル大帝は、大西鄕は、東鄕元帥は、ネルソンは、イブセンは、プーシユキンは、クロポトキンは、ゲルツエンは、シヤリヤピンは、ルツソーは、野口英世博士は、プレハーノフは、スターリンは、レニンは、プガチヨフは、ステンカ・ラヂンは、十二月黨の貴族軍人革命家たちは、バーナード・ショーは、ジヤンダークは、トルストイは、ムツソリーニは、ピルスドスキーは、マサリツクは、フオードは、ボルドウインは、ヂンギスカンは、豐太閤は、孔明は、秦の始皇は、マキヤベリは、ビスマークは、ヒンデンブルグは、

バクーニンは、その他その他の數へがたいほど多くのユダヤ民族以外の偉人、革命家、思想家、學者、藝術家は、ユダヤ禍論者の好んで指摘するユダヤ人中の有名人物たるヨッフェ、ジノヴイエフ、シャイデマン、クラスノシチヨコフ、スチンネスその他その他と、その偉大なる點において肩をならべることは出來ないのか？

ロシアの革命史は、農民一揆にはじまつてゐる。その代表的な指導者プガチヨフやステンカ・ラヂンは領主の桎梏から脱出せるカザツク自由民であつて、ユダヤ人と何の關係もない。ロシア・マルクス主義の父と稱されるプレハーノフは西歐に亡命してマルクス主義を革命理論としてうけ入れる以前に、すでにロシア流の革命團體人民の意思黨の領袖であつた。レニンの兄――アレクサンドル三世帝暗殺計畫に連座して絞首されたアレクサンドル・ウリヤーノフは、マルクス主義革命理論とは根本的に相容れなかつた人民の意思黨員であつた。バクーニンは十九世紀中葉のヨーロッパ諸國（フランス、イタリー、ドイツ、オーストタリー等）におけるあらゆる革命運動に身を以て參加した爆彈的大革命家であるが、彼れは當時のマルクス・エンゲルス派と猛烈な闘爭をしてゐる。――これらのあらゆる革命的傳統の上に生れ、そして成長したロシア革命運動を、ユダヤ禍、または一般にユダヤ民族の世界的陰謀と結びつけるのは、歴史的事業を無視する牽強附

會の說である。またユダヤ人革命家同志も鬪爭をしてゐる。(マルクスとラツサールの鬪爭、カウツキーとベルンシユタインの理論鬪爭、シヤイデマンのリープクネヒト及びルクセンブルグ殺戮等の歷史を見よ)

眞理を愛するわが滿川君が、ユダヤ禍の迷妄を排擊するために敢然として起つたのは當然のことである。

ユダヤ禍論者の公式ほど矛盾(すなはち迷妄)に滿ちたものを、他に見いだすのは至難である。彼らは、ユダヤ民族の世界征服プロトコールとマルクス主義乃至はボリシエヴイズムの世界革命主義とを一體として結びつけ、そこへまたユダヤ人の經濟的才能や金融勢力を結びつけてゐる。

第一に、ユダヤ人の世界征服といふからには、少數のユダヤ民族を以て何十億といふ全世界の多數民族を支配するといふことであらう。——ユダヤ禍論者のいふ如く、その目的のためにユダヤ人が建設したのがソヴエト政權だとするならば、そのソヴエト政權が、民族中の大多數の力をもつて少數支配階級の支配を排斥し、多數の獨裁といふ憲法を制定するのは大なる矛盾である。ユダヤ民族がどしどし人口を增殖せしめて世界の全民族よりも多數になる時を見越して、今からさういふ原理を用意しておくのだと、もしユダヤ禍論者が言ふならば、それは民族間の人口增加

競爭の問題であつて、ユダヤ禍よりはまづ產見制限禍でも提唱する方が直接的效果があらう。

ユダヤ人が經濟的に世界に勢力を占てゐる、または占めつゝある、——これはユダヤ人の歷史的文化から培はれた才能と共に、相當程度まであり得さうに見える。然し近世ユダヤ禍論の勸進元ともいふべき自動車王フォードは、近來めきめきとアメリカ第一の大金滿家となり、從つておそらく世界一の大金滿家である。フォードはその致富の才能においてユダヤ財閥中の何人に比べても何倍か卓越せることを實證してゐる。そこで彼れは、世界ぢうの要所々々にフォード自動車工場を『蜘蛛の巢』のごとく張りめぐらし、自動車をもつて世界征服を試みんとするほどの痛快な男である。——それはそれとして、ユダヤ人の經濟的世界征服（卽ち致富の才能）とソヴエト政權と何の關係があるのか？

ソヴエト憲法は、致富の目的をもつて他人の勞力を使役する（これを除いて一定の人や集團が致富の目的を充分に達成する方法は現今の經濟組織ではあり得ない）者から一切の政治的權利を剝奪してゐる。この憲法の精神が、全世界の致富階級の反感の焦點となつてゐることも公然の事實だ。

問題を判りやすくするために、一つの假定を設けて見よう。假りに今ボリシエヴイズムを基礎

とする世界革命が達成されたとして、その時ユダヤ人はどうなる？

第一に、ユダヤ人は現在の居住關係を變へないかぎり、世界ぢうの何處においてもその地方の住民中の絕對少數民族となるであらう。少數民族が多數民族を支配するといふことは、イギリスのインドに對する、滿洲民族の曾て漢民族に對する形態において可能（それも多數民族が眠つてゐる間だけのことだ）であるが、ボリシエヴィズムとは矛盾する。從つてユダヤ民族はどこにおいても民族的には支配勢力となることは出來ない。

第二に、致富の才能によつて蓄積したユダヤ人のもつてゐる全財產は、ソヴエト權力の手に收奪されて、民族中の多數者が支配するソヴエト政權の手で處理される。少數のユダヤ人の勝手にはならないことになる。

——斷はつておくが、筆者はモスクワに滯在せる間に大小のユダヤ人投機業者が不法投機の結果投獄されたり流刑されたり私有財產を沒收されたりした幾多の實例を親しく見聞した經驗によつて、これを實證することが出來る——。

世界革命の波をおそれる者をして、これをおそしめよ。だがそこにユダヤ禍が何の關係をもつか？

フォードの世界自動車征服?またはユダヤ人の世界經濟征服（この二つは自動車も現代經濟の一要素であるかぎり同じことである）を憂ふる者をして憂へしめよ。だがそこにボリシェヴィズム世界革命理論と何の關係があるか?

然り、もし關係ありとすれば、これらの兩者はその本質において相容れないといふ反撥的相互『關係』があるだけである。

一切を、ミソも、クソも、滿川君のいはゆる『――とはいふものゝ金の欲しさよ』式筆法をもつて迷妄の上に迷妄を架し、國民啓蒙の名を藉りて實は國民を曚昧化せんとするユダヤ禍論者を、一日も速かに打倒一掃することは、刻下の喫緊事である。

ユダヤ禍論者の奥の手は『祕密』にある。私はハルビンにおいて、日本ばかりでなく、全世界(?)のユダヤ禍論者に高價なる材料を供することを誇つてゐる、言はゞユダヤ禍文書用達業者たる元コルチヤツク政府情報部長イワノフ君と會見するの光榮を有したことがある。（その會見記は本書のうちに收錄されてゐる）

彼れのいふ所の牽强附會なる、出鱈目以外の何物でもない。それから、ユダヤ禍論者の無上の愉快とする所は、新種の『祕密文書』の入手であるらしい。この點、ユダヤ禍論者の蒐集癖は、

かのマッチのレッテルや郵便切手の蒐集癖に酷似してゐる。閑人のお道樂である。

それと共に、『祕密文書』の蒐集にそれほど熱中してゐるユダヤ禍論者が、彼らが勝手にユダヤの總本山なりときめてゐる第三インターナショナルの『祕密』はもとより、公然たる決議や行動すらも、具體的にはちつとも『研究』してゐないこと、誠にユダヤ禍論者の『研究』能力の缺如を語るものである。

これを要するにユダヤ禍論なるものは、現代の科學にも、また哲學にさへも全然無關心な、ひたすらに排他的な偏見と迷信（これらの形容詞は一切『迷妄』といふ言葉で盡きてゐる）に凝りかたまつてゐる密教に近いものである。

滿川君が、その『ユダヤ禍迷妄論』にたいし、有名無名のユダヤ禍論者から挑戰狀を送られたる機會を捉えて、敢然としてユダヤ禍論の迷妄排擊を宣言して起てるを聽き、この勇士征戰の行を盛んにせんがため、敢て一矢を添ゆる所以である。

序

『猶太禍は迷妄である』――この命題を滿川君の口から聞いた一人が私に囁いた。
『ホホウ、滿川君も大分變つたね』
で、私は言つた。『變つたのではない、前からあれだ。あれが滿川君の眞骨頭なのだ』
事實、滿川君は世間の一部の人達が考へてゐるやうな反動家でもなければカツギ屋でもない。正しいものに味方する熾烈な情念と、事件の核心を明かに道破する俊敏な理性との持主である。從つて『猶太』には如何なる場合にも與し得ない人なのである。日本の軍人の老人達がカツギまはつてゐる猶太禍の話が與太であることを疾く道破してゐた滿川君は、昨年來、地方講演の度毎に、正直な地方人士から、
『猶太人の世界轉覆の大陰謀が、あのロシア革命の原動力なんださうですね』
『日本にも既に猶太禍が及びかけてゐるといふのは本當でせうか』

『普通選擧だのモダンガールだのマルクスボーイだのみな猶太禍の現はれなんださうですね』

と言つた風の奇問がしば〳〵發せられるのに吃驚して、この迷妄を打破しなければ日本は斷じて思想的に進歩しないと感じ、遂に此の書を公にさるゝに至つたのである。

私も度々同樣の質問を地方の教育者達から發せられて驚いてゐた一人であつたので、喜んで此の書の出版を引受けたのである。本書の出現によつて私は、それ等地方の正直な人達を猶太禍の迷妄から救ひ得ると信ずると同時に、著者滿川君を『反動家』『カツギ屋』を以て目せる一部批評家の迷妄をも明快に打破し得ると信ずるのである。

昭和四年五月一日

下中彌三郎

自序

満川龜太郎

少年時代、京阪の間に成長した著者は、毎朝小學校への通學に先ち、潛かに新聞の電報欄を讀むを習慣とした。今でも判然と事件の名を記憶してゐるもの丶多い中に、フランスのドレフユース大尉事件と、ロシアのキシネフ虐殺事件とがあつた。その原因のユダヤ人に關聯してゐることは新聞によつて教へられたが、もとよりユダヤ人に關する特別の智識を有つてゐた譯ではなく、たゞユダヤ人なるが故に、かくも毀傷され、虐殺さるゝは何故ぞやと、彼等異邦人の身上を嘆き悲しんだのである。

長ずるに及び、著者の志倘は著しく虐げられ奪はれたるもの丶上に向つた。『破戒』や『火の柱』を讀んで切齒し、痛憤し、昂奮した著者は、必然國際的に抑壓され、誹謗さるゝ民族の上にその視野を展開して行つたのである。かくて大正十年『奪はれたる亞細亞』を、大正十二年『黑人問題』を著はしたる著者は、三部作としての殘れる『ユダヤ民族問題』をも早晩完成せざるべから

ざる責務を感じてゐた。然かも今かくの如き表現を以て讀者と相見やうとは、殆ど著者の豫期せざりしところである。何となれば民族の科學的研究を主位とせず、非科學的なる『ユダヤ禍問題』に關して執筆するが如きは、甚だしく著述の行程より逸脱せるものであるからである。

然かし乍ら、近世ヨーロッパの最大迷妄たる『ユダヤ禍』は、大正八年シベリア出兵の土產として輸入されし以來、かつては『過激派討伐』の有力なる資料たり、今は一部の國粹家によつて『赤化防止』の具に供されてゐる。その世界顚覆の陰謀といふもの、その世界に散在せる祕密結社といふもの、痴人夢を語ると評するの外なきは論なし。何事ぞ。將軍といひ、學者といひ、宗教家といひ、教育家といふもの、一虛萬實を傳へて滔々天下に喧囂す。遂に昨秋司法省主催思想檢事講習會を開きて『ユダヤ人の世界赤化運動』を講ずるに及び、ユダヤ禍の禍亦極まれりと謂ふべしである。是れ著者が執筆理由の第一。

著者筆に口にユダヤ禍の迷妄を說くこと多年、然かも未だ甚だ詳かならざるの遺憾があつた。蓋しその一々を論駁するの煩に堪へなかつたからである。頃日福岡のユダヤ禍論者、事に勢を得て挑戰し來る。著者敢て一二の挑戰者に應答すといふに非ず、一切論敵の迷妄を科學的に打破せんがために、決然こゝに起たざるを得ざるに至つた。是れ理由の第二。

ユダヤ民族、國を喪ひてより世界に漂泊すること二千年。ヨーロッパ人は彼等を無告の境地に陥れ、剩へその上に『ユダヤ禍』の石を投じて、ひそかにこれが報復を恐れてゐる。今再びユダヤ禍說が高からうとも、そは畢竟白人の迷妄である。然るを口に『外來思想の撲滅』を絶たざる者、自ら這の外來思想に迎合して怪まざるが如きは、眞にこれ日本民族の恥辱ではないか。今日の急務は東海日出國民の義憤を以て、世界の悪夢を覺破せしむることに在る。是れ理由の第三。

關東大震災の時、箱根の水流が變じて多くの鯰公が飛び出した。發見せし一人大聲を揚げて曰く『分つた。此奴共が大地震を起したのだな』と。罹災の大衆皆來り會し『憎むべき鯰よ』と連呼して悉くこれを撲殺し、後食膳に上せて漸く欝憤を晴らしたといふ。

嗤ふことを休めよ。古來地震と鯰とが附き物であつたが如く、革命や戰爭とユダヤ人とは附き物であつた。ユダの子孫として二千年に近き迫害を經由したユダヤ人は、今ダビデの後裔として恐怖されつゝある。ユダヤ禍。新ユダヤ禍。新々ユダヤ禍。そはもとより白人の揑ね上ぐるに委す。然かしそれが日本民族と何の交渉があるのだ。東京市の紋がユダヤの紋ならば、ロシア語にてユダヤ人を『幽靈(エウレフ)スキー』と呼んでゐるを見よ。アメリカの『星章』がユダヤ禍を示すものとせば、光輝ある我陸軍も亦悉くユダヤ禍の渦中にありと知らずや。ユダヤ禍の迷妄なること凡そ

かくの如きである。

今、我國のユダヤ禍論者の陣營には大なる動搖が起つてゐる。それは酒井勝軍氏が三J政策（ジャパン、ジーサス・クライスト、ジュデア）と呼んで明白に親猶政策の旗幟を飜へし出したからである。同時にロシア革命をユダヤ革命となせし論據も、ユダヤ禍論者自身の口より根柢的に覆つた。あとは多年に亘つてこの迷妄を國民の間に流布宣傳したる德義上の罪科を謝すべきのみ。然り、如何に愛國心の發露なればとて、餘りにも大なる迷妄であつたのである。

著者は敢て政策としての親猶を唱ふる者ではない。『政策』『親猶』の文字すでに動機の純ならざるを示してゐる。著者はドレフユース事件に於けるゾラやクレマンソウの如き良心の燃燒を以て本書を著はした。何ぞユダヤ人に偏愛すと言はんや。先づ自ら這の錯覺と斜視とを正すことは、太陽を國旗とする日本民族本來の面目であらねばならぬ。

著者は非常に多忙なる公生活を送つてゐる。著者は『日本』をこのまゝで捨てゝ置くことは出來ない。同時に『支那』をこのまゝで放擲することも出來ない。著者は最早ユダヤ禍論者如きに一々相手になつてゐる餘暇なきことをこゝに明白に宣言する。

昭和四年四月二十日

はしがき

一、本書は大正八年以來我が國に流行する『ユダヤ禍』の迷妄を打破する目的にて著はしたものであります。然かしそれがためにはユダヤ人に關する一と通りの正視を要します。前篇として概略ながらも『ユダヤ民族』の一章を挿入した次第です。

二、序文にもある通り、ユダヤ民族研究に關するもつと纒まつたものを書きたいと思ひますが、今は到底その暇がありませんから永日を期します。

三、大正八年老壯會以來の同志であり益友である下中彌三郎、大竹博吉兩兄が特に序文を與へられたこと、又出版に就て下中兄を煩はしたことを深く感謝いたします。

四、附錄として卷末にユダヤ問題座談會記事（昭和四年三月號『平凡』掲載）を掲げました。これを先きに讀まれた方が、或は一層ユダヤ禍の迷妄を明かにすることが出來るかと思ひます。

以　上

ユダヤ民族及ユダヤ禍に關する著者論文目錄

（以上）

ユダヤ禍の迷妄　目次

後篇 ユダヤ禍の迷妄

第二章 『ユダヤ禍』とは何ぞ

第三章　ユダヤ禍宣傳本の批判

第六章　迷妄の打破

第七章　結　言

附　錄　ユダヤ問題に關する平凡座談會

校了に當り再び著者より

口繪

ユダヤ禍の迷妄

ユダヤ禍の迷妄

前篇　ユダヤ正視篇

第一章　ユダヤ民族

一　緒　言

十年前のシベリア出兵は、日本人の腦裡に二個の新しい異民族の名を齎らした。一はチエック・スロヴアク、他の一はユダヤ人。

日本人の大多數は大正七年までチエックと呼ぶ民族が、地球の一隅に存在することを知らずにゐた。然るに政府のシベリア出兵宣言（大正七年八月二日）を讀むと、チエックの建國運動を助けんがために出兵するとあつた。そこで初めてそんな名の民族がゐたことが判つたが、それにしても何故我が國が軍隊まで出してその建國運動を助けなければならぬかの理由が分からなかつ

た。何となればチェックは彼等の故郷たるオーストリー内に獨立せんとするのであつて、シベリアに建國せんとするものではなかつたからである。

その後シベリア出兵の目的が、『シベリアの治安維持』とか、『過激派討伐』とか、猫の眼の如く變つて行き、結局『チエック援助』の目標は消失してしまつた。チエックはオーストリーより獨立して建國の目的を達し、今や我が國とも修交してゐるが、誰も特別にチエックの名を高唱する人もないから、一般人の注意は全く薄らいでゐる。

これに反しユダヤ人の名は、特殊の意味を以てシベリア方面より輸入された。それはユダヤ人がマッソンなる祕密結社を組織して世界破壞の陰謀を企て、その恐るべき魔手が我が金甌無缺の帝國の上にも及んでゐるといふ說であつて、マッソンなる發音に『魔孫』なる漢字を充てはめることさへ流行した。元來我が國民はユダヤ人なる名を知らぬ譯でなかつたが、そんなに恐るべき陰謀民族であるとは大正八年頃まで全く知らなかつたのである。然るにその時分から間斷なく『猶太禍』であるとか、『猶太民族の世界的陰謀』であるとかいつた類似の書物が多數刊行せらるゝと共に、特にこの問題を限つて講演行脚する人も現はれ出で、過去十年間にユダヤ人は陰謀民族であるといふ觀念が殆ど全國の津々浦々にまで普及してしまつた。殊に昨年（昭和三年）九月、

司法省主催思想檢事講習會に於て陸軍少將四王天延孝氏の『ユダヤ人の世界赤化運動』なる一講座が正科目として開かれたるにより、一層ユダヤ禍說の眞なることを裏書したかの觀がある。最近數年間私は世界現勢と日本の地位に關し、殆ど地方出講を絕やしたことがないが、何處に行つてもユダヤ人の陰謀に關する質問を受けぬことはないほどである。よくこんなに根を張つたものと思はれるが、ユダヤ人は果してそれほど恐るべき民族であらうか。將たまた所謂ユダヤ人陰謀說は果してしかく眞を措くに足る說であらうか。これらの問題を解決するに先ち、ユダヤ人に關する一般的硏究が必要であるのである。

二　世界に於けるユダヤ人

ユダヤ人は古のヘブライ人又はイスラエル人であつて、西洋人種ではなく、むしろ東洋人種たるセム種に屬する。ユダヤ人は他のセム種たるバビロニア、アッシリア、フェニキア等の諸民族と共に西方アジアの古文明を形成してゐたが、その生活の本據はパレスタインに在つた。

彼等の歷史は舊約聖書の中にこれを窺ふことが出來るが、三千年前にはパレスタインの地に國家を建設してイスラエルの神を信じ、イスラエルの民たることを誇りとしてゐたのである。否彼

等の大部分は今日尚依然としてイスラエルの神を信じ、イスラエルの選民たることを誇りとし、イスラエルの國を建てんことを熱望已まざるものであつて、彼等の故郷たるパレスタインの聖地を囘復せんとする運動は、これをシオン山の名に因みてシオニズム(Zionism)と呼んでゐる。シオニズムは大戰前後を通じて世界の面に簇生した幾多の民族運動中、嶄然として特殊の地位を占めてゐるのである。

今日、全世界に散布してゐるユダヤ人の總人口は幾何であるか。ユダヤ人研究の一權威たるアルトール・ルッピン博士が一九一一年の調査によれば一千百五十五萬人であるとし、一九二〇年のユダヤ年鑑に徵すれば一千三百四十五萬人、更に一九二七年ではその數を增加して一千五百四十五萬人になつてゐる。

然らばその一千五百萬以上を有するユダヤ人は如何に分布してゐるか。大體ヨーロッパに一千一百萬、アメリカに三百五十萬、アジアに六十萬、アフリカに四十萬、濠洲その他に二三萬と見ることが出來る。大戰前まで世界に於て最大多數のユダヤ人を有つてゐたのはロシアであつた。ロシアには實に當時六百二十萬、卽ち世界總數の半數もゐたのである。然るに革命後の今日では二百六十萬に減少してゐる。これはポーランドが獨立したために、主としてその方へ持つて行か

れたからである。かくしてポーランドのユダヤ人人口は今日三百七十萬を算し、世界第一位を占むることゝなつた。北米合衆國は第二位を占めて三百三十萬、ニューヨークだけでも百五十萬人に上つてゐる。ロシアは大戰前の世界第一位から第三位に落ちてしまつた。

ポーランド、北米合衆國、ロシアの三國を除くと、あとはずつと落ちて百萬人以下である。即ちルーマニアが九十五萬、ドイツが五十四萬、ハンガリーが五十萬、チエツクが三十五萬、オーストリーが三十五萬、イギリスが三十萬、リスアニアが十六萬、フランスが十五萬、オランダが十一萬といふ順序である。アフリカではモロツコ、アビシニアを最多とし、何れも十萬以上。アジアでは肝腎のパレスタインに最近調査で十五萬人しか居ない。日本及び支那では精々二三千位なものであらう。

以上は人口順であるが、百分比を採つて見るとポーランドが一割一分五厘といふ最高位を占めてゐる。次はリスアニア、ハンガリー、ルーマニアといふ順序で、ロシアなどは遙かに落ちる。即ち百人中二人强といふ割合に過ぎない。

前記の數字はキリスト教徒との混血兒を含まざる純粹のユダヤ人のみであつて、若しこれを含むときは、ドイツのユダヤ人の如きは現今の約三倍たる百七十萬に上るといふことである。故に

同樣の比例を以てすれば、全世界に散在する所謂ユダヤ系の人口總數は四千五百萬にも達するが、そんな統計は他國で明かでなく、殊に東歐諸國のユダヤ人には雜婚同化が行はれなかつたから、やはり純粹ユダヤ人の總數約一千五百五十萬と見るのが妥當である。

三　ユダヤ國家の興亡

傳說によるに、ユダヤの祖先イスラエル人は紀元前二千年の頃、カルデアに生れたアブラハムの子孫であつて、後レバノン山の西カナーンの地に移つたのである。カナーンとは平原といふ意味で、今のパレスタインの平原を指すのである。それから一部の者は更に南下してエヂプトに移つたが、エヂプト國王から奴隷に落とされて虐待を蒙つた。このとき一大英雄モーゼがあり、エホバの神の命を奉じ、エヂプトに於ける百萬のイスラエル民族を引連れ、四十年の苦心努力の後、再び約束の地カナーンに復歸したのである。舊約『創世紀』に續く『出埃及記』(Exodus)は、即ちイスラエルの大衆がモーゼに率ゐられてエヂプトの苦境を脫し、カナーンの地に歸つた歷史を書いたものであつて、ユダヤ人の漂泊生活はすでにかく三千年以前から始まつてゐるのである。『出埃及記』に續く『利未記』『民數紀略』『申命記』等にはシイナ半島に於ける旅行記並に國家組

織等が載つてゐるが、今こゝに詳說する餘裕がない。而して今日彼等ユダヤ民族が再びパレスタインの聖地を囘復せんとする運動は、この『出埃及記』を三千年後に繰返さんとするものであつて、今昔に囘顧して史的意義の深遠なるものがある。

さて話は元に戻るが、カナーンに歸つたイスラエル民族は、大に民族統一の必要を感じ、サウロを立てゝ王となし、ヘブライ王國を建設した。これは紀元前一〇二五年頃の話である。この王國はダビデに至り、初めてエルサレムに都城を築き、四方を征服して領土は地中海岸よりエウフラチス河に達し、大に民俗を變更して國勢を張つた。その子ソロモンが大智者として豪奢な生活を營んだことは、『馬太傳』第六章にある有名なる一齣『ソロモンの榮華の極みの時にだも、その裝この花の一片に如かざりき』とあるに徵しても窺知される。然るにその相續者に至つて苛酷の政が繼續したので、紀元前九三〇年頃、北部の人民叛旗を飜へしてイスラエル國を建て、サマリアに都した。南部は依然エルサレムを都としてユダア國と呼んだ。後イスラエル國は先づアッシリアに亡ぼされ、次でユダヤ國も紀元前五八六年バビロニア王ネブカドネザルのために滅された。歷史に名高きエルサレムの沒落と豫言者エレミヤの悲哀はこの時のことである。

その後紀元前五三九年、ペルシヤのキロス大王バビロニアを討滅せるに當り、バビロンに捕虜

となつてゐたユダヤ人四萬二千人を解放してパレスタインの故地に歸らしめた。そこで彼等はエルサレムの都を再興し、時に或はペルシヤに附し、時に或はアレキサンダー大王に屈したりしてゐたが、紀元前一四一年にはシリアに抗爭して獨立國を形成した。紀元前六三年に至り、エルサレムを失ふてローマの屬國となつた。そして間もなく生れたのがキリストである。

紀元七〇年ユダヤはローマに謀叛したがため、ローマの將軍チトスの侵略するところとなつた。この時ユダヤ人の戰死者百萬人、捕虜となつて連れて行かれた者約十萬人であつたといふ。その後もユダヤの命脈は殘燭の如くに存在してゐたが、西暦一三二年パレスタインのユダヤ人は、時の法典博士(Rabbi)から救世主の稱號を受けたるバルコチバに指揮せられてローマに反抗し、一時は成功してエルサレムを解放し、神體の一部を回復したが、遂に優勢なるローマ軍のために擊破せられ、一三五年パレスタイン王國としての最後の止めを刺されてしまつた。キリスト教社會ではこのバルコチバを今猶僞豫言者と呼んでゐるが、かくしてユダヤ國が全く地上から影を沒してしまつたのは、實に今を去る一千七百九十四年前の出來事であつた。

四　豫言者エレミヤ

こゝで少しく豫言者エレミヤのことに及ばう。

初め紀元前五八八年、ユダヤ王セデキアはエヂプトの後援を頼み、シリアの諸國と同盟してバビロニア國に叛したが、エヂプトよりの援軍到らざるに先ち、早くもバビロニア國ネブカドネザルの大軍のため、エルサレムを包圍された。セデキア王及びその大臣等は豫言者エレミヤの言を用ゐず、孤城を守つてゐたが、城中の兵糧次第に盡きはて、終には子女を屠りて食ふこと三年、王の十一年四月九日さしものエルサレムにも沒落の日が來た。王は勢込んだバビロン軍の闖入を見てエヂプトに脫走を圖つたが、遂に捕へられて鐵鎖と桎梏とに繋がれ、ネブカドネザルの前に曳き出された。共に捕へられた王子や大臣は眼前で殺され、彼亦兩眼を抉ぐり拔かれて遠くバビロンに送られたのである。

それから約一ケ月後の五月七日はいよ〳〵歷史に名高きエルサレム最後の日であつた。勝ち誇れるバビロンの軍隊は城中に闖入し、老若男女を問はず大虐殺を行ひ、ユダヤ人が如何なることがあつても燒けぬと確信してゐたエホバの神殿に放火して、瞬時に烏有に歸せしめた。かくて火は四方に延燒し、逃げ後れた老幼婦女はバビロン軍に殺戮せられ、阿鼻叫喚の聲は物凄く天に響き、炎々たる焰は怪しくも黑煙を揚げてエルサレムの市中を甜め廻はした。生殘せるユダヤ人が

悉く捕虜として曳かれて行つた中に、エレミヤのみは途中から赦されてエルサレムの郊外の家に歸つた。

あゝ、哀しいかな

古昔は人のみちくたりし此の都邑(みやこ)

今は凄(さび)しき様にて座し寡婦の如くなれり

嗟、もろくの民の中にて大いなりしもの

もろくの州の中に女王たりし者

いまはかへつて貢をいるゝ者となりぬ

（舊約エレミヤ哀歌）

とは國亡び民失せたるエルサレムの廢址に立つて、エレミヤの誦した『哀歌』である。ユダヤ人は今日でも金曜日毎にエルサレムの敗礎に接吻し、この哀歌の數節を唱へてゐるといふ。

エレミヤはその後エヂプトに移つてからも、神の外何物をも恐れず豫言者としての生活を續けてゐたが、遂にその消息を絶つてしまつた。傳説には殺害されたといふことである。かくてエレミヤ四十一年の生涯は終を告げたが、彼の輝ける大愛の人格は今猶聖書の上に生きてゐるので

ある。

五　ユダヤ教

セム種は世界の三大宗教を生んだ。ユダヤ教、キリスト教、及び囘々教がこれである。その宗祖たるユダヤ人モーゼ並にキリスト、アラビア人たるマホメツドの三者は卽ちセム種族である。同人種であつてもその宗派的分裂によつて軋轢してゐることは何處の國でも同樣である。ユダヤ教徒たるユダヤ人が多年キリスト教徒たるヨーロッパ人や、囘々教徒たるアラビヤ人、北部アフリカ人等から迫害されて來たことは必しも深く驚くには當らない。

然しユダヤ教とキリスト教との關係に就ては、もう少し詳しい說明を必要とする。それはキリストがユダヤ人であり、キリスト教がユダヤ教の新派とも稱すべきに拘らず、何が故にユダヤ人はキリスト教徒から迫害さるゝかの疑問である。

ユダヤ教もキリスト教も一神教であり、同一の造物主を信じ、同一のモーゼの戒律を守つてゐるが、ユダヤ教が差別偏愛的であるに反し、キリスト教は平等博愛的である。元來ヘブライ人は嚴峻なる家長制度の中に生活を繼續し、眼界狹隘であつて自負心強く、神は自分等のみに特別の

恩寵を垂れ給ふものと信じて來た。自ら神の選民であると稱してゐるのはその故である。

これに反してキリストは博愛を說き、すべての人の上に神の榮光の降りまさんことを祈つた。これ自ら神の選民と思惟せるユダヤ人の承服せざりしところである。そこでユダヤ人はキリストがユダヤ王たらんとすることを譏し、ローマの官吏に訴へて遂に磔刑に處せしめた。後世キリスト教徒がユダヤ人を不倶戴天の敵の如く思ふのは、大にこの宗祖を死刑にしたことが與つてゐる。況してユダヤ人が亡國以來、キリスト教徒の中に漂泊して行つたのであるから、特殊民としての差別と猜視と迫害とを受けて來たことは、蓋し已むを得なかつたことかも知れない。

キリストは實にかくの如く悲慘なる最後を遂げたけれども、その高弟等は宗祖の遺志を繼承し、『汝等萬國に行きてこの福音を宣べ傳へよ』といふ遺言を服膺して、弘く各地に布教を試みた。尋でパウロが挺身海を渡つてギリシヤ、ローマ地方に傳道するに至り、キリスト教は大にローマの版圖に廣がつたが、遂にローマ國教と衝突するに至り、政府より國教を蠱毒し、國家の安寧秩序を紊るものとして禁止の厄に會した。然るに紀元第四世紀コンスタンチヌス大帝の時に至り、有名なるミラノ勅令出で、キリスト教を以てローマの國教同等のものとし、大帝自らその教に歸依するに及び、ユダヤ人の上に大なる壓迫の手が延びて行つた。

六　ユダヤ人迫害と排セム主義

かくて地上に國家を有せざる『ユダヤ人の離散（ディアスポーラ）』生活（Diaspora）が開始せられた。西ゴート王國では國王がカソリック敎に改宗するに及び、ユダヤ人の權利に制限を加へ、次で六九五年國內のユダヤ敎徒を捕縛し、奴隷として賣却すべき命令を出だすや、ユダヤ人は多く對岸のアフリカに逃れ、サラセンの勇將ムサを勸誘して七一一年イスパニヤを征服せしめた。今日のジブラルタルの名は當時のサラセンの勇將タリクの名より來たものである。然かもローマ法王の勢力次第に西歐に增大するに及び、彼等ユダヤ人は到るところに迫害され、或るところでは特別の帽子を冠らせて普通民と區別されたり、又居住地を限定して普通民との雜居を禁止された。かくて中世紀を通じて到るところ『ユダヤ人の特別居住地（ゲットー）』（Ghetto）が出來たが、一三四八――四九年に亘り、フランス、ドイツにペストの流行するや、これユダヤ人が井戸に毒を投入したためであるといふ流言行はれ、甚しき迫害を蒙つた。それでも彼等は西歐に伸びて行き、諸國の繁榮を助けたのである。蓋し中世紀はヨーロッパの封建時代であつて、一般に敬神尚武の念強く、僧侶と武士とが幅を利かせてゐたので、ユダヤ人は自ら經濟方面に走らざるを得なかつた。ユダヤ人の金錢

慾がます〳〵増大し來りしことは已むを得ざるところである。

一四九二年コロンバスがアメリカを發見せし年、イスパニア政府はユダヤ人追放令を出して三十萬以上のユダヤ人を國外に放逐した。そのコロンバスも亦ユダヤ人であつたと言はれてゐるが、そは兎に角イスパニアより放逐されたるユダヤ人は家を喪ひ、財を無くし、蹌踉として北アフリカや東歐及び北歐方面へ漂泊した。これより先き中歐諸國の中では保護税を徵收してユダヤ人を保護したものもあつたが、後には税のみを徵して保護しなくなり、又國王は諸侯や都市に保護税徵收權を賞與したり、又は質入れしたりした。一三五六年ボヘミア王カロロ四世は黄金文書を發布して選擧侯の權利を認識したが、その中にユダヤ人課税權を國王の手より選擧侯に移すことの一項があつたのはその著例である。かくてユダヤ人は此處にも居たゝまらず、東方のポーランドに移住して各地に强固なる部落を形成し、ドイツ語に近きイッデッシユ語（Yiddish）を使用し、その特有の社會制度を樹立し、法典タルムード（Talmud）を基本として獨立の教育を行つた。然るにポーランド分割以来（一七七二年——一七九五年）彼等は最も悲慘なるドン底に沈淪したが、猶且つ迫害に堪へ、逆境と戰ひつゝ、更にロシア及びルーマニア方面に伸びて行つた。

あいつは侮辱して置きながら、五十萬兩からの損もさせたのだ。俺が損をすれば笑ひ、俺が儲

ければ嘲り、俺の民族をば輕蔑し、俺の商賣を邪魔し、俺の友達に水をさし、俺の敵をそゝのかしたのだ。その理由は何だ。俺がユダヤ人だからだ。ユダヤ人には眼がないのか?、ユダヤ人には手がないのか?、鼻や耳や口や五體や感覺や情慾はないのか?、ユダヤ人はキリスト信者と同じものを食べないのか?同じ刄物で傷けられないのか?同じ病氣にはかゝらないのか?同じ手あてでは癒らないのか?夏や冬にはキリスト信者と同じやうに暑かつたり、寒かつたりはしないのか?俺たちはくすぐられても笑はないのか?俺たちは毒を盛られても死なないのか?俺たちはひどい目にあはされても復讐はしないのか?

沙翁（一五六四――一六一六年）の代表作『ヴェニスの商人』を讀まんものは、何人と雖もこの作の主人公シャイロックがヴェニス街上、サラニオ、サラニノ兩人に向つて告ぐる言葉に興奮を感ずるであらう。沙翁がこの作發表當時イギリスではユダヤ人に對する反感が異常に昂まつてゐた。それは一五九四年ロンドンに於て著名な醫師であつたユダヤ人ロデリゴ・ロペスが、エリザベス女皇を弑せんとしたこと發覺されて、死刑に處せられたからである。沙翁がこの事件を利用して書いたものであるかどうかは別として、後にはユダヤ人デスレリーを總理大臣としたほどのイギリスにあつても、如何に多難なる徑路を履んで來たかゞ察せられる。

ロシアに於けるユダヤ人の迫害は酷烈の最も甚しいものであつた。ロマノフ朝時代には六百二十萬のユダヤ人が居住してゐたが、その地域は主としてバルチック海沿岸と黒海とに挾まれた特別居住地域、卽ち舊ロシア領ポーランドの十縣、リスアニアの十五縣、白ロシア地方、西南ロシア地方の廣袤三十六萬二千平方哩に亘つてゐた。六百二十萬の人口は全國人口の四分六厘にしか當らなかつたが、ヨーロッパ・ロシアの五分の一にしか當らぬ特別居住地に九割三分九厘のユダヤ人が集中したのである。殊にユダヤ人の六分の五は都市に集中し、ベルディチエフ市の如きは五萬三千の人口中、四萬七千人までユダヤ人で占めてゐた。この外一萬人以上のユダヤ人が居住する都會は四十八市に達し、ワルシヤウには三十萬、オデッサには十七萬、ロッスには九萬人を算した。

ロシアに於けるユダヤ人居住の制限、移轉自由の制限法が施かれたのは、一七六九年カタリナ二世の頃である。次で一八三五年ニコラス一世の頃この法令が改定せられ、一八八二年からは村落居住農業從事が禁ぜられた。これはアレキサンドル三世が先帝二世の兇變にユダヤ人連の累せることの風評を信じて益々憎惡の念を高め、イグナチエフの意見に從つた結果であつて、有名なる五月法律卽ちこれである。尋でユダヤ人子弟の入學率も一八八六年以來限定せられ、無制限に

入學することが出來ない。卽ち中學及び專門學校に在りては特別居住地域一割、其他五分、ペトロクラード及びモスクワ三分、大學は同五分、カザン、ハリコフ、ドルパート、トムスク一割、ワルシヤウ、キエフ、オデツサ一割五分の割合であつた。それ故中學以上の學校入學に就てはユダヤ人同志の間に激烈なる競爭起り、資財ある者はドイツ、フランス等に留學せねばならなかつた。ルーマニアに於てもユダヤ人に對し外國の保護を受けざる外國人として居住、職業その他一切の經濟的社會的活動に非常なる制限を加へた。これがために一八八一年より一九〇八年にかけて東歐ユダヤ人の海外移住者は實に二百萬人の多きに上つた。これらのユダヤ人の大部分は米國を指して落着いたのである。

ロシアに於ける『ユダヤ人虐殺(バグロム)』(Pogrom)の最も顯著なるものはイバン四世(一五三三年—一六〇五年)が盛にその領土を擴張して居つたとき、部下の將軍からユダヤ人を如何に扱ふべきかと伺を立てたに對し、『速かに洗禮を施すか、或は河中に溺死せしめよ』との命令を發し、一五六三年數萬のユダヤ人を虐殺したことである。こゝに於て多數のユダヤ人は國外に移住すると共に、他面に於て改宗する者も出來た。改宗したり、雜婚したりしたものは比較的安易な生活を營むことが出來たが、東歐就中ポーランド、ガリシア邊りに在つたユダヤ人は、他の民族よりの壓

迫が烈しければ烈しい丈け、ユダヤ人としての特質を維持し、三千年來のユダヤ教を確持し、教育も單にユダヤ教とヘブライの事柄のみを兒童に敎ゆるチエデル（Cheder）卽ち寺小屋同然のものを續けて來たから雜婚率も改宗率も殆ど言ふに足らなかつた。チエデルとはヘブライ語の『室』を意味するものである。

十九世紀末ロシアに於ける專制政治の權化として聞えしポベドノスチエフは、かつてユダヤ人問題を論じて『ロシアに於けるユダヤ人問題は、その三分の一が死絶し、三分の一を追放し、三分の一を改宗せしめてロシア人を同化せしめない限り、解決することは出來ない』と叫んだ。彼等專制政治家は十九世紀のロシア革命運動をユダヤ人陰謀の結果なりとし、キリスト復活祭の夕、ユダヤ人がキリスト敎徒の血を雜ぜて復活祭用のパンを製造せりとの流言行はれし機に乘じ、一八八一年より八三年にかけて盛に虐殺を行ひ、南露やポーランドにかけて二百二十四回に亘るパグロムあり、死者七萬五千、財貨の損失百十萬ルーブルと算せられた。又當時の內務大臣たりしプレーヴエの如きも有名なるユダヤ人嫌ひで盛にユダヤ人を迫害し、爲めに到るところにパグロムが行はれた。一九〇三年キシネフ地方に於ける虐殺の如きも、五十人が殺され五百人が傷けられた。又一九〇五年日露戰爭末期に於ける大革命運動起るや、その年十月の僅か一ケ月間にパグ

ロム七百二十五囘、死傷者二十萬人、損害六千三百萬ルーブルといふ巨額に上つた。更にバグロムは翌年九月に至るまで繼續し、大小合せて一千四百囘に達してゐる。これらの虐殺は文明國民の一大汚點としてヨーロッパ諸國の非難を惹起し、フランスに於てウヰッテの運動せる外債募集談判に大影響を及ぼしたほどである。ロシア新首相ストリピン卽ち政府の政策を發表し、革命運動を抑止すると共に、一方ユダヤ人に對する所見を左の如く述べてゐる。

人種問題は現時我が國内政の重要なる問題である。ポーランド人は寧ろ調和し易いが、ユダヤ人問題は政府の意見のみで決することは出來ない。議會の公論に決する外はないのである。全國のユダヤ人に、ロシヤ人と等しき土地所有權と居住權とを許すことは、事實上國家の危險を釀すに至ることすでに既往歷史の證明するところである。故にこの問題は愼重なる研究を要する。けれども忠實なる臣民に對しては、たとへユダヤ人と雖も之に値すべき正當なる權利を許與すべきことは、主義に於て認めなければならぬ。

云々。ストリピンは日露戰後の經營に努力せしロシア官僚政治家の異彩であつた。又當時クルロフ將軍の如きがあつて、熱心にユダヤ人に對する差別待遇撤廢を說いたけれども、宮廷を中心とする頑迷者流の容るゝところとならなかつた。何となればユダヤ一神教を奉ずるユダヤ人を解放

して、之を水準線以上に待遇することは、正教々主たるツァールの神聖を冒瀆する所以であると思惟したからである。

かくてユダヤ人排斥を事とする排セム主義(Anti-Semitism)の怒濤は、ロシアより全ヨーロッパに打ち返へし、一千萬の天涯無辜の民はます〳〵寄る邊なき波浪の上に飜弄さるゝに至つた。ユダヤ人に何の罪科がある。罪あるといへばそれはたゞ『國家』を持たなかつたことである。然り國家を有たざる『喪家の狗』として、ユダヤ人は世界の特殊民となつたのである。曾ては神の選民たり、今でも彼等の多數は之を信じてゐるであらうが、事實に於ては神より見離されたる賤民として世界に漂泊した。

七　ドレフユース大尉事件

筆者はこれより少しく、ユダヤ人迫害の歴史中、近代に於て最も劇的興趣を喚びしドレフユース大尉事件に就き語らう。これはフランスに起つた事件であつて、フランス内部の政爭と絡み合ひ、一時世界の耳目を聳動せしめたものである。

これより先き、フランス國民の間には、パナマ運河疑獄事件の裏面にユダヤ人が潜んでゐたと

いふ廉で大にユダヤ人排斥熱を高めたが、大統領ペリエ時代(一八九四年――一八九五年)に、勤勉剛直の聞え高かつたアルサス出身ユダヤ人ドレフユース大尉が、同輩から賣國奴であるとの讒訴を蒙り、一八九四年軍法會議の結果、有罪の宣告を受け、遠く南米グィアナに流謫さるゝこととなつた。卽ち彼は僞文書を造り、ドイツに軍事の祕密を賣つたとの嫌疑を受けたものである。當時誰もがドレフユース大尉の犯罪を事實なりと確信してゐたが、ピカール大佐出でゝ參謀本部の情報局長たるに及び、この事件に疑を抱き、徹底的探索に從事した結果、それはエステラージーなる少將が、ユダヤ排斥の氣勢に乘じて虛構せし事實なることを發見するに至つた。一方外にありては有名なる文豪ゾラ、政治家クレマンソウ等の人々が、人道の大義より極力ドレフユース大尉の寃罪を主張し、物論囂々として人心一時に沸騰したのである。當時勢を失し居たるフランス王黨は、國民黨排ユダヤ黨等と結び、この事件を利用して共和政體を混亂せしめやうと企てたから、共和黨は一致して之に應戰することに努め、遂に一八九九年大審院をして軍法會議に再審を命ぜしむることゝなつた。こゝに於て軍法會議はブルターニユ州レンヌに開かれ、審議の結果、刑罰を輕減してドレフユースを五ケ年の禁錮としたが、かねてその無罪を信じて居たる新任大統領ルーベー氏は之を特赦し、漸くにしてフランスの危機を救ふことが出來た。その後一九〇六年

に至り、政府は更にドレフユースに無罪の宣告を與へ、大尉の軍職に復せしめたが、ユダヤ人排斥の例證として特筆大書すべき價値があるのである。かのゾラの遺骸がフランス・パンテオンに埋葬さるゝ名譽を得たのも、彼が文藝家としての功績によるのでなく、實にこのドレフユース事件に關して國家に貢献するところ多かつたからである。

實に當時に於けるフランスのユダヤ人排斥熱は、共和黨に反對せる舊教徒と合體し、その勢猛烈にして當るべからざるものがあつた。就中リブル・パロール新聞を司宰してゐたエドワール・ドリユモンの如き、實にユダヤ人膺懲を以て自己の生命なりとし、毒筆を振つて一世を疑惑に陷らしめた。彼はユダヤ人を目して『巨大なる章魚より分出する大小强弱無數の觸鬚である』とし、『フランス人は絕えずユダヤ人によりて生血を吸はれ、その品性を破壞し、道德の根本たる要素を枯渇してしまつた』と言ひ、ドレフユース事件起るや、彼を庇護する態度に出でた者はもとより、公平に虛實を調査せよと論じたる人々に對してまで、狂犬の如く漫罵と毒筆とを逞くした。而してドリユモンの相棒となつて、同じく互に相劣らざるべく競ふた者に、アンリー・ロシユフオールがある。この人はアントランシジユアン紙の主筆であつて、罵詈攻擊文體の最も優れた人であつた。

今日のフランス人は往年のドレフユース事件を一大恥辱なりとし、多く語るを好まぬ風がある。

八　ユダヤ人の世界貢獻

往昔燦爛たる文明を地上に建設したエヂプト人、ギリシヤ人、ペルシヤ人、ローマ人等の末裔悉く今日その跡を留めて居らぬに拘らず、ユダヤ人のみが二千年來その特質を磨滅せずして、民族として依然優秀なる地歩を占めてゐるのは驚嘆すべき事實である。これはたしかにユダヤ人の選民思想、卽ちイスラエル人のみが神から選ばれたる民族であるといふ思想から來てゐるのである。然かし一面から言へばかゝる選民思想が昔日のユダヤを滅ぼし、今日の漂泊民族たらしめた大原因となつたのである。

先年海老名彈正氏は雜誌『新人』誌上、ユダヤ人は世界最優秀の民族であると論じて物議を惹起したことがあり、內村鑑三氏も亦『基督再臨問題講演』中に於て同樣に論ぜられたが、見方によつては左樣であるかも知れない。第一にユダヤ人の中からキリストを出してゐる。『世界を震撼せる孤僧』マルチン・ルーテルは、キリストも亦ユダヤ人であると警告して、ユダヤ人迫害の所

由なきことを說いたけれども、馬耳東風に遇せられたのである。

最大哲人級の一人スピノーザもユダヤ人であれば、詩人ハイネ、思想家モセス・メンデルスゾーン、藝術家リーベルマン、ルービンスタイン、音樂家フエリックス・メンデルスゾーン、マイエルベール、ワグネルもユダヤ人である。イギリスの大宰相としてのヂスレリー（ビコンスフイールド卿）イタリーの政治家としてのルツアツテ、ドイツ帝國議會最初の議長ジムゾンもユダヤ人であれば、社會主義の巨人フエルヂナンド・ラサール、カール・マルクスも亦ユダヤ人である。電氣學者ヘルツ、エヂソン、飛行機創造のリリエンタール、物理學者アインスタイン、化學者ワイヅマン、哲學者ベルグソン、法醫學者ロンブロゾー、探檢家ナンセン、ヘデン、通信家ロイテル、エスペラント創造者ザメンホフ、財界の大立者ロートシルト（ロスチヤイルド）シツフ等の人々は皆ユダヤ人である。トロツキー、ジノヴイエフ、ラデツク、カーメネフ等今その多くは失脚したが、過ぐるロシア革命の主腦部の中に、多くのユダヤ人があつたことは、世人の記憶に新たなるところであらう。

近代ヨーロッパの諸國民は、盛にユダヤ人を迫害したけれども、中にはユダヤ人の富豪から援助せられ、大にその富の恩惠に浴してゐる者さへある。オランダ、イギリス、フランス等の爲政

者が如何にユダヤ人富豪を利用することによりて多大なる便宜と繁榮とを齎らせしかは思ひ半に過ぐるものがある。アメリカ合衆國の獨立にはユダヤ人ロバート・モーリスが出資し、普墺戰爭にはビスマークのためにユダヤ人の銀行家ブライヒロエデルが援助し、日露戰爭にはユダヤ人シツフが日本の軍事公債に應募して、ユダヤ人の仇敵たるロマノフ・ロシアの大敗に溜飲を下げた。ロシアはかつてアレキサンドル三世の時公債募集をドイツのロートシルド家に依頼したが、ユダヤ人大虐殺のことがあつて拒絕された。そこで露帝は河岸をかへてフランス財團に依囑することとなつた。露佛同盟はこゝに胚胎し、フランスは遂にロシアに八十億ルーブルの巨額をロシアに貸與して、後世農勞政府から踏み倒される原因を成したのである。

ユダヤ人がヨーロッパの中世紀時代、僧侶と貴族と農民との外に、中產商業階級の無かつたとき、各國に散在して獨特の才能を發揮し、爾來銀行に、爲替に、手形裏書に、株式組織に、近代商業經營の範を開き、資本主義樹立に大功を樹てたことはいふまでもない。

ユダヤ人が又近世國家の植民政策に貢献せし事例も顯著である。ユダヤ人コロンバスはアメリカ大陸を發見したが、その數回に亘つた航海の費用は實にユダヤ人の後援によつたのである。イスパニア、ホルトガル兩國の繁榮がオランダ、フランス等に移るに至つたのは、兩國に於てユダ

ヤ人を放逐したからであると言はれ、この放逐が今少し早かつたならば或はコロンブスのアメリカ發見といふが如き歴史的區劃を發生し得なかつたかも知れないのである。かのゾムバルトがアメリカの發見及び繁榮は主としてユダヤ人の力であることを述べ、アメリカはその何れを取るも之を『ユダヤ人の地』と稱するを得べしと言つてゐるのは強ち理由なきことではない。ユダヤ人はまたオランダ、イギリスの海外拓殖事業を助け、インド、アフリカ、濠洲等到るところの植民地建設に盡力したのである。

九　ユダヤ民族運動

ユダヤ人がパレスタインの地に植民事業を創始したのは十九世紀の中葉であつたが、間もなくこの地の囘復を目標とするシオニズムの興起するに會した。

これより先き十九世紀の初頭に於てパレスタインに住せるユダヤ人は、その數八千乃至一萬であつたが、これはヨーロッパ諸國のユダヤ人と何等の交渉を有するものでなかつた。ヨーロッパユダヤ人がパレスタインに着目したのはイギリスのサー・モーゼス・モントフィオルを先驅者となし、彼は一八五四年時のトルコ皇帝に謁し、且つ駐土英國大使ストラツドフオード・ド・レッド

クリフ卿と會見してパレスタインに於ける土地購入の件を商議するところあつた。後一八七〇年アドルフ・クレミユの首唱に成り、パリに本部を有する萬國ィスラエル同盟はパレスタインのヤツファに一の農學校を設立し、引續き一の農業植民地を創設したが、更に十年にしてロシア及びルーマニアに於て迫害を受けたるユダヤ人は、この地に安住の居所を求めんとして移住し來り、一の植民地を開設した。この事業にはロートシルド家が大に盡力し、フランスより移植したる一大葡萄園を經營し、又數個の移民部落を建設したが、販路の關係上葡萄栽培は一大失敗に歸し、後ユダヤ移民協會と協力して、オレーブ樹、扁桃樹、柑橘樹、棉花を栽培し、その成績惡しからず、爲めに南部アラビアよりユダヤ人の轉住せるを初め、世界各地に於けるユダヤ人はシオニズム運動のために覺醒せられて續々パレスタイン移住を試み、ユダヤ、サマリア、ガラリア、トランスジヨルダニア等の諸地方に於ける經濟的發展は良好なる狀態を呈した。

一方ユダヤ民族主義の濫觴は、一八六二年ドイツユダヤ人モーゼス・ヘッスが『ローマとエルサレム』を著はしパレスタインの囘復及び建設計畫を發表したことである。次に一八七三年ロシア・ユダヤ人スモレンスキーは『永遠の民』を著はして、ユダヤ建設の永遠的理想を表徵するにシオン山の名を取りて『シオン』と命名し、又一八八一年同レオ・ピンスカーはロシアに於ける

ユダヤ人大虐殺に感奮して『自力解放』を著はし、如何にしても自己の國土を有せざるべからずとしてロシア・ユダヤ人を糾合し、シオン愛慕園を組織して自ら會長となり、大にユダヤ民族主義を鼓吹するところあつた。而して今日に於けるシオニズムの創立者として、この運動をして最も組織的に意義あらしめたものは、實にオーストリー・ユダヤ人テオドール・ヘルツルその人である。

ヘルツルは一八六〇年ブタペストに生れ、ウヰーン大學卒業後同市發行のノイエ・フライエ・プレッス新聞社に入り、通信員としてフランスに行つたのを振出しとして、後ちユダヤ民族主義宣傳の中央機關たる『世界』を創刊し、第一流の政論家として錚々の名を擧げたのである。氏がパリに在つたときドレフユース大尉事件起り、これを目擊した氏は遂に一生をこの運動のために投ずるやうになつた。この事件を導火線としてユダヤ人排斥運動頻發し、ゾラ、クレマンソウ等の巨人敢然これに反抗して起つや、多感熱血なる氏はこの狀に痛憤措く能はず、一八九六年『ユダヤ國』を著はしてユダヤ民族主義を鼓吹し、翌年八月スイスのバーゼルに第一囘の世界ユダヤ人大會を開き、所謂『バーゼル案』を決議した。その內容は凡そ左の四ケ條である。

シオニズムはユダヤ民族のために、公法によつて確保せらるゝ故國をパレスタインに於て建設

するを以て目的とす。大會はこの目的を遂行するために左の方法を講究す。

一、適宜の手段によつてユダヤ人のパレスタインに於ける農業的並に工業的移住を増進せしむること。

二、各國の法律に準據し、適宜地方的並に國際的機關を組織して、全ユダヤ人の糾合を實現すること。

三ユダヤ人の民族的感情並に民族的意識を養成すること。

四、必要の場合に於てシオニズムの目的を達するために、政府の同意を得べき豫備行動を採ること。

かくてパレスタイン囘復を目的とするユダヤ人の協會が世界の各地に設立せられ、ユダヤ移民トラスト、ユダヤ人土地購買財團等も逐次成立し、遂に世界シオニスト協會の創立を見、ヘルツルの大業漸くその緒に就いたが、一九〇四年不幸にして病を得、ウィーンに於て逝去した。彼の葬儀行はるゝや、一萬人のユダヤ人はこれに參列して哀悼の意を表し、又二萬株の橄欖樹をパレスタインの史蹟に植ゑて、長く後世に記念すべきを決議した。

かくてユダヤ民族運動は十年の蟄伏を餘儀なくせられたが、たまたまヨーロッパ大戰の勃發と、

運動の中心人物として擡頭したるチェイム・ワイヅマン博士等の書策よろしきを得て、遂に今日に漕付けるやうになつた。卽ち一九一七年十一月、イギリスがその敵國の領土であり、且つドイツが東方政策の圏内に在るエルサレムを攻陷すべき作戰を立てゝるたとき、ユダヤ民族主義者はこれと策應してユダヤ建國の旨を提言したのである。イギリスよりすれば是れ一にはパレスタインよりドイツ勢力を驅逐すると同時に、二には今日ユダヤ人の歡心を買つて置くことは、戰後の創痍囘復の場合、彼等の金力に賴むべき好個の機會であつた。故にイギリスは大にこれを喜び、同月二日外相バルフォーア卿は、

イギリス政府はユダヤ人の本國をパレスタインに建設することを承認し、且つこの目的を貫徹せしむるために助力を與ふべし。但しそれがためにパレスタインに現住するユダヤ人以外の集團の市民權を侵害し、その宗教上の權利を犯し、又は他國在住のユダヤ人の現に享有せる權利を侵し、その政治上の地位を害ふが如き何事をも爲すものに非ることを明白に諒解されんことを望む。

云々との宣言をロートシルド男に送附し、且つ普くシオニズムの人々にこの旨知照せられんことを聲明した。世に有名なるバルフォーア宣言とは卽ちこれである。

大國の野心のために、ユダヤ國家は譯もなく建設された。世界に於けるユダヤ人はこの日を以て建國記念日として歡呼の聲を揚げた。越えて一九二〇年四月二十五日、イタリーのサン・レモに催ふされた對土聯合國會議は、パレスタインにユダヤ國を建設すべき目的を以て、同地方をイギリスの委任統治領と決定した。ワイヅマン博士はこの年に於て世界シオニスト協會會長に推され、聯合國との間に巧妙なる折衝を累ねて着々建國の事に努力したのである。就中、從來最も多くユダヤ人を迫害してゐたポーランドが、新に獨立したに就ては、ポーランドに在るユダヤ人に對しても、他國人同樣の待遇を與ふべき旨、ポーランドをして承認せしめたことなどは、博士の大なる功績であつた。

一〇　ユダヤ建國の惱み

ヘブライ文化をパレスタインの地に再建せんとするユダヤ人の光明は、ヘブライ大學の建設となり、その起工式が一九一八年七月に擧げられた。場所はスコープス山上景勝の地にあり、エルサレム市街、ヨルダン流域、死海等を俯瞰することが出來るほどである。バルフォーア氏も亦この起工式に列して一場の演說を試みた。こんな調子で行けば萬事好都合で進むべしと思はれた。

然るに今やこゝに一の大難題が残され、ワイツマン博士等折角の努力も、或は槿花一朝の夢に終るに非ずやと懸念さるゝやうになつた。それは疑もなくその後に於けるイギリス政界の變化並にパレスタイン地方の状況である。

初めユダヤ建國のことに決するや、全世界に亘るユダヤ民族主義者は、何れも爭つて資金を醵出するに努め、殊に日露戰爭當時我國軍費の巨額を引受けたシツフ氏の如きは、最も熱心なる主張者且つ實行家として、米國に於て盛に活動したのである。然るにユダヤ人の中には、夙にバルフォーア宣言の何等信頼すべきものにあらざるを看破し、自國の形勢非なるときには頻りに秋波をユダヤ人に送つても、すでにドイツ驅逐の目的を遂げたる曉に於ては、イギリスは到底曩日の聲明を實行すべき誠意を有たぬ國であると唱へてゐた。果然その後の形勢はこの論者の說くが如き方向に進みつゝある。例へば近くエルサレムに駐在せるドム少將が多年に亘りてユダヤ人を迫害せしといふ廉を以て、ユダヤ人はこれをイギリス本國政府に訴へ、その懲戒を請願したにも拘らず、イギリスは却てドム少將に恩賞を與へたために、ユダヤ人の對英反感が高調しつゝあるが如き卽ちそれである。

然し乍ら、かくの如きユダヤ建國の惱みは、强ち理由のないことではない。何となればパレス

タインの地は、往昔少くとも一千萬の人口を抱擁した時代があつたかも知れぬが、今日では面積僅に一萬方哩、人口八十五萬を有するに過ぎない。然かもこの內、回教徒たるアラビア人が六十萬を占め、又キリスト教徒たるヨーロッパ人は十萬人を算し、ユダヤ人は僅に十五萬人が居住するのみである。故に今假りにこれ等アラビア人とキリスト教徒とを全部驅逐して、新に世界からユダヤ人を呼びよせても、精々二百萬以上を容るゝことが出來ぬ。それ以上の人口を容るべくパレスタインの地は今日餘りに瘠せてゐる。況んや回教徒やキリスト教徒の市民權並に宗教的權利を侵害せずとはバルフォーア宣言の嚴に聲明するところである。更にこの地がユダヤ人に取て聖地であると同樣に、回教徒の聖地でもあり、キリスト教徒の聖地でもある。これ等非ユダヤ人はパレスタインにこびり付いてゐるのである。然るに國家なきユダヤ人が突如として乘込んで來て、ユダヤ人の國家を建設し、イギリス亦動もすればこの聲明を裏切るやうな政策を採るに於ては、アラビア人でもキリスト教徒でも承知が出來ないのである。現にバルフォーア宣言がユダヤ人に偏愛するとの非難攻擊に堪へず、時の植民大臣チャーチル氏は窮餘ヨルダン河の東部に位するトランスジョルダニア地方をアラビア人に割讓し、彼等の統治に任かせたほどであつた。さればこれ等犬猿啻ならざる三民族が盥のやうな狹小の土地に相爭ふことは、ユダヤ民族建國運動に取

つて最大の障害であらねばならぬ。

一九二二年の國際聯盟總會はパレスタインの地を擧げてイギリスの委任統治領と決定した。トランスジョルダニア亦その國財政紊亂の結果翌年再びパレスタインに併合された。かくてユダヤ建國運動はイギリスの傘下に在つて生育するより致し方も無くなかつたが、イギリスとしてもキリスト敎國民よりの非難攻擊絕えざる點より、今やこれを持て餘ましの氣味に見える。それと同時にユダヤ人自身すら建國の將來に就ては大なる疑雲に包まれてゐる。何となれば建國を耳にして新に渡來せしユダヤ人は殆ど全部商工業者であつて農業植民ではない。然かもパレスタインには鐵、石炭、棉花、木材等を產しないから大產業を興すことが出來ない。そこで折角資財の全部を擧げて渡來したユダヤ人も、豫想を裏切られ再び外國に歸還する者も出で來た。一九一九年より二六年に至る八年間に、パレスタインに移住したユダヤ人は總數九萬一千六百人に上つてゐるが、出て行つた者も亦近時每年多數を示し、一九二三年には三千人、二四年には一千人、二五年には二千人に達した。されば今日ではシオニストといへば、餘計の金をパレスタインに投ずる物好きとでもいふべきユダヤ人の如く觀察さるゝに至つた。されば世にはパレスタインの地を以て『世界の二〇三高地』としての形勝、或は『世界の臍』としての中心の如く考ふる人もあるが、

事實は肝腎のユダヤ人すら、その建國を至難とするが如き窮地にあるのであつて、二十世紀の『出埃及』はモーゼに率ゐられたる時代よりも一層の刻苦精勵を要するものと見ねばならぬ。

二　ソヴエト・ロシアに於けるユダヤ人

一九一七年レーニンのロシア革命によつて、壓迫されたる諸民族の解放を見た。そはボルセウイキの戰術であつたと否とに拘らず、大膽に異民族が解放されたことは事實である。ロシアの社會民主黨の人々が祖師と仰ぐカールマルクスはユダヤ人であつた。而してロシアに於けるユダヤ人は近世に於て帝制政府から極度の壓迫を受けたのであるから、彼等の中からマルクスの理論に走り、ロシア革命運動に參加せしものあるは敢て說明の要なきほどである。それ故レーニンの革命成功するや、多くのユダヤ人は勞農政權の中へ入つて行つた。然かしそは飽くまでも『多く』であつて、『大部分』といふ意味ではない。勞農政權の大部分は依然としてロシア國民中最大多數を占むるスラヴ人であつたのである。彼等の頭目としてレーニンが立ちしことは、彼の非凡なる革命家としての素質を具備せしことにあつたとはいへ、一面に於て彼がたしかにユダヤ人でなかつたからであるといひ得る。若し彼がユダヤ人であつたならば如何であらう。一時レーニンと相

並んだトロツキーも、今は非凡の天才を施すの餘地でなく、中央アジアの僻陬に流された揚句には、遂にトルコへ放逐されたことから思ひ合せても、容易に首肯することが出來るのである。レーニンの後にルイコフがソヴエト聯邦人民委員會議長の席に就いたのは、單に彼が重厚なる資質を有せる政治家なるに止まらず、彼が純然たるロシア人であつたからである。

大戰前ロシヤ内に六百二十萬の人口を占めたユダヤ人は、革命後の今日二百六十萬に減じてゐる。それは前にも述べし如くポーランドやバルチツク諸邦がロシアから切離された結果である。尤もモスクワ、レニングラード兩市に於けるユダヤ人々口は左の如く増加してゐる。

モスクワ市	一八七一年	一八九七年	一九二〇年	一九二三年
ロシア人	五七四、四七〇	九九二、六七三	八七〇、九二六	一、三五四、七三四
ユダヤ人	五、六三七	四、八八七	二八、〇一六	七六、一七一
レニングラード市		一九一〇年	一九二〇年	一九二三年
ロシア人		一、六七二、七二七	六〇一、五四四	九一六、八三六
ユダヤ人		三四、九九五	二五、四五三	五二、三七三

その外ベルディチエフ市を含むキエフスカヤ縣は、ウクライナ人とユダヤ人との割合、一九二〇年に七七・五對一一・七なりしもの、一九二三年には五一・〇對二八・五に増加し、オデッススカヤ縣はウクライナ人、ロシア人、ユダヤ人の割合、一九二〇年に五三・六、二〇・三、一三・二なりしもの、一九二三年には二六・七、三六・七、三一・三に増加してゐる。これらはもとより一九一七年以來、ユダヤ人が從前の壓迫と制限とより解放された結果であるが、然かも事實に於て多年に亘る人種的反感や民族的嫉視は、決して一朝一夕にして除去されなかつた。ユダヤ人は最初ロシア革命を起してロマノフ王朝を倒壊したる元兇の如くに宣傳された。ソヴエト政府はロシアの政府に非ずして「ユダヤ政府」であるかの如く云爲された。「ユダヤ人はすでにロシアを占領して過激派政府を建てた。この上何を苦んで狹隘なるパレスタインの天地を固執する必要があらう」とは一部の排セム主義者が異口同音に叫んだところである。然かも事實は決してかくの如きものではなかつた。ユダヤ人がロシア革命によつて解放されたることは疑ないが、依然として社會的排斥の悲境に沈淪してゐることも事實である。ソヴエト政府の基礎が固まれば固まるにつれて、この傾向はます〳〵甚しきを加へて來た。萬國プロレタリアの結合を標榜するロシアの全聯邦共産黨にしても、或は第三インターナショナルにしても、ユダヤ人の勢力は決して一部人士の想像

してる如きものではない。現に昨年ロシアの共産黨内部に幹部派反幹部派の爭が激烈であつたのも、この根本的原因は共産黨内に於けるユダヤ人排斥にあつた。かくてトロツキー、ジノヴィエフ、ラデツク、カーメネフ等のユダヤ人は共産黨から排斥されたのである。それ故今日勞農政府の中に、ユダヤ人が幅を利かしてるのは、たゞ商業部と駐外外交官位なものである。共産黨内に於ても氣の利いたユダヤ人はトムスキー一人位なものであらう。

今一九二七年四月ソヴエト大會に於て選擧確認ソヴエト政府各部に於ける幹部中ユダヤ人の有無左の如し。

聯邦中央執行委員會議長六名中ユダヤ人無し。

聯邦中央執行委員會幹部會員二十七名中ユダヤ人無し。

聯邦人民委員會議十三名中ユダヤ人二名。

勞働及防衛會議中ユダヤ人無し。

國家計畫委員會　同。

中央利權委員會　同。

國家政治保安部　同。

聯邦最高裁判所　同。
同　檢　事　局　同。
革命軍事會議　同。
內外商業人民委員部二十五名中ユダヤ人九名。
外務人民委員部　無し。
交通人民委員部　同。
郵電人民委員部　同。
勞働人民委員部　同。
財政人民委員部　同。
國立銀行頭取　ユダヤ人。
全聯邦共產黨中央委員會一九二七年十二月第十五回大會選出六十九名中ユダヤ人五名。
以上の如く勞農政權內に於けるユダヤ人はまことに寂寥たるものである。
實際ロシアの如く戰前より多種多樣の人種を包含せる國家の統治は非常に困難である。ロマノフ朝の如く一にも二にも彈壓を以て滋むのは世話はないが、その代り統制力が弛緩すれば一擧に

して覆され、エカテリンブルグに於けるが如き史上未曾有の悲劇に逢遭する。さればボルセウイキの人々が、民族自決を以て最初よりの政綱としたりしとはいへ、ソヴエト政府組織に當り、直ちに民族主義を採用して各共和國を建設し、その未だ獨立の能力無きものは本國に直屬する自治州とし、全體を合せて所謂ソヴエト聯邦を組織したのは賢明なる政策であつた。ひとりユダヤ人に至つては從來都市に密集せし關係なりしとはいへ、久しく自治獨立の一國を與へられなかつた。その後大に省察するところあつて、一度びクリミヤの地を割き與へんとしたが、ロシア人の間に反對意見などが起り、その計畫は行詰つたので、今回新に極東ババロフスクの西方黑龍江沿岸二百五十萬ヘクタールの地たるビル・ビヂヤンにユダヤ共和國の植民地を建設することゝなつた。これと應呼して曩きに米國に於てもユダヤ人の極東移民後援會が組織され、その渡航及び移民につきあらゆる援助をなすことゝなつたが、これに先ち昨年（一九二八年）三月三十一日、ニユーヨークのマヂソン・スクエア・ガーデンの廣間に極東移民に關するユダヤ人大會が開かれ、出席者二萬人、ソヴエト政府に對する感謝の決議をなすと同時に、各種問題に關して協議したが、在ロシアユダヤ移民協會側からもその代表者を派遣し、米國の後援會並に富豪ユダヤ人と打合せを行ひ、各方面からの資金は充分集まる可能性があるとのことであつた。

ユダヤ人といへば全體を富豪と思ふことは非常な間違ひであり、殊に東歐――ロシアに於けるユダヤ人の如きは大部分が喰えるか喰えぬかの赤貧者であり、四割五分の者は死んでも葬式が出せまいとさへ言はれてゐる。されぱソヴエト政府當局者は、一は以て國內に於けるユダヤ人排斥の風潮に鑑み、一は以て彼等ユダヤ人の將來を案じて、遂に第二のパレスタインを極東に建設すべき案を創めたのである。

ロシアに於けるユダヤ人は、革命後十年にして漸くこゝに安住の地を見出さんとしつゝある。然かもこれが完成は決して容易なことではなからう。

今少しく問題のビル・ビヂャン地方を檢するに、その境界は大體に於て黑龍江の南境としてペトロフスコエ村より江を溯り、パシコウオ村に至つて北東に折れ、黑龍鐵道オーブルチエ驛に出で、北境線路より二十露里の北方を線路に沿ひて同驛より東に走り、約二百二十五キロにしてインン驛に達し、それより南下して黑龍江岸のペトロフスコエ村に歸着する線である。又行政上には㈠ミハイロ・セメヨーノフキー區㈡エカテリノ・ニコリスキー區、㈢ヒンガン・アルハンスキー區の一部に跨つてゐる。

ロシア官憲の報道によれば、同地方には豐富なる森林、石炭、鐵等の鑛區があり、ユダヤ人永

遠の安住地とせんがため、政府はすでに右植民地の開墾費として一九二八年に於て三百十萬ルーブルの支出を行つた外、道路の新設並に修築費、移民用家屋建築、用具購入等の豫算をも決議し、將來十萬戶のユダヤ人をこゝに移住せしめ、ユダヤ人の自治共和國として恥づかしからぬ新國家を建設せんとするにある。もとよりかゝる計畫は、遠くアレキサンドル三世時代、卽ち一八八一年のユダヤ人大虐殺に刺戟せられて起つたのが嚆矢であるが、當時は實現せずして沙汰已みとなつたものに過ぎない。然かもソヴエト政府の新計畫としてのこの擧は、世界各地のユダヤ人に熾烈なる刺戟と衝動とを與へずには措かぬ。現に米國に於ける移民問題の權威者として聞えたるユダヤ人クンツ博士は、昨年九月東洋に來り、右ビル・ビヂャン地方を仔細に調査して、十一月下旬奉天に來着し、同地のユダヤ人を集めて該植民計畫を報告し、十二月上旬には上海に於て同じくユダヤ人の間にこれが報告を兼ね、その援助を依賴したと言はれてゐる。

ビル・ビヂャン地方が果して宣傳せらるゝが如きユダヤ人の植民地として、更に一歩を進めてユダヤ共和國の建設地として好適の地であるや否やは、今少しく藉すに時日を以てせなければならぬ。

後篇　ユダヤ禍の迷妄

第二章　『ユダヤ禍』とは何ぞ

一　ユダヤ禍とはこんなもの

日本にユダヤ禍の宣傳せられてからは未だ十年にしかならぬが、それでも大抵の地方に行き亘つた。筆者が地方に出かける毎にユダヤ禍に關する質問を受けぬことはないほどである。そんな馬鹿なことはないと言つても質問者は容易に承服しない。それでは誰が一體そんなことを觸れ回つてゐるのかと訊すと、何の某將軍が出て來て講演したとか、何の某師が來て說教の中に說いたとかいふ。熱心な人は東京の發行元からユダヤ禍に關する書籍を取り寄せて讀む。どの書物を讀んでも恐ろしいことばかり書いてある。今にも日本が潰れるやうな氣がする。そこへ勞働爭議が

あつたり、小作爭議があつたり、水平社事件があつたり、左傾運動があつたりする。もう立つても坐つても居られない。今度は自分で小册子を發行してユダヤ禍を宣傳することゝなる。ユダヤ禍がます〳〵擴大する。火事だ、火事だ、放火犯人はユダヤ人だと思つても、中々容易にどれがユダヤ人だか分からない。鼻の形が釣針のやうに曲つてゐると言つても、日本人の目から見れば毛唐は皆そんな顏をしてゐるのだ。レーニンがロンドンに漂浪中ドイツ人になり濟ましてゐたこともあるほどだ。そんならユダヤ男子は皆割禮をしてゐるから、局部を見るのが徑捷たと言つても、少年なら兎に角大人には不可能だ。酒を飲ませて泥醉させたらどうだと思つても、それは畢竟鼠が猫の頸筋に鈴を付けに行くといふやうな至難事である。結局どれがユダヤ人だか分からないから、尙恐ろしいといふことになる。アインスタインはユダヤ人だ。そのお弟子は石原博士だが、そこにどんなからくりがあらうやも知れない。さし當り房州保田での『愛の生活』は、日本に享樂主義を皷吹して國家を滅亡に導かうとするユダヤ人の魔の手だといふことになる。勞農大使トロヤノフスキーもユダヤ人だ。ドイツ前大使ゾルフもユダヤ人だ。かく日本には有名なるユダヤ人が來たり留まつたりしてゐるが、無名のユダヤ人がどの位來てゐるか分らない。ユダヤ祕密結社の細胞が神戸にもあり、下關にもあり、札幌にもあり、京城にもあるとすると、もう日本

もすつかりユダヤの網に引かゝつてゐるのである。そこへ又復フランスのユダヤ人アルベール・トーマが來て、日本の勞働者が大歡迎會を開いたりした。實に油斷もすきもありはしない。それにしても左翼の無産黨がトーマをブルジョアの走狗だと罵倒してゐるのはどういふものだらう。分つた、それは無産黨の全部が揃つて歡迎會をやると、ユダヤ陰謀の奥の手がたやすく暴露することになる。それでは拙づいと八百長で遣つた仕事だ……。とちよつとまあこんな鹽梅である。

今でも田舍で小兒が無理を言つて泣くと、そら『巡査だ』といつて脅かすと泣き止む。朝鮮では『加藤清正が來る』といふと泣き止んだそうだが、今は三百年も經つてゐるから效果があるかどうか分からない。往昔アジアのフン族を率ゐてヨーロッパに侵略したアッチラは、今猶西洋人の恐るゝところである。恐ろしい者にはフンと名を付け、大戰中はドイツをフンと呼んだ。黃禍論の本元カイゼルにフンの名を與へたのでは、さすがのアッチラも地下で微苦笑をしてゐるだらう。成吉斯汗がヨーロッパを征伐したとき、拔都の軍隊はロシア、ポーランド、ガリシア等をあらし回つてドイツにまで攻め寄せた。そこでヨーロッパ諸國民は蒙古來の聲に脅かされ、バルチック海沿岸及び北氷洋一帶の漁夫はイギリス沖へ鯡をとりに行くことも出來なかつた。かゝる世界の恐怖であつた蒙古の軍隊十萬を、筑紫の海に殲滅した相模太郎の子孫が、震災當時朝鮮人が攻め

て來るといつて騒いだり、今猶ユダヤ人が赤化運動をやつてゐると恐れたり、甚だしきは東京市の徽章がユダヤの紋に似てゐるとか、靴底のゴムに付いてゐる商標がユダヤ禍すでに我國を侵せる證據であるとか、觸れ回つてユダヤ禍を連呼してゐるのは沙汰の限りであるまいか。

以下節を分つて我國のユダヤ禍論者の理由となつてゐる諸點を簡單に紹介しよう。

二『世界に張られたユダヤ網』

先づ第一に『ユダヤ人が全世界に於てすべての方面に網を張つてしまつた』といふことである。『卽ち現代歐米の政治界には多くのユダヤ人が輩出してゐる。イギリスのスノーデン、ヘンダーソン、モンド、レヂング卿。フランスのミルラン、パンルベ、クロツツ。ドイツのエーベルト、シャイデマン、ラテナウ、スチンネス。墺地利のエーレンタール。イタリーのソンニノ、シャンツエル。ロシアのケレンスキー、トロツキー、ジノヴィエフ、ヨツフエ等數へ上げれば際限がない。大戰媾和會議にはその指導者ウィルソンの相談役バラチを初め各國委員に多數のユダヤ人があつた。これがためフランス人は驚いて平和會議を一名コーシア(ユダヤ語の淸きの意)會議と呼んだほどだ。』

『また世界に於ける言論機關の九割はユダヤ人の掌中に歸してゐるといはれ、ロシアは勿論、佛獨、英、米諸國でもユダヤ人の財的勢力增加に伴ひ、社會擾亂の危險思想が增加する。對岸支那ではマッソンの世界的大立物孫逸仙によつて、ソヴエト・ロシアを背景とする共產主義の烽火は打揚げられ、我日本に於てさへ虎ノ門事件、共產黨事件等その思想の根源は皆ユダヤ政策の放散する他民族崩潰思想によるのである。彼等の唱道する自由、平等、博愛等の新思想は彼等の完備せる世界的宣傳機關によつて世界の四隅に行き亘るから、今やユダヤ人は世界の思想界の支配者である。』

『またユダヤ人は世界財界の支配者である。ロンドン取引所はすでにユダヤ人の勢力下に在り、ニユーヨーク取引所亦然り。大戰に於てユダヤ人の手に入つた利得は二千億圓で、現時世界黃金の二分の一は彼等の掌中にある。フランス革命の結果二十世紀の初に於て、二十萬のフランス・ユダヤの財產は、四千萬のフランス人の全財產の二倍强になつたといつて彼等は狂喜したが、今度のドイツの革命では戰前ドイツ・ユダヤの財產がドイツ全財產の百分の三に過ぎなかつたもの、革命後百分の七十五まで掌中に收めたといふ。』

『して見るとユダヤ人は戰爭とか革命とかに非常に因緣があつて、戰爭や革命のあつた國は借金

で頸が廻らなくなつても、ユダヤ人のみは成金になるから」戰爭も革命も却て結構である。事實に於て彼等は革命と大關係を有し、革命あるところ必ずユダヤ人あり、ユダヤ人あるところ必ず王冠が落ちることになつてゐる。フランス革命の影にもユダヤ人があり、ロシア革命の影にも同樣である。世界大戰の口火を切つたのも亦實にユダヤ人である。』

『この外ユダヤ人には多くの世界的學者、藝術家、發明家等を輩出してゐる。以上の如く觀察して見ると近頃一部の日本の文士や博士等の說くが如く、ユダヤ人は單に平和的の愛すべき民族といふことが出來やうか。又一部論者のいふが如く單に憐れな同情すべき民族であらうか。實に容易ならぬ大變な民族ではあるまいか。』

三　『ユダヤ一神教とユダヤ精神』

『日本の物知りはよくいふ。殊更ユダヤ人を引出して云々する必要はない。彼等は各々ドイツなり米國なりに國籍を持つて夫々その國家に忠勤を勵んでゐるではないかと。然かしユダヤ人は飽くまでもユダヤ人としての特質を守つて同化しない。彼等は獨特の國民性、民族的傳統、民族的自負、宗教及び思想を以てゐる。同化しないから問題が生ずるのである。一體ロシアを滅ぼし、

ドイツを亡ぼして之に代つたのは誰れか。物知りのいふこの忠勇なユダヤ人ではないか。』
『ユダヤ人がユダヤ人として、各國に寄生生活をなしつゝも全然同化しないのは、實に宗教の力である。ユダヤ人の歴史を見ると全く祭政一致であるが、彼等は非常な家族主義で、父母に孝に祖先を崇拜し習慣を重んずる。日本の社會主義者の一部ではソヴエト式に土曜日を休日にしてゐるさうであるが、この土曜日は卽ち我々の日曜日に相當するユダヤ休日である。この土曜日に於てユダヤ教會に入つた人々は知つてゐる通りラウィン(ユダヤ僧)の祈禱及その說教は實に熱烈を極めその集つた老弱の善男善女は爲めに感極つて號泣するのが常である。』
『ユダヤ王ダビデがその子ソロモンに與へた遺訓の中に、我々の家族以外の者にヘブライ人の統御を委す可らず、幾代の後までも我々一家の者が首長たらざるべからずといふ一節がある。これに依ても彼等同族間の結合が頗る强固で他に同化されない理由が明瞭である。又彼等は到るところ虐げられた生活を續けて來た爲め、元來頭腦が緻密なる上に勤勉となり、又一面に於て僞善、虛僞、陰險、破廉耻漢となつた。結果はまた原因を產み、遂に彼等は諸外國人に嫌忌さるゝに至つた。』
『ユダヤの聖訓はこれを三つに分つことが出來る。

第一はモーゼの十戒である。これはシナイ山上でその信ずる神エホバから授けられたといふもの。

第二はユダヤ經典タルムードであるが、その中には次の如きものがある。

一、神より生れたるは唯だユダヤ人のみ、他の人類は悪魔の子なり。

一、人間は動物より高等なるが如く、ユダヤ人は人間より高等なり。若し此の世にユダヤ人なかりせば、如何なる幸福も、赫々たる太陽の光線も、風雨もなく、人類は到底生存し得ざるなり。

一、永久に生存する價値あるものは、獨りユダヤ人のみにして、他の人類は驢馬にも如かず。

一、ユダヤ人は人類と名づくる權利あるも、不淨の神より生じたる非ユダヤ人は豚と命名せんのみ。

一、エホバ（上帝）は非ユダヤ人を憎み給ふほど驢馬や犬の如きものを憎み給はず。

一、動物を放逐し或は殺戮し得る如く、我等は非ユダヤ人を逐ひ之を殺し、又彼等の財物を利用し得るものなり。卽ちユダヤ人ならざる者の所有物は吾等の紛失したるものにして、實際の所有者はユダヤ人なるが故に、ユダヤ人は先づ第一に之を所有せざるべからず。

一、若し非ユダヤ人がユダヤ人より些細なる物を盜むときは、之を死刑に處するは當然なり、然れどもユダヤ人は欲する儘に非ユダヤ人の所有物を奪ふも自由なり。

一、非ユダヤ人の生命は我等の掌中に在り、特に彼等の黃金は我等の所有物なり。

第三は同じく聖典トーラ中、モーゼがシナイ山上でエホバの神から受領したと稱せらるゝものの中に左の如きがある。

イエルサレムよ起き上れ
光を放て汝の光諸方に及ばん
…………………
海の富は悉く汝の方に向ひ
諸國民の金庫は爾の許に集められん
外國の若者は爾の城壁を築き
外國の王等は爾の僕とならむ
爾を迫害せし者の子孫は爾の前に屈伏し
爾を軽んぜしものは爾の足下に跪づかん

以上のユダヤ聖訓を精神の糧として、數千年來敎養せられたユダヤ民族は果して如何なる理想を以て進みつゝあるであらうか。蓋し彼等の今日あるは決して偶然ではないのである。』

四　『全世界イスラエル同盟』

『ユダヤ人關係の諸團體は數限りもないほどであるが、その名稱の如何を問はず何れも國際的色彩を有しないものはない。殊に全世界イスラエル同盟はユダヤ政策の手形交換所ともいふべきもので、如何なる國のユダヤ團體もこれに加盟してゐる。この同盟は一八六〇年眠れる者を覺す結社といふ名でパリに開かれたが、その代表者はイギリス貴族でマッソンの有力なる結社員たるモーゼス・モンテ・フィオレといふユダヤ人である。彼と共に大に盡力したものは、一八四八年フランスの二月革命に臨時政府員となり、當時はフランスの大臣であり同國マッソンの有力なるユダヤ領袖アドリフ・クレミエであつた。クレミエは演說して曰く

吾人が創設せんと欲する同盟は、フランス人同盟でもなくイギリス人同盟でもなく、又スイス人、ドイツ人等の同盟でもない、實にユダヤ人の全世界同盟である。

……吾人は何事よりも先きに、ユダヤ人であり、且つユダヤ人として存在することを欲するも

のであつて、ユダヤ人の國粋の精華は一にユダヤ人の父の宗教である。卽ち吾人は如何なる政權をも認むることは出來ない。

……吾人の事業は實に偉大であると共に、赫々たるものであつて、その成功は勿論保證せられてゐる。云々

モーゼス・モンテ・フィオレも亦起つて演說して曰く

吾人は何物よりも先きに出版界の權能をユダヤ人の掌中に收めねばならぬ。諸君が徒に貿易及び資本その他の物を壟斷せんとしつゝあるも、これ等の努力たるや全く徒勞の業である。吾人が全世界の言論を自由に操縱し得んがために、世界中の凡ての出版物を吾人の掌中に收めざる間は、吾人の統治權に對する理想は妄想として存在するに過ぎない。

クレミエは更に起立して出版物の威力、價値及利用に就てその甚大なる抱負を述べて曰く、

然り、若しも黃金が世界の第一の力であるならば、出版物は第二の力である……。

出版物を我が掌中に收めたとき初めて吾々は目的を達成することが出る……。

我々は狡猾であり敏捷である。それ故金錢を占有し之を我が目的に利用することが出來る。又輿論、巷間の文藝及び芝居を製造するため我々に大政治新聞が必要である。これを利用して漸

々キリスト教徒を壓迫し、且つこの中に何を信じ、何を尊び、何を呪ふべきかを教へ、又我々はイスラエル人の悲しき叫びと、吾人を虐げる壓制に對する訴へとを繰返へさう。若し或る人々が吾人に反對しても、馬鹿な群衆は吾々の味方として吾人の爲めに起つであらう。』

『當時卽ち一八六〇年頃ユダヤ人のこの大計畫は懷疑學者をして痴人の夢を說くに等しと一笑に附せしめたが、これは徒に非ユダヤ人の不明を蔽ふのみであつた。これに反しユダヤ人はこの大演說に依り、充分の期待と、非常の熱心とを喚起し、遂に一の立派な政綱を作り上げたのである。』

五　『ジヨン・レードクリフ博士の發見』

「ユダヤ人等はクレミエ及びモンテ・フイオレのユダヤ世界政策を絕對に祕密にしてゐたが、遂に一八七〇年イギリス人ジヨン・レードクリフ博士のためにこの驚愕すべき事實が暴露された。それは博士が『セダンまで』といふ著書の中に『プラーグに於けるユダヤ人墓地の夕』の章に發表したからである。」

『博士がこの祕密を握るまでにはどれほど苦心したであらうか。相手は一條や二條繩でゆくユダ

ヤ人ではない。彼等はユダヤ人中の海千山千の老狐である、又場所は數千年前の謎を藏する世界的伏魔殿である。さすが才能の優れた博士も手の下しやうが無かつたが、偶然キリスト教に改宗した一ユダヤ人と知己になり、その助力によつて密かにユダヤ人會に這入り込み、その會議を立聽することを得た。これ實に心ある非ユダヤ人が疑問として居つたところのユダヤ人の眞の祕密を窺ふを得た最初である。』

『レードクリフ博士の記事は、當時諸外國語に飜譯せられ、到るところ大なる反響を與へ、ヨーロッパにてもイスラエルにても非常な騷ぎとなつたが、ユダヤ人は早速この火災を巧みに消し止めてしまつた。』これと同時にレードクリフ博士は間もなくユダヤ人の手に依つて、非ユダヤ人の幸福のため敢なき最後を遂げたのである。』

『レードクリフ博士の世界に暴露したユダヤ政綱は、(一)非ユダヤ人に對するユダヤ人の富强、(二)ユダヤ人を强大にする爲めに非ユダヤ人をして平行的に衰亡に導くの方法と手段とを詳述したものであつて、その骨子は左の如くである。

一、黃金を所有する事、その黃金は有らゆるものを購求することが出來る。

二、印刷物を專有すること、その手段に依つて非ユダヤ人を墮落させ、馬鹿と化し且つ騷亂を

惹起させる事が出來る。

三、自由思想、懷疑說及びキリスト敎破壞の目的を以てする破戒の觀念を非ユダヤ人に接種する事。

四、キリスト敎僧侶に對する戰爭を惹起する事、及び僧侶に嘲笑誹謗並に疑惑を蒙らしむる事。

五、キリスト敎徒の學校に於ける神學敎授を廢する事。

六、寺院所有の財產を取り上ぐる運動を爲す事。（寺院の所領を遲かれ早かれ國家の所有に移す事は、卽ちユダヤ人の手に收めることで、吾々に對する報酬である。）

七、家族主義を廢する事。

八、王座の守護、愛國心養成學校たる陸軍を廢滅する事。

九、陸軍嫌ひの人民中に反對の念を益々煽動勃興せしむる事。

十、非猶太人の爲め國債及私債を募集する事を容易ならしむる事、卽ち此は彼等のため便利なる罠である。

十一、取引所の振興を謀る事、取引所は非ユダヤ人を投機に引き入れ、財產を大資本家の手に移す手段である。

十二、非ユダヤ人の不動産を破壞し、凡ての土地をイスラエル人の手に移す事の必要なる事。
十三、手工的職業を大資本の製造工場を以て換ゆる事。
十四、ユダヤ人は貿易及び投機業を確實に掌握せねばならぬ。農業及び村落經濟を己が掌中に握る爲・特に酒精、穀物類、油類、絹の貿易及び投機業を確實に保持する事。
十五、ユダヤ人の爲有らゆる官職に就く道を開き、そして國家の立法者中に加はる事。
十六、ユダヤ人に反對する法律（吾等は我が祖先の法律を主張せん）を廢滅する事及び特にユダヤ人に利益を齎らす法律の制定する事。
十七、ユダヤ人は古來よりの仇敵たるキリスト教徒の財產、健康及び生命を己が掌中に握る爲、醫者及び代言人の職に就く事。
十八、非ユダヤ人中に勞働階級の發達を圖る事。
十九、有らゆる不平、有らゆる革命を援助する事。（如何となれば此は我が資本を增大し、而して吾々を目的に接近せしむるものである。）
二十、全世界に波動しつゝある社會運動を指導する事、及びユダヤ保守主義を堅固に維持す

る事。

以上の外その結論に於て彼等の希望の具體化された事柄が記載されてある。卽ち

一、若しイスラエル人が此處のユダヤ人會に採用された決議に從ふならば、數百年の後吾々の子孫は我が同盟創立者の墓に到り、イスラエルの民に與へられたる誓約は實行せられ、實際は吾等は世界の王侯となつたと報告するであらう。

二、他の國民は漸次イスラエル人の奴隷となるであらう。此の目的を速に達成する爲には、自ら貧困者の運命の改善を課程として居るところの社會運動者の味方と詐る事が必要である。實際に於て吾々は輿論の推移の支配及び掌握に努力することを爲さねばならぬ。

三、民衆の盲目なる事及び彼等の空虛なそして音許り高い雄辯を愛好する性癖と吾々の人氣と信用とは民衆を誘導する兩刀の武器である。

四、吾々は目的を達成する爲め、可能なる程度に勞働階級を保護することが必要である。斯くの如く行動すれば吾々は希望通り民衆を挑發する事が出來る。

五、吾々は革命の爲に武器として民衆を使用しやう。此等の災害ある每に我が事業は長足に成功に近付き、我が全地上統御の目的は迅速に達成さるゝのである。

以上一八六〇年の全世界ユダヤ人同盟會議に議決した彼等の平和手段の世界大政策は、僅に六十餘年を經過したる今日に於て果して如何に具體化されたであらうか。又この間に如何なる事件が湧いたであらうか。外國の事はまだしも我が日本に於て近年如何なる事件が發生し如何に變化しつゝあるかど今以上の條項を見、現在我が國の推移を眺めたならば如何に鈍感な人でも慄然たらざるを得ないではないか。又一八六〇年代に於けるユダヤ民族の狀態を現時の狀態と比較するならば此の政綱の條項は凡ての點に於て主張的に進步的に、而かも徹底的に實行されてゐる事、恰かも音樂がその樂譜に依つて演出された樣ではないか。一八六〇年から先づフランスを振り出しに革命の叛亂が勃興しだした。一八七一年にはロシヤに起り、次にペルシヤ、トルコ更にロシアといふ具合にユダヤ人の計畫は着々實行せられ、全歐洲に革命が準備せられた。殊に歐洲の大戰亂はユダヤ人の成功の最大なるものであるが、大戰後ロシヤ、次でドイツ帝國斃され、又トルコ、ギリシヤと逐次帝王はユダヤ人の武器であるところの民衆に依り玉座から追はれ行くのである。』

六　『シオンの議定書』

「ジョン・レードクリフ博士によつて暴露されたユダヤ政綱は、その後時代の推移と共に漸次增補せられ、更に新しい政綱を生じた。これが有名な『シオンの議定書』である……。プラーグの演説は各方法に就て一般的に卒直且つ簡明に述べ、ユダヤ人の到達しなければならない終局の目的を直接教示してあつたが、シオンの議定書の方は之を詳細に說明し、而も事實で證據を與へ、且つ完全な經濟的政治的の域に到達するために、ユダヤ人が守らねばならぬ漸進的順序が示してある。」

『シオンの議定書は一八九七年八月スイスのバーゼル市に開かれた第一シオン會議の議事錄の全體ではなく摘錄である。從て行文の連絡が意味は解るが斷絕的である。この議事錄は二十四回に亘る集會の議事を記述したもので、その原本は後に至りフランスに於けるシオン本部に保管されたものである。勿論この議事錄はユダヤ幹部以外には絕對に祕密にされてあつたが、一九〇二年モスクワの法學者で當時の裁判官であつたロシア人セルゲイ・ニルスが之を『小事の中の大事、反基督』なる名に依つてその摘錄を世界に暴露するに至つた、本書がニルスに依つて發表さるゝ

までにユダヤの祕密書類だけに色々面白い話がある。』
『元來議定書はユダヤ人の祕密會議の議事錄であり、又世界に暴露するに至つた徑路が徑路だけに著名の名がない。從つてユダヤ側では何時も之を唯一の口實として、やれ反ユダヤ主義の宣傳書だの、やれユダヤ人を中傷するための僞作だのと辯解してゐるが、未だ曾て深くその內容に立入つてその理由を立證したことはない。それで議定書の草案を書いたのは或る一部ではマッソンの大立物で穩健なシオン主義の指導者セオドル・ハーズル博士と信ぜられてゐるやうであるが、實際は穩健シオン主義に對抗した激烈なシオンニスト運動の先立者卽ち革命實行家たるマハッド・ハ・アム本名はアスヘル・ギンツベルングであると目されてゐる。アスヘル・ギンツベルングの名前は歐米に於てもさして有名ではないが、ユダヤ人間には隨分重きをなしてゐる。彼は一八五六年キエフの近傍に生れた男で、幼時からタルムード學校に學び非常な天才であつた。その後ウキーン及びベルリンに學び、一八八四年四月曾遊の地オデッサに來り、同地に於てシオン同胞中央委員となつた。』
『日本に於ては今日まで議定書の拔萃が一二雜誌に公表せられたが世間の人の大部は勿論、政府も政治家も馬耳東風である。最もユダヤそのものが何物だか解らないのだから仕方がないが、甚

しい平和論者になると荒唐無稽の說だなど〻顧まれもしないユダヤ人の太皷をたゝいてゐるものがある。之が議定書の所謂盲目の諜者でユダヤは蔭で舌を出してゐるのだ……。本書が約三十年前のものである事を頭に置いて、日々の新聞に目を移し我が帝國内は勿論全世界の有ゆる事件、世態の推移に對照したならば讀者は果してどんな感があるだらうか。』

七 『マツソン祕密結社』

『近頃ユダヤ問題に關聯して世人がよくマツソン團とか、フリーメーソン結社とかいふのは一體如何なるものであらうか。』

『マツソンなる言葉はシォンの議定書中屢々散見するところであるが、我が日本では今までマツソンを單に世界的な人道結社であつて陰謀的な祕密結社とは思つてゐなかつたし、又敢て之を穿鑿しやうといふ人もなかつた。然るに最近ユダヤ問題が一部の人々に論議さるゝに至つて、マツソン團は祕密結社であつてマツソン祕密結社が卽ちユダヤ陰謀團であるかのやうに思ふ人もあるやうであるが、元來マツソン團の主體は非ユダヤ人であり、議定書にある『吾人の祕密を知つてゐるマツソン團員は死刑に處する……』云々の文句から考へて見てもマツソン團が卽ちユダヤ陰

謀團その者であるとは思へない。』

『併しユダヤプログラムたる議定書に屢々マッソンなる語が出て居る通り、その相互の間に或る非常なる關係を持つてゐる。』

『それでユダヤ問題を研究すれば自からマッソン團を研究するの必要が起り、又マッソン團を穿鑿すると自からユダヤ問題に觸れて來る。』

『元來簡單明瞭な言葉で記述されてあつた結社員の義務は玆に至つて故意に不明瞭な言葉を以て書きあらはしたため區々なる意義解釋を生ずる樣になつた。例へばマッソン結社員は一定の前提の下に於て謀叛及び革命を煽動する權利を有する、場合に依つては謀叛をする權利を有するとさへいふものがある。例へばマッソンの機關紙フリーメーソン・クロニクル(一八七五年ロンドン發行)は曰く

若し吾人がマッソンは如何なる情況に於ても、惡政府に對して武器を取つて反抗してはならないといふならば、それは彼等の最高にして最も神聖なる市民としての義務を毀損することになる。謀叛は一定の場合に於ては一の神聖なる義務である。云々。』

『……マッソンは組合に依つては各種の階級がある。十一階級のもの、二十五階級のものも三十

三階級も九十五階級のものもある。今全世界に於ける組合の數は、イギリス三一五五組合四十萬人、フランス四七〇組合三萬三千人、ドイツ五五九組合五萬八千人、米國一〇〇〇〇組合二百萬人その外和、白、丁、瑞、葡、西、波、露、支那、日本にもあり、全世界總數二四七八八組合、二百三十五萬八千百四十人である。それでマッソンは常に世界到る處勢力の獲得に努め、諸國の有力者を自黨に引き入れてゐる。その内過去二世紀間に於ける結社員の特に有名なる人々は、米國ではワシントン、マッキンレイ、タフト、ルーズベルト、ランシング、ハウス大佐、パーシング將軍、ゴンパース、歐洲ではボルテル、ナポレオン、ポアンカレー、マッチニ、ソンニノ、ダヌンチオ、エドワード七世、支那では孫逸仙等である。

『マッソン最高幹部の一人カルチエ・ラ・タントウは一九〇〇年八月三十一日に開かれたパリ萬國フリーメーソン事務所の目的は

全世界マッソンの力を合一せしむる事。

世界を紛亂に陥れる爲め必要なる據點となるにありて最後の目的は世界共和國の建設である。と説明した。』パリに於ける第一回マッソン會議（一八八九年七月十六、七日）はフランス革命百年記念のため開催されたが、フランコリンは曰く

十八世紀も一七八九年（卽ちフランス革命）をも有しなかつた各國にも、君主政治及び宗教の沒落する日が來るであらう。此の日は最早遠くはない。吾人は此の日を期待してゐるのである。』

『マッソン創立の當初に於て、ユダヤ人は早くもその內に鞏固なる地位を獲得しやうと試みたが、その事は勿論容易でなかつた。當初ユダヤ人は結社に入ることを謝絕されたが、一七八〇年頃始めてフランクフルト・マム・マイン市に二個のユダヤ人のマッソン組合が出來た……。ハンガリーでは一八七〇年代にすでにユダヤ人で指導者の地位に就く者が出來たが、今日ではユダヤ人が大多數を占めその長たる者は殆ど全部ユダヤ人である。』

『世界各國に於て最も活動的なるマッソン社員はユダヤ人であつて、彼等は結社にユダヤの精神を吹き込み、且つ結社をば彼等個有の目的を遂行する一手段たらしむべき道と心得てゐる。』

『マッソン結社內のユダヤ人が、その員數に比して大なる勢力を有してゐるのは、彼等が到るところに於て勤勉に働いてゐるからである。彼等は又結社內で指導者たる地位を得ることに努め、多くの國ではすでに其の目的を達し同族の利益のために其の地位を利用してゐる。結社內に政治上の事を持ち込んだのも主としてユダヤ人である。それではユダヤ主義に反抗せんとするものがないであらうかとの疑問を生ずるが、多數の人々はよく知つては居るが沈默を守つてゐる。これ

は組合の誓約に束縛されてゐるのにも因るが、又苟くも反抗の態度を取るものは社會的地位を失ひ、又經濟的打擊を與へられ、時としては生命上の危害さへ蒙るの虞れあるからである。』

『スコツトランド教義の第三十階級は全組合中の最重要な階級であるが、この階級附與式の際當該人は、法王冠及び帝冠に對して劍を以て刺突を加へる儀式がある。マッソンは革命に成功せるものを名譽ある英雄として尊敬し、若し革命に失敗せる時は殉教者として援助及び保護を惜まない。』

『マッソンの主なる仕事は精神的から政治上の範圍に入つた。從つてその目的は君主國に於ては現存せる國家及び社會の秩序を全然倒潰するに在る。又凡ての政治家及び政黨を漸次共和的傾向に導かんとするにある。この見地よりすれば今囘の世界大戰はマッソンが長く準備した力試しであつた。』

『一七七六年米國獨立戰爭もマッソンの力與つて大なるものがある。』

『一七八九年のフランス革命が終始マッソンの事業であつた事に就ては無數の證據がある。』

『イタリーのマッソンはヨゼーフ一世を爆彈を以て暗殺しようと計つて殺された犯人を以て殉教者と崇めた。マッチニ自身もカール・アルベルト王を暗殺せんとした男に手づから匕首を與へた

のである。かつてマッチニの率ゐる團體はフェルヂナンド二世の殺害を決議し十萬ドゥカーテンの懸賞をかけた。』

『ポルトガルのマッソンの長は有名なる革命家リマであつて、氏は一九一五年勞働大臣の職に就いた。彼はすでに一九〇七年パリの組合で行つた講話の際「葡國王政沒落、共和政治の沒落」を說いたが、その後數週にして同國王は皇太子と共に暗殺された。その後マヌエル王が立つたが、間もなくマッソンを主謀者とせる革命のために一九一〇年その位を奪はれた。』

『青年トルコ黨は主としてユダヤ人、ギリシヤ人及びアルメニア人から成つたがその政治上の成績は思はしくないのでマッソンに援助を求めたが、その成果は忽ち現はれ……かくて革命は成功しマッソンは凱歌を奏した。』

『一九一二年五月ベルグラードに創設されたるセルビア・マッソンの最高會議は一九一四年五月三十一日フランクフルト・マム・マインに於けるドイツ大組合の會合の承認を受けたが、その四週間後の六月二十八日、墺國皇儲フランツ・フェルヂナンド大公は、サラエボに於てセルビアのマッソン社員のために暗殺された。當の下手人はユダヤ人ガブリロ・プリンチップであつた。』

『一八二六年以後ロシアのマッソンに就ては特記すべきことはないが、その代り色々の祕密結社

が出來、爆彈を以てその理想を實現しようと努めた。而してその背後には常にユダヤ人があつた。例へば冬宮に於ける爆彈事件の主謀者はユダヤ人ハルトマンであり、一八八一年アレキサンドル二世を爆彈を以て暗殺したのはユダヤ婦人イエッセ・ヘルフマンであり、衛戍司令官トウレボフはユダヤ婦人ウエラ・サスリッチに殺され、內務大臣スティチヤーギンはユダヤ人ボゴレロフに殺された。』

『一九〇五年ロシヤ革命の際マッソンは政府に對し公然承認を要求したが、首相ストリピンは頑として之を斥けたため、一九一一年九月十四日、ユダヤ人ヘルシコウィッチ・べグロフのため暗殺された。』

『一九一七年二月に於けるニコライ二世の失脚も、ロシアマッソンが英佛の結社員援助の下にやつた仕事である。政府の首班となつたルウオフ公はマッソン社員であり、之に代つたユダヤ人ケレンスキーも同樣である。』

『英國は常に他國內の動亂を助長し、謀反者に對し豐富なる資金を給した。英國の豫算には年々五百萬ポンドの機密費を計上してゐるが、これは他國に對する宣傳煽動等に使用せられてゐるとのことである。從來英國が外國の元首或は重なる政治家の首にかけた多額の懸賞金も此の中より

支出された。』

『英國マッソンは最も有效に同國の世界統治を促進した。從つて同國の帝國主義に反抗する國に對しては大なる打擊を加へた。』

『ユダヤの理想とマッソンの本來の理想とは根本的に異なる。卽ちマッソンの目的は全世界殊に歐米の有力なる活動的人物を網羅し、人道、平和、自由、平等等を標榜する公開しない結社であつて、最も祕密とする最高最終の目的を持つて居る。それは言ふまでもなくマッソン團の掌握する世界共通の大共和國の建設である。然るにユダヤ人の陰謀はプロトコールにある通り世界各國に居住する有力なるユダヤ人の理想卽ち世界征服計畫であつて、その祕密にして最高最終の目的は、シオン系統の帝王を戴く全世界ユダヤ大帝國の建設にある。プロトコールであるとユダヤ人の政體に對する考へは、國家として最も强力な理想的のものは君主專制である。從て彼等が世界を破壞して新に最高政府を樹立せんがため、最も頑强な障碍物は彼の理想的な非ユダヤ人の君主國であるから先づ之を叩き壞はし、以て彼等が自由に操縱し得る共和國に變化せねばならぬと云ふにある。故にユダヤ主義から見るとマッソンは實にユダヤ主義のため極めて好都合な道程內にあるものと言はねばならぬ。而もマッソン內にはすでにユダヤ人が主要なる地位を獲得し得たの

であるから、世界のユダヤ化の着々實現されつゝあるのは當然のことゝ云はねばならぬ。今や方にユダヤの理想は百歩中九十歩は達せられた。然しこの九十歩は卽ち事業の半である。この成功の半にして各國に於ける非ユダヤ人はユダヤ人に對して奮然として立ち、極力防衛手段を講じつゝある。之が卽ち二三年前より各國に於てユダヤ問題の極めて眞面目な研究が開始された所以であつて、之には一般キリスト教徒ばかりでなく、マッソン委員そのものがユダヤ人に對して戰を宣してゐる。』

八　筆者の小言

以上はユダヤ禍書『世界革命の裏面』から、ユダヤ禍說の根據とせるところを拔萃したものである。シオン議定書の內容を列擧すればよかつたかも知れぬが、そんなことをして居れば端てしが付かぬので、これで打ち切る。大抵以上の諸項目でユダヤ禍說の根據としてゐるところは盡きてゐる。殊にユダヤ禍書の一册を限つて拔萃したのは、大抵どの他の同類書にも同項目が擧つてゐるので、之が代表的に選んだまでに過ぎない。敢てこの一册のみを目の敵として迷妄打破の俎上に擧げたのではないのである。

若し夫れユダヤ禍說の詳細を知らんと欲する人々は、實地それ等の書籍に就て閲讀されんことを所望する。

第三章　ユダヤ禍宣傳本の批判

一　ユダヤ禍宣傳本

我が國に於て從來ユダヤ人に關する書籍として出版せられたのは、大正四年大日本文明協會譯アルツール・ルッピン博士原著『現今の猶太種族』の一册位に止まつてゐたが、大正八年シベリア出兵土産として、ユダヤ人陰謀説が輸入せられてから、俄かにユダヤ人に關する刊行物が增加して來た。然かもその多くがユダヤ禍に關するまことそらこと取り交ぜての宣傳本であることが著しい現象として看取せられる。試みに上野の帝國圖書館に足を運び、書目カードを繰り出すならば思ひ半ばに過ぐるものがあるであらう。

ユダヤ禍に關する書籍や論説に一貫せる共通の點は、ユダヤ人が三千年來の陰謀民族として、今やその恐るべき魔手を我が國の上に伸ばし來れる證據として、プロトコールやら、フリー・メーソンやら、ロシアの赤化運動やら、支那の共産運動やら、米國資本閥の横暴やらを擧例してゐ

ることである。そして何でも賊でもユダヤ人を世界の凶悪事の一手引受所とまで認定しなければ承知が出來ないやうに見受けられる。ユダヤ禍論者は盛に日本主義を高調し、外國かぶれを誓め、外來思想を異端邪説として唾棄して居りながら、夫子御自身が外來思想たるユダヤ禍説の如き異端邪説にかぶれてゐることに氣が注かないのである。

* * * *

『ユダヤ問題研究資料』として松居錬石氏から贈られた表には、從來發表された書籍や雜誌の題目が陳んでゐる。これは二三年も以前の調査らしいが、それでも書籍六十八册、雜誌及新聞六十八種の名が擧つてゐる。然かしその中には全然ユダヤ禍には無關係のものや、或は吉野博士廚川博士あたりのものも載つてゐるから、この全部がユダヤ禍のものではないが、それにしてもよくこんなに集つたものだと感心させられる。そして一般の人には、ユダヤ禍などは迷妄だ、プロトコールなどは僞書だと否定するよりも、こわい物見たさの心理が手傳つて、ユダヤ禍といふが如き黑き大きな魔の手が日本の上にも覆ひかぶさつてゐるが如く說かれる方に心を惹かされる。つまり『惡貨は善貨を驅逐す』といふグレシャムの法則がこのユダヤ禍說の上にも行はれてゐるのである。

それは兎に角とし、私はこゝに我が國に於けるユダヤ禍說の最も代表的な三四の著書を拉し來つて、その內容を檢することゝしたい。

二　北上梅石氏著『猶太禍』

ユダヤ禍說が新聞雜誌上に現はれたのはもつと古いが、一册の著書として刊行されたのは恐らくこの書が最初であらう。大正十二年十月の刊行であるが、著者の辭によると、「本書は大正十年十二月貴族院某團體に於て筆者が講演せる『裏面より見たる西伯利亞事情』と、同十一年十月有終會に於ける講演『露國革命と我思想界』との合本であつて、つまり講演集に過ぎぬ」とある。北上梅石とは匿名であることも序文に自白してある。著者が多年陸軍教授としてロシア語教官の任に當り、シベリア出兵の時には通譯官として出征し、彼地に在つて反過激派の一政府首領たりしメルクローフと密接の關係を有せし人であることは周知の事實である。

本書はシベリア出兵當時の事情や關係やを基礎として出來上つたものであるから、すでにシベリア撤兵より七年、日露修交より四年も經過してゐる今日、やれ『レーニンをユダヤ人ツエデリブリユムであるとの說がある』と云つたとか、やれ『普選運動や勞働運動などはユダヤ禍の表現

であると云つた』とか、細かい點を一々拾ひ上げて批判し論難することは餘りに大人氣ない感もする。著者は『五十餘年間啼かず飛ばずに一簞之食一瓢之飲に舌皷を打ち陋巷生活に甘んじ來つた吾人が、人生の峠を通り越した今日に於て啼けばとて名を得られず、飛べばとて榮達を求められぬことは夙に大悟してゐる。而して今啼く所以のものは危機一髪に繫がり、我國民の頭上にぶら下つてゐる猶太禍を國民に警告して之を掃蕩せんとの微意に外ならない』と述べて居り、著者自ら惡意を以て日本國民にユダヤ禍を宣傳し、その心理に恐怖を與へんとするが如き陰謀に加擔してゐないことは明白であるが——、而してすべてのユダヤ禍論者も同樣であるには相違ないが、それでも『危機一髪に繫がり我が國民の頭上にぶら下つてゐる猶太禍』などゝ無暗にユダヤ禍說を振り回されては、國民に對し警告どころか迷惑千萬な話である。

著者は本書に於てマッソン祕密結社やプロトコールを引例してユダヤ禍を高調し、彼等ユダヤ人が世界に於て大部分の陰謀を成就し、殊にロシア革命に於てその目的を達したから、更にその呪の手を我が國の上に伸べてゐる例證として、自由と平等とを要求しつゝある各種の民衆運動を擧げ、これらは皆ユダヤ禍に操縱されつゝあるものであると述べてゐる。又當時故後藤新平伯がヨッフエを招いて日露交涉の下準備に盡力中であつたので、著者の筆鋒は鋭く伯の上に當り

義に私は後藤氏は赤化せりと云ひましたが玆に聊か訂正して置きます。『日露關係に就ての意見』を讀下すると、氏は赤化せしにあらずして生來純赤の人たることが肯定さるゝのであります。『同類相求め』『類は友を以て集まる』後藤氏がレーニン一味を一代の雄と稱讃し、ヨッフエを親友と呼ぶ寔に謂なきにあらずであります。

故伊藤公の遺策を引合に出し、名を明治聖帝の偉業の完成に藉りて赤魔政權の承認を國民に强請せんとす。聖帝の御名を冒瀆する豈是より甚しきものあらんやであります。(三一五―三一六頁)

などと攻擊してゐる。この筆法から言へば、日露修交に盡力したり、ロシアに行つてソヴエト政府の連中と交歡した後藤子は國賊といふことになり、今度の御大典に際し勳功により伯爵を陞授せられたことなどは全然間違ひといふことになり、差し當り陞授を奏請した田中首相の如きは切腹者である。然かしかつて議會に於て後藤子を赤賊とまで罵つて置きながら、子の訪露歸朝歡迎宴には閣員の一人として、平氣な顏して列席してゐた國士先生もあるほどであるから、そんなことを今更律氣千萬に心配する要がないといへばそれまでゞある。

著者はこの『猶太禍』の結論として次の如く述べてゐる。

曰く『產業界の革命』、曰く『思想界の革命』、曰く『何々界の革命』など世人が無暗に『革命』

なる語を用ひて居ますが『虚言より出た眞』とならざれば幸であります。『革命』なる語を口にし耳にしてゐる間に、自然に其の氣分に慣れ、夫れが實現した時、敢て不思議と思はぬ樣になります。而して政治的革命は縷述した通り露獨の如き結果を齎らすものでありますから、千代八千代苔のむすまで君が代の榮えよかしと祈願する我等大和民族に取つては『革命』なる語は之を口にし耳にするすら忌はしく汚らはしき不吉の言葉であります。(三一八頁)

つまり、著者は『ユダヤ人の作り上げたロシア革命』に向つて極度の反感を抱いてゐることから、『ロシアの愛國者』たるメルクーロフ政府を援助し、これを相手に日露條約を締結せよといふ氣持を、この書によつて露骨に現はしたのである。

三　酒井勝軍氏著『猶太人の世界征略運動』
同『猶太民族の大陰謀』

酒井氏は牧師出身であつて、多年米國に渡つてゐたが、シベリア出征の時從軍し、爾來ユダヤ禍論者の驍將として聞えてゐる。先年氏はパレスタインに旅行し、同地のユダヤ人の生活を研究して歸へり、『橄欖山上疑問の錦旗』『神州天子國』の著作を發表した。氏のユダヤ禍に關する著

書は、外にもまだ澤山あるやうであるが、大體氏の思想を知らんと欲せば前記の『猶太人の世界征略運動』『猶太民族の大陰謀』の二册で澤山である。この二册は大正十三年の二月と三月と、一ヶ月の差を以て出版せられてゐるが、序文を見ると前者は十二年十二月となつて居り、後者は翌年紀元節になつてゐる。何れにしても連續して脱稿されたものらしい。著者自ら言へる如く前者はユダヤ人世界征略の現はれたる方面、即ち陽謀とでもいふべき方面を述べたものとせば、後者はその名の如く陰謀の方面を敍べたものである。北上氏の『猶太禍』には主としてソヴェト・ロシア攻撃を以て滿たされてゐるが、酒井氏の著書には氏が永く米國に在つた關係からか、米國攻撃の口調と見るべきものが多い。尤も『猶太人の世界征略運動』の方には『マツソン運動の出現』と題して、フリー・メーソンのことを詳しく述べてゐるが、プロトコールのことには言及してゐない。その代り『猶太民族の大陰謀』の方では、巻末の大部を費してプロトコール論評を載せてゐる。氏はプロトコールが本物であるとは斷言して居らぬ。然かしそれが本物であるにせよ僞物であるにせよ、世上の問題になつてゐる本書を一概にこき下ろした吉野博士の態度を難じてゐる。そして世相がこのプロトコールの筋書通り進行してゐるとなして論評を加へてゐるのである。

北上氏が『革命』の文字は見るも忌はしいとしてゐる反對に、酒井氏は前者の序文に

日本の神州性は著しく其眞相を發露し來り……彼等神に奉仕するもの﹅眼より見て、之れ三千年前より豫言せられある世の終末卽ち世界の維新革命、神政復古の前兆にして、其最も有力なる證明は二千六百年來の亡國民猶太人が其祖國を恢復したる事是なり。郊外雪深くも蕗臺の現はる﹅あらば誰か一陽來復を叫ばざらんや、猶太人の擡頭は世界革命の先驅なり、而して神政復古の前提はパレスチナの復興にあり。

と書き、むしろ革命を歡迎し、猶太人の擡頭を祝福してゐるやうである。また同書中ドレフユス事件を叙するに大に同大尉に同情を表し、排ユダヤ派の陰險陋劣なる手段を惡くんでゐるやうに見える。而して後書の序文を見ると、

虎ノ門事件を冒頭に書きて曰く、

何となれば此禍は曾ては羅馬帝國を亡ぼし、次で佛蘭西帝國を亡ぼし、最近に於ては支那帝國を亡ぼし、露西亞帝國を亡ぼし、墺太利帝國を亡ぼし、又土耳其帝國その他を亡ぼし、凡ゆる帝國を亡ぼさゞれば止まざる世界的陰謀團の手によりて操縱せられて居るものなればなり……

嗚呼猶太禍は楚歌の如く四面の聲となれり、されば余は八方は愚か十方を敵とせざるべからず。云々

と明白にユダヤ禍撲滅の急務を絶叫してゐる。

實際酒井氏はユダヤ人の『世界的征略』とか『大陰謀』とかいふ最大級の文字を使用して、國民に驚駭と恐怖とを與へてゐるが、その著書の內容を檢すると、氏の眞意が何處に在るか判斷に苦しむ點が多い。これは最近數年間に於ける最も熱心なるユダヤ禍論者松居鍊石氏が、修養團主幹蓮沼門三氏に呈した書簡中に

猶太問題に關する同氏の說は信仰的、神祕的の處があつて、宗教硏究の足らぬ私等には、少しは解しかねる所もあるやうです……。（松居氏『猶太民族の大陰謀とは何ぞ』一〇二頁）

と告白してゐるに徵しても察せられる。

著者が後者の序文に、眞向にユダヤ禍撲滅をふりかざしてゐるかと思ふと、その本文中には此信仰に生死する猶太人こそ眞に神の選民にして、彼は曾て一身の安を求めず、唯神の國と其義を求めたりき。世界大戰の際新火藥を發明して、英國を勝利に導きたる殊勳者ワイツマン博士は猶太人なり。英國皇帝其功を賞し報ゆるに彼の欲するものを賜はんとす。彼曰く臣は何をも欲せず、唯猶太人のためにパレスチナを賜へと。而して英國政府が猶太人の慘狀を救濟せんがため東阿ウガンダに一樂土を設け之を提供せるに、選民の團體にして神政復古實現の急先鋒

なるシオン運動は『我等は祖國パレスチナ以外に寸土を欲せず』と答へて辭せり。誰か此個人の前に畏敬なきや、誰か此團體の前に畏敬なきや、而も俗悪極みなき虚僞文明の渦亂中に虐待せられつゝ、尙此選民自尊の念を保持する猶太人に對し、尙シャイロック扱ひを爲さんとするが如きは愚に非ずして妄なり。余はかゝる人格を畏敬し、又斯る團體を畏敬す。而して此畏敬すべき彼等は世界文明の凡ゆる利器の精鋭を盡して、神政復古の刧業を果すべく日夜努力し居るなり。而して之れ世界的大陰謀なり。此大陰謀に對し恐れなしといふ者あらば之れ蛇を怖れざる盲者の類のみ。（二二三―二二五頁）

と口を極めてユダヤ人を賞讃してゐる。そんな立派な『世界的大陰謀』ならば、ユダヤ禍として恐怖することは非常な錯誤であり、むしろこれをユダヤ福とし、我々日本人はユダヤ人を師表として日夜仰がねばならぬことになるではないか。

それかと思ふと著者は一轉して、

今や世界は戰場なり。日本亦極めて惡性なる外寇内亂に襲はれつゝあるなり。眞に恐るべきは砲彈に非ずして異說なり。艨艟に非ずして陰謀なり。余は猶太人と共に神政復古論者なり。又シオン主義者なり。されど余は彼等の陰謀をして日本の何處にも行はしめて皇土を汚さしむる

を欲せざるなり。何となれば日本帝國は彼等の陰謀を迎ふべき必要なき國土にして、日本は彼等に示すべき地位にある國なるを信ずればなり。然るに神州の臣民は未だ外國心醉の宿夢より醒めざるに大陰謀の黒き手は已に深く我國民の思想を侵略しつゝあるなり。（七七頁）

こゝに於て讀者はいよ〳〵迷宮に導かれざるを得ぬであらう。私は酒井氏がユダヤ禍説を說いて何を結論しようとしてゐるかを探がし求めた末、遂にプロトコール論評中の左の數行を發見した。それも多分結論らしく推測さるゝものであることを斷つて置く。

余はユダヤ人の成功を信じ同時に日本の雄飛を信ずるも、彼が我を敵視し居る間は彼は敵なり。而して敵を敵として防戰せざれば國體危ふし。故に余は憂國者に向つて警告を怠らざるなり。（二九六頁）

私は世上多くのユダヤ禍論者が酒井氏のどの點に共鳴したものであるかを聞きたい。

四　藤原信孝氏著『不安定なる社會相と猶太問題』
同　『猶太民族の研究』

藤原信孝の名も亦變名である。前書發行者のはしがきによれば、「これは著者の講演を速記した

ものであり、著者は我が國航空界の最高權威者であると言つてゐる。後書は著者が群馬縣に於て試みたる講演をまとめたものである。而して前書は大正十三年、後書は大正十四年三月の發行になつてゐる。他に同一著者に於て述べられたる『猶太研究』『勞働爭議と猶太問題』などがあるが、これらは非賣品であるし、詳細と省略との差はあるにしても、大體著者のユダヤ禍の主張を窺ふには、この二册で不足はないと思はれる。

著者は『猶太民族の研究』の序文中に

朝野には病氣の診察を誤り益々惡い藥を盛るものが段々殖えて來るのに、此重要な研究を等閑にする譯に行かぬ。それで近年凡ての娯樂を廢し、その時間を以て猶太人問題を研究し、又希望者に之を講演した、御蔭で日曜祭日といふものを家庭的に過したことが暫くはないのである。此く病膏肓に入つては治療は容易でないと考へ、益々努力を加へて來た。

と云つてゐる。これを見ても如何に著者が寧日なくユダヤ問題を筆に口に講述して來たことが察せられる。それだけ社會一般の者も著者を目するに、今は航空界の權威者としてよりも、より多くユダヤ問題の權威者として認めてゐる。著者の思想界に負へる責任亦大なりと言はねばならぬ。

然かしながら、著者は果して眞の意味に於けるユダヤ問題の研究者と稱せらるべきであらうか。

これ私の平生より抱ける大なる疑問である。而して率直に言へば著者はユダヤ問題と言はんよりもユダヤ禍問題の權威者と稱する方が妥當であると思ふ。尤もユダヤ禍問題を以て今日のユダヤ問題の全部であるとすればそれまでの話である。

著者はスペインに行はるゝ排ユダヤの俗諺を譯して、

千早振る神の御子をも盜むなる猶太人らにこゝろ許すな

と『腰折』一首を口誦し、又これに註を加へて

現今の時勢に於てキリスト教國に非る日本人としては左の如く稱ふる要あらんか

千早振る神の護れる日の本も猶太人らにこゝろ許すな

と言つてゐる。又著者はユダヤ人問題を研究するに

又プロトコールと稱するユダヤ陰謀筋書などから發足することも多大なる不利が伴ひます。

(『猶太民族の研究』一〇〇頁)

と戒めて居るに拘らず、前書『不安定なる社會相と猶太問題』の結論に於て『以上述べ來りしところを結論すればユダヤ人は斷つて仕舞はねばならぬことになるが、そんなことをしても無駄であるから、彼等の改悛反省に俟つべきのみである』といふ意味のことを述べてゐる。この結言と

いひ、またユダヤ人らに心許すなといふ歌といひ、著者は誤りなくユダヤ禍論者の權威とすべき人物である。

著者は、トロツキーがヨーロッパ合衆國論を唱へたからとてこれを捉へて今ヨーロッパに於てルール問題にしろ、種々の問題がありますが、そんな事でごたごたしてゐる中にヨーロッパ合衆國にする。さうすると今のロシアは變つて來ることになる。ロシアは此間まではエル・エス・エフ・エス・エル卽ちロシヤ社會主義聯盟ソヴエト共和國といふのでありましたが、今度はエス・エス・エス・エル卽ち社會主義ソヴエト共和國聯盟といふことに改名した。從てロシアといふ意味がなくなつて仕舞つた。是れは世界革命の火蓋を切つたものである。火蓋を切つてこれが第一の根據地となつた。もうこゝまで來て居りますから今のヨーロッパ合衆國がトロツキーの言ふが如く出來上るとロシアもそれに合します。さうして東にはアメリカ合衆國がある。さうして彼等は大統領政治を先づやつて置いてさうして終にダビデの後裔が出て君主政治になることを豫言して居ります。

と言つてゐる。ヨーロッパ合衆國說はクーデンホーフもこれを唱へ、世界識者の問題となつてゐるが、トロツキーの唱へたのはどんな意味か知らぬ。然かしロシアがヨーロパ合衆國の下準備と

して國名を改稱し、ロシアといふ意味を無くしてしまつたと見ることは餘りに早合點に過ぎる。ロシアは必しもロシヤ社會主義聯盟ソヴエト共和國の名を捨てたのではない。その名はたしかに所謂ソヴエト聯邦の中に在り、またその國は事實に於てソヴエト聯邦の牛耳を握つてゐるのである。詳しく云へばロシアは一九二二年十二月、民族主義に基いてこれをロシア、ウクライナ、白露及びコウカサスの四共和國に分ち、これを統一したものにエス・エス・エス・エル（ＣＣＣＰ）卽ち社會主義ソヴエト共和國聯盟の名を附したものであり、その後ウズベキスタン、トルコメニスタンの二共和國が加つて、今日では六個の共和國から成立してゐるものである。もうそんなことは夙くに著者も承知して居られやう。それはさて措きこのヨーロッパ合衆國が終にダビデの後裔によつて君主政治になると豫言してゐるといふのは一體誰が豫言してゐるのであるか。時代錯誤の對支政策論者の中には、孔子の第何十世とかの子孫が生きてゐるから、同人を押し立てゝ支那に君主政治を復活せしめよなどゝ說いてゐる者があるが、その孔子の子孫がお先に失敬して國民政府の一要人となつてゐるなどは氣が早い。それから見るとダビデの後裔などは一層緣の遠い話である。

著者はユダヤ人がニコラス二世を虐殺したといつてその滔天の罪惡を責めてゐるが、ニコラス

をしてその悲しむべき運命に陥らしむる一大遠因となつたキシネフの虐殺に就ては、後書に
それから十年經つとロシアでキシネフの虐殺といふ事件が起りまして、ロシアに居つたユダヤ人は大分アメリカに移住することになりました。（四四頁）

と至極無雜作に片付けてゐるのみならず、前書に於ては
又一八八一年にロシアのキシネフでユダヤ人の大虐殺をやつたといふが、それは實に大した事ではないのである。一昨年三月初旬にバロン・ウンゲル將軍が内蒙古の庫倫に於て千二百人のユダヤ人を虐殺したといふのでユダヤ系の新聞は大騷ぎをしたが、ずつと古い所ろではユダヤ民族がエリコの町を取つた時などは他民族が傷いて倒れて居る者に火をつけ、甚く之を殺戮したといふ殘虐史を以てゐる。或時にはバビロン王アラタクゼルクセスが猶太美妃エステルの進言に基きてユダヤ人が實に一日に七萬五千人の非ユダヤ人を虐殺するのを見て居たことがある。それ故決して今謂れなき迫害といふことは言へない。（四七頁）こんなに言はれてはユダヤ人と、ユダヤ人虐殺がむしろ當然であるかの如き言説を吐いてゐる。

たるもの全く浮ぶ瀨もないのである。

著者は又更にドレフユース大尉事件を述ぶるに、前書に於て

……第十九世紀の末葉卽ち日清戰爭の頃であつた。殊にフランスの參謀本部にドレフユスといふユダヤ人の砲兵大尉が居つて、それが軍機を漏洩したとか、しないとかいふ事で內閣が更迭し、漏洩したといふた者は憤慨の餘り自殺した。（二二頁）

といひ、後書に於て

……フランス參謀本部の砲兵大尉ドレフユスといふ猶太人が、參謀本部の機密を獨逸に賣つたとか賣らないとかいふことが問題になつて檢擧されて、長い間軍法會議の問題となつた。殊に外部からの壓迫が司法權の上に及んで內閣の更迭三度に及びました。この頃日本で靑年諸君が悅んで讀むエミール・ゾラといふ過激な文士が、ドレフユスの肩を持つて盛にドレフユスの無罪を主張したのでございます。又此間までフランスで時めいて居つたクレマンソウも非常な社會主義者でありまして、ドレフユスに肩を持つて騷いで居りました。（四八頁）

と述べ、あれほど明白なドレフユースの寃罪を事實怪しげなもの〻如く思はしめ、またゾラやクレマンソウはこのユダヤ人のために肩を持つた怪しからぬ男であるかの如き口吻を洩らしてゐる。以てこの二書の內容の全班を推知することが出來やう。

五　包荒子著『世界革命の裏面』
同　解說『世界の猶太人網』

前書は大正十四年に出版せられ、プロトコールの全譯及びマッソン祕密結社の內容を說明して「恐るべき世界革命の裏面』を暴露したもの。後者は昭和二年に出版せられたが、その內容は一九二〇年（大正九年）米國の自動車王純粹サクソン人ヘンリー・フォードが『獅子吼』した『世界的大論文』國際的ユダヤ人換言すれば世界の猶太人網を解說したものである。包荒子とは何人ぞや、私は『世界革命の裏面』と同一の版元に於て『黑人問題』を出版した關係がありながら、最近までその何人であるかを知らなかつた。また知らうともしなかつた。尙包荒子には前記二書の外、雜誌『日本及日本人』大正十五年四月號誌上、長文の『猶太國建設運動』なる一篇を揭げてゐる。これは筆者の意見よりもむしろその多くの部分をベルンスタインの論文紹介に費したものである。

包荒子の書物は餘ほど注意して讀まぬと、原著者と譯者との限界が分らぬのに面喰はされる。たとへば『世界の猶太人網』を最初からヘンリー・フォードの意見と思つて讀み、『合衆國に於け

る猶太人の歴史』などがあるから、いよ〳〵安心してゐると、次章『猶太問題の意義と事實』の冒頭に

今日迄我日本には、親猶太主義も反猶太主義も勿論猶太問題もなかつた。然るに世界大戰は急に猶太勢力を倍加し、是れ迄内面的に行はれた其の國際的活動は自ら暴露せられ、隱然包藏された其の潛勢力は公然の勢として出現するに至つた。卽ち革命に因る露、獨、墺三大帝國の崩壞に伴ふ猶太人の活動、英米に於ける猶太資本主義の發展、猶太故國パレスタインの復興運動等實に驚嘆すべきものがある。隨つて猶太勢力が我が帝國に多大の波動を與へつゝあるを見た我が日本の識者達は、猶太民族に就て或は宗敎及び歷史方面から或は其の現況に就て等夫々各方面から之を研究して國民に紹介する所あつたが、世人多くは之を對岸の火災視し甚しきに至つては其の信疑を確めやうともせず、自ら何等研究穿鑿することなく、而も之を帝國主義者の捏造と誣ひ、中には西洋の反猶太主義を似ねて居るとさへ罵倒する所謂大家なるものもあつた。

（六七頁）

とあり、『我が日本』とか『我が帝國』とかあるので、オヤ〳〵これはフォードの意見ではなかつたのだと氣が注く。それかと思ふと同書の中頃に『反猶太主義は米國に生ぜんとす』といふ項目

があり

吾人は猶太人を根絶せしめ様とは思はない。併し彼等が從來人類社會を苦しめた樣なことを將來も爲すことは斷じて許さぬ所である。（一二〇―一二一頁）

といふあたりは、包荒子と見るよりも、たしかにフォードの意見である。いよく面喰ひながら卷末の附錄に來たると『上海に於ける猶太實勢力』の一篇がある。その紹介の冒頭に、

本記事は私の友人で支那通なるK博士の談である。東洋通商の樞軸にして我が帝國の玄關先たる上海に於ける猶太勢力の實況を窺ふべき絕好の資料と思惟したので、次に掲載して讀者の參考に供することにした。（二六三―二六四頁）

云々とあり、フォードの友人K博士かと思へば大間違ひ、『我が帝國』とあるから包荒子の友人である。包荒子或は『間違ふのはお前が悪るいんだ、最初から包荒子譯と書いてないぞ、包荒子解說となつてゐるのに氣を注けろ』と言ふかも知れない。すると『解說』といふ二字は包荒子に取りまことに調法な文字であると申さねばならぬ。松居錬石氏はその著『猶太民族の大陰謀とは何ぞ』の餘白中に、この書の『シオンの議定書に對する觀察』の一節を引用してゐるが、それにはヘンリー・フォード著『世界の猶太人網』となつて居り、包荒子譯であるとは思つても解說とは

思つてゐぬらしい。包荒子はその同志に對しても、悪意ではなからうが、こんな罪を作つてゐる。

因にこの紹介の辭につゞいてK博士の談話が始まつてゐる。

支那の上海にはハードン、カドウリ、エヅラ氏等の如き代表的富豪を始めとし、各國に籍を有つてゐる猶太人の醫師、記者、教師が居る。私は戯談の意味で親交ある一猶太人に向つて『全世界は方に猶太人に征服せられつゝあり』といつた處が、彼莞爾として曰く『實に然り、但し尚多少の歳月を要すべし』と、更に曰く『諸國に散在してゐる猶太人の眼からは、其の土着の國人は馬鹿者と考へられてゐる』と。猶太問題に關する書籍を渉獵した私の腦裏には、此の僞らざる告白から一種の深い感興が涌いて來たのである。云々(二六四頁)

ところが、これはまた前記松居氏の著書餘白中に、『驚嘆すべき猶太民族の世界政策』と題し上海福民醫院長醫學博士頓宮寛氏の『上海時論』大正十五年二月號に掲げられた一節から引用されてあるのが、このK博士の談話と殆ど一字一句の相違もない。一々微細な點を揚足取つて憎まれ役になるのではないが、頓宮博士の頭文字をどうもじつて讀んでもK博士にはならぬ。これは吉野博士が『フリー・メーソンをどうもぢつて讀んでもマッソンにならぬ』と言つたのと譯がちがふ。所謂ユダヤ禍説を迷妄なりと確信する私は、こんなことまでも疑問の種になつて來てゐるのであ

る。K博士と書いたのはT博士の誤であつたとか、K博士とは名の方の寛の頭文字を取つたものであるとか、或は又上海には頓宮博士の外にK博士といふのが居るとか、ハッキリと説明して私の潔癖性を訂して貰ひたい。

同じく包荒子の論文に對しても一つ文句がある。それは前記『猶太國建設運動』と題した『日本及日本人』誌上五十頁に亘る長篇であり、プロトコールのプの字も書いてない丈け、讀者に確實性を與ふる有益の文字であるが、然かもこれは全部包荒子の論文かと思つて讀んでゐると、八頁だけを費されたはしがきの次ぎに、四十五頁に亘るベルンスタインの論文が出て來るのである。それなら最初から左樣と斷つて與れたなら宜かつたものをと怨ましく感ぜられる。この論文といひ、フォードの解說といひ、讀者をして著者と譯者との限界を一目瞭然たらしめないのは、ロシア革命も、マッソン結社も、プロトコールも、シオニズムも、タルムードも、ユダヤ資本家も、共產主義者も、何も敷もごつちやにして『ユダヤ禍』が捏ね上げられてゐるのと酷似してゐる。

六　松居錬石氏著『猶太民族の大陰謀とは何ぞ』

これは前述擧げ來りし諸本の如きとは相違し、百頁餘りの小冊子ではあるが、ユダヤ禍に關す

る最新刊であり、且つ著者が大正十年秋以來如何にしてユダヤ禍を信ずるやうになつたか、またその後如何にして山川天業民報主筆、田中智學、西田天香、蓮沼修養團主幹等の名士を仲間に引入れるやうに努めたかの徑路を窺ふに極めて都合のよい書物である。仄聞するところによれば著者は明治四十一年出身の京大法學士で、現に福岡縣飯塚町の鑛業中野家の支配人であるといふ。著者の如き熱心なるユダヤ禍論者があり、筆に口に宣傳是れ寧日なしといふ結果でもあらうか、北九州の一角にはユダヤ禍を信ずる人々が相當澤山あるらしく思はれる。著者が『思想國難』の時局に當り、『國家の基礎を確固不抜におくべく』『ユダヤ民族の大陰謀』をあばき立てた努力とその動機の至純とは私と雖もこれを認むるに吝かでない。然かし乍らその努力は、畢竟ユダヤ禍といふ錯覺と偏見とによつて、殆ど徒勞に歸すべきものと斷言して差支へない。何となれば著者は思想國難といふ重病患者を治癒するに、ユダヤ禍といふ稻荷下げに御祈禱をして貰つてゐるものであるからである。

著者は本書のはしがきに

私は不圖した機會から數年來『猶太問題』について研究してゐますところが、此危險なる外來思想は全く猶太民族の遠大なる計畫と、巧妙なる宣傳に因るものであることが瞭つて非常に驚

きましたので、かゝる重大問題は一日も早く我同胞に知らせなければならぬと思ひ、爾來機會ある毎に此問題について宣傳してゐるのであります。勿論私の見解と全然反對の人もあり、又それほどまでにはなからうと樂觀してゐる人もあるやうですが、私は今日までの研究の結果かく信ずるのであります。

と言つてゐる。著者の研究したのはユダヤ問題でなく、多くのユダヤ禍論者の然るが如くにユダヤ禍そのものであつたのである。又同書第五版に際してはしがきに、

……去る二十一日夜（昭和三年八月）小倉市主催成人教育講習會に於て『危險思想の根源』と題して『猶太禍』について講演しましたところ、同市某銀行支店長である舊友から『誠に耳新らしい事をきいて終夜眠れなかつた……何れ其内も少し徹底的に承りたい』といふ葉書が來ました。之から見ましても一たび此怖るべき『猶太禍』を聽いたらば、もうジツトして居られなくなることが分るではありませんか。

と言つてゐる。かくして著者自らユダヤ禍の催眠術にかゝつたのである。著者はプロトコールに掲げられた陰謀の目的は

猶太國王中で最も偉大なダビデの血統を王として世界に君臨せんとするものである。そして其

の手段方法等はこの文書中から知る事が出來る。(八―九頁)

といひ、その結語に於て、日本は今や

露西亞方面からは過激な共産主義が宣傳され、亞米利加からは文化とか新思想とかいつて不健全な思想が這入つて來てゐる。而して共産主義は下層の勞働者方面から、文化とか新思想とかいふのは上流の智識階級方面から這入つて來て、今や日本を挾み撃ちにしつゝある狀態である。最近の例として活動寫眞を利用して、日本に過激思想が這入つて來てゐる。(三五頁)

と嘆じ

そしてどんなフィルムが來て居るかといふに『牧王ダビデ』『王樣萬歲』其他十數種あるそうです。かうして私共が氣付かぬ間に、過激思想の宣傳をされて居るのだから實に油斷は出來ない。私は昨年十一月の『國際寫眞情報』を見て驚いた、それに麗々と『牧王ダビデ』の寫眞がのせてある。實に驚くべきことてはありませんか。こんなにして猛火はもう私共の脚下まで進んで來て居るのである。

と戰慄してゐる。キリストを賣つたユダヤならば、キリストの寫眞を見て戰慄するでもあらう。米國のフィルムがユダヤ人によつて製造され輸入されつゝあるや否やは別問題である。ユダヤ人と

何の交渉も有たざりし日本人が何で『ユダヤ國王中最も偉大なるダビデ』の寫眞を見て恐れ戰くのか。とんと我々の常識では判斷が付かぬ問題である。著者をして若し明治神宮參道の店舗にレーニンの肖像を賣るを見せしめたならば、必ずやユダヤの陰謀遂に這の大冒瀆をなすかと驚き怒るであらう。然れども六合を兼ね八紘を覆ふ明治天皇の英靈は、莞爾として參道に居並ぶ東郷平八郎も、乃木希典も、リンコルンも、ナポレオンも、マルクスも、レーニンも、孫文も、一視平等に眺めさせ給ふのである。そこに日本國體の森嚴性と日本民族の優越性とがあることを知れ。

著者はまたいふ。

日本に於ける共產黨の活動が大分露骨になつて來たが『猶太王國建設のため怪物イスラエル來る』と新聞にも堂々と書くやうになつた。此イスラエル・コーヘンは猶太系の印度人で、私財三億を有し常に猶太王國の建設を計畫して、さながら大英帝國の一敵國の如き觀を呈してゐるといふことである。同氏が猶太王國建設のために、日本在留の同志を糾合するため日本に來るといふので、其先發の總參謀ラムチヤンド・イブラヒムが神戶から上京したといふ記事が出て居たのを見ても、彼等の運動が着々として進行しつゝある事が判らう。ほんとうに今の日本は地雷火の上に坐つて居るやうなもので、何時破裂するやら分らぬやうな氣がする……。私は自

ら憂國の士を以て任じて居るのではありませんが、一たび此の猶太問題について考へ來ると、實に膚に粟を生ずるの感がしますのでじつとして居られません。（三七―三八頁）

資本家を倒して無產階級の世の中にしようといふ共產黨と、そんな世の中になることを最も恐るゝ資本家との間に何の密接な關係があらうか。ユダヤ國を建設するのが目的であれば、それは畢竟シオニストであらう。シオニストが日本にやつて來たからとて、直ちにそれをユダヤ禍の來襲と考ふることは根本的偏見である。ましてそれを恐れ戰き、何時日本に地雷火が破裂するやら分らぬと思ふのは甚しき錯覺であつて、呆きれ返るの外はない。僅に二十三四年前までの日本國民は、そんな平家の落武者の如き弱虫ではなかつた筈だ。ユダヤ財閥の金をドシドシと使つて日露戰爭を戰つたではないか。しつかりして吳れ。

第四章　我國に於けるユダヤ禍說反對

一　吉野博士

我が國に於けるユダヤ禍說に對し、眞先きに反對の聲を擧げたのは、私の知る限りにては吉野作造博士であつた。博士は大正十年六月發行の『中央公論』誌上、『所謂世界的祕密結社の正體』と題し、四十餘頁に亘つてフリー・メーソンのために可なり詳しく辯護の勞を取られた。博士曰く

一體マツソン結社といふ名からして可笑しい。フリー・メーソンリーは時としてマソニツクといふ形容詞で呼ばるゝ事はある、併し何うもぢつてもマツソンといふ發音は出て來ないのである。甚しきは英國では此結社をフリー・メーソンの名稱で呼ぶが、獨逸、佛蘭西方面ではマツソン結社と云ふなどゝ出鱈目を云ふて居るものもある。獨逸ではフライ・マウエライ、佛蘭西ではフラン・マソンヌリーで、マツソンとは何うしても讀めないのである。

と。そこでこの論文は烈しくユダヤ禍論者の怒を買つたものであつた。北上梅石氏は『猶太禍』の中に曰く

吉野君はフリー・メーソンなるものはあるがフラン・マッソンなる語は何處から出たものであるかとの疑念を起し、祕密結社としてのマッソン結社の實體が無いとの樣な口吻を漏して居ますが、吉野君の如く英語一天張で英語の外に他に名稱が有り得べからざるものと信じて居らる人には、斯かる主張は尤もの次第であります。然るに豈計らんやフリー・メーソンなる名稱は英語丈けであつて、歐洲大陸即ち佛語でも獨逸語でも露語でも此の結社はフラン・マッソンと呼ばれて居るのであります。吉野君の知つて居らるゝ英語にフラン・マッソンなる名稱が無いからと云つて結社の實在をも否定する樣な筆法で行きますと、吾人の祖國日本をも否定せねばならぬことになります。如何となれば英語にはジャパンなる國名はありますが、日本（ニッポン）なる國名が無いからであります。（二二七頁）

『猶太研究』の著者は曰く

此の如き事を學者先生が粗忽にも堂々と天下に發表する樣にては、日本の思想界は盲人が導くと云ふべく、思はず危い哉を三呼せざるを得ず。佛語のポケット辭書に迄略してマッソンと云

ふとあり、又露語にてもマッソンと云ふ。此の式の研究にては博士の論斷こそ眉唾を要すと叫ばざるを得ず。

酒井勝軍氏は曰く

名稱の發音の如きは四國辯にても東北辯にても差支なし、四王天大佐は佛語の達人なり、フリーメーソンリーなる結社が英國製なればとて、必ずしも英國名稱を用ひざる可らざる理由あるなし、況んや佛國にて略してマッソンと發音する以上、フラン・マソンヌリーと言はざるべからざる理由何處にありや、余は露人のフリー・メーソンリー研究會に臨みたることありしが、何れもマッソン、マッソンと呼び居るを聞きたり。（『猶太人の世界征服運動』二六四頁）

松居鍊石氏は曰く

博士は……『フリー・メーソンリーは危險どころか非常に結構な此上もない立派な團體と言はなければならない。僕自身にしても緣故がないから入らないものゝ出來るなら是非入りたいと考へてゐる位だ』と。かうなると何處まで御芽出度いのか分らなくなる。之れが苟も堂々たる法學博士の言ふ事であるから實になさけないではありませんか。（『猶太民族の大陰謀とは何ぞ』一一頁）

それ〳〵中々手酷しい。このフリー・メーソンの呼稱だけに就て觀れば、吉野博士の旗色は甚だ振はぬやうだ。然かし問題の中樞は、フリー・メーソンなる團體が果してユダヤ人の世界破壞を企らむ祕密結社であるや否やといふ點である。博士がフロトコールに匕首を加へて常識から考へても猶太人が一人殘らず斯ういふ陰謀に關係あるとか、又斯ういふ陰謀の遂行の目的ですべての猶太人が固く結束してゐるといふやうな事はあり得べきことゝは思はれない。……更に此決議錄が如何にして今日我々に知らるゝに至つたかの說明を聞くと、紛ふ方なき妄說である事が明白になる。それは猶太人を陷れる爲めに作つたものである……。之れには西洋の種本がある。而して其種本はフリー・メーソンリーと猶太人とに對する西洋人傳來の反感を利用して、ボルセヴヰズムに對する不信を唆らんが爲めに作つた所謂爲めにする處ある贋樣本に外ならない。

と云つてゐるのは、ユダヤ禍論者の急所を衝いてゐる。而して博士が動もすれば國賊扱ひを受けかねまじきユダヤ禍反對の魁をなしたのは、何としても沒すべからざる功績である。たゞ惜しむらくはその後博士がユダヤ禍に對する言論に寂として接せざることや。若しも頑迷の徒相手にしても致方がないといふ態度を取つて來たものとすれば、ユダヤ禍說今日の蔓延に對しまことに遺

憾な次第である。

二　八太德三郎氏

三宅雪嶺博士主筆時代の『日本及日本人』に多年編輯者として博士を助けたる八太德三郎氏は、大正十年九月秋季增刊同誌『想と國と人』誌上、『猶太本國の建設』と題する論文中、特に『猶太禍』の一部を設けてプロトコールの僞書なることを最も明快に摘抉してゐる。曰く、

然るに千八百六十八年中にヘルマン・ゴエヅシエと呼ぶ工夫力に富める獨逸人があつた。彼は文書僞造の罪に因りて職を免ぜられた普國郵便局員であつたが、由來工夫力に富んだ彼は、推理的に誇張した文字を以て滿たされた一文書を作り、此に依りて一般公衆に流電氣を掛けて大激動を起さうと計つた。そこで彼はサー・ジョン・ラトリツクといふ英國人であると假稱し、上記の僞作者が猶太人に負はした『一切の惡計と奸策とを確認する所の一猶太人の自白』の形式を採り、猶太人が豐富なる其の黃金を利用してプロレタリヤを煽動し、其力を藉りて全世界に亘る大動亂を惹き起し、一切の君主政治を顚覆し、基督教義を破壞し、然る後ち基督教國の廢墟に猶太大帝國を創建することが、卽ち彼等猶太人の陰然企畫せる大計畫であるといふことを

力說してゐる。

ゴエヅシエの此の文書も亦た其の當時に在りては左程の注意をも惹かずして過ぎたが、八十年臺の初期に及び、猶太人排斥に力を用ゐた獨逸のトライチユケ、ステッケル等の利用する所となり、大阪の一枚刷として廣く世に頒布せられた。但だ公衆が比較的眞面目であつた當時には、此れも亦上記數者の文書と同じく、特に大なる注意をも惹かず、又た刺戟をも起すに至らなかつたが、今世紀に入り露國のセルジイ・ニルス教授が之を種本として『猶太禍』を作製するに及んで大なる反響を全世界に起した。

ニルス教授の作製した文書は謂ゆる『博識なるシオン長老の議定書』の一部から成り立つたものであつて、獨逸人ゴエヅシエの作製した文書と同じく『基督教國の腐敗と動亂と顚覆と征服とを目的とする猶太人の大陰謀を確認した一猶太教授の自白』の形式を藉りたものである。其の假托的僞作なることは明白であるが、更に此の文書の樞軸を作す所の『議定書』の出處に就ても、矛盾した三個の記述を見るのである。其の二つは英國版に於て見、他の一はニルス教授自身の增補訂正に係る第三版に於て見るのである。卽ち第一英國版には此書の出所を記るして此の議定書は余の亡友某よりの交付に係るもので、亡友某は之を某夫人の手より得た。而し

て某夫人は佛國に開催せられたフリー・メーソン長老の祕密會議の終期に際し、最も有力にして最も高き位置を占むる長老中の一領袖から竊取したのである。

といひ、第二英國版には

佛國に在るシオニスト協會本部の金庫内より竊取したる我が亡友某の手より之を得たるものなり

といひて、第一版に記する如く、某夫人の手を介したることも、將たフリー・メーソン長老から竊み取つたことをも言うて居らぬ。而してニルス教授自身の增補訂正に係る露國原本の第三版には

此の議定書は元と瑞西國より出でたものにして、シオニスト協會に屬する一猶太人の手より得し所に係る。而して議定書其物は千八百九十七年バーゼル(瑞西)に開かれたシオニストの會議の祕密議定書なり。

といひ『佛國より出た』と言はずして『瑞西より出た』と言ひ、『フリー・メーソン派の猶太長老より得た』と言はずして『シオニスト協會所屬の一猶太人より得た』と言ひ、又た『佛國に開催されたフリー・メーソン長老の祕密會議の議定書』と言はずして『瑞西バーゼル市に開催

されたシォニスト會議の祕密議定書』であると言うてゐる。此の矛盾した三様の記述の孰れを信じて可なるのであらうか、其の出所に就ても、延て『議定書』其物に就ても、一様に動かざる疑念を抱くことは、之を讀む何人にも自然に起る所であらうと思はれる。

要するに此の謂ゆる『議定書』はゴエヅシエの手細工物を更に敷衍した假作物で、千九百五年の露國革命の際に作製されたものであるが、其の種本であるゴエヅシエのよりは一層巧妙を極めてゐる。而して此の『議定書』が印刷頒布されたのは、其れが新たに發見されたからでは無く、集團的大虐殺（猶太人に對しての）を誘起するの武器として之を惡用するの必要よりして發見――否な實は僞作――されたのである。詳しく言へば千九百一年の刊行に係るニルスの著書の第一版には此の議定書は挿入されて居らず、唯だ排基督教問題を抽象的に取扱うたに過ぎなかつたが、千九百五年に露國革命が起り次で露國內に住する一切の猶太人を虐殺せんとする大規模の陰謀の計畫された時、此の議定書が小册子若くは大版一枚刷の形にて廣く頒布せられ、猶太人虐殺の煽動に殊功を顯はしたのを、ニルス教授の著書の第二版中に初めて挿入されたのであつた。而して最近に至り、デニキン軍やコルチヤツク軍の間に其の拔萃的册子が頒布され

た。それはロストフに在る露國僧正管區內の圖書館にて印刷に付したるを『露西亞人同盟』として知られた『兇手百人組の結社』に屬する殘徒の手にて廣く流布されたのであつた。當時此の拔萃的册子が如何に其の兇惡なる目的を遂ぐるに有効であつたかは、南部露西亞を通じてデニキン軍の足跡の印する處に、無辜の猶太人が男女老幼の別なく集團的虐殺の犧牲となり、家も人も全然其跡を絕つたのに觀て知られる。

この八太氏の論文は、吉野博士の論文を隔つること僅に四ケ月足らずにして發表されたのであるが、ユダヤ禍論者中、寡聞にして未だこれに喰つてかゝつた人あるを知らぬ。然かし北上梅石氏はその著述中、左の如く問はず語りの辯解を試みてゐる。

ニ氏が初めてプロトコールを出版して少數の人士に配布したのは一九〇一年であり、再版は一九〇五年でありまして、之を普通人に讀ましむべく巷間に於て販賣しました。尙一九一一年には三版を出版しましたが、何時とはなしに祕密の手に依つて買占められ、一般讀者に行渡らなかつたのであります。其れは申す迄もなく猶太人が買占めたのであります。そこでニ氏は止むを得ず一九一七年莫斯科を距る七十露里に在るセルギイ修道院の印刷所に於て四版を印刷し、夫れを非賣品として識者間に配布したのであります。今日となつては再版三版は勿論のこと、

四版も珍本であります。革命前に此の書の湮滅に苦心した猶太人等が政權を握つた今日となつてはニ氏の此の書を持つて居ることは、露人に取つて頗る危險になつたのであります。如何となれば此の本を持つて居るのを見附けられたが最後必ず死刑を宣告されるのであります……。

此の珍本卽ち猶太陰謀計畫が世人の目に觸れない樣に猶太人は啻に買占めに努力した許りでなく、苦肉の策を廻らし其の揉消運動に着手したのであります。卽ち此の計畫は猶太人の手に成つたものでなく露國の憲兵隊が捏造したものだと主張し、又はニルス氏の捏造したものだと宣傳したのであります。卽ち伯爵夫人ラズウイリとか男爵コルフとか有名無實の僞證者を使つて、恰も此等の人々が憲兵隊やニルス氏が捏造してゐるのを見たかの如く宣傳し、本の出所の揉消運動に努力したのであります。之れは猶太の常套手段でありますから彼等の宣傳にうつかり乘つてはなりません。吾國の學者の中でも此等の宣傳に乘ぜられ、プロトコールの出所を疑ふ許りでなく、却つて猶太人の爲めに辯護の勞を取つて居る者があります。大正九年十二月雜誌公論の增刊にプロトコールが發表され、其の以前に猶太の陰謀に就て警告した『過激主義の根源』なる小冊子が發行され、日本國民に警告を與へたことがあります。夫れに對する法學博士吉野作造君の所説を拜聽するのも一興と思ひますから玆に御紹介致します。(『猶太禍』二二一—二二四頁)

と言つて吉野博士の攻擊に移つてゐるのであるが、その攻擊の終りには更に次の一節があるのである。

尙玆に注意せねばならぬことがあります。卽ちプロトコールが最近英語にも譯されてありますが、玆にも猶太人の苦肉の策が歴然と現はれて居ます。

例へばプロトエールの原文にある『吾人イスラエル民族が世界支配權を得た曉には云々』の句を『吾人露國民が世界支配權を得た曉には云々』と改造され、凡て『猶太人又は猶太王』たる句をば『露人又は露王』と云ふ句を以て掏り變へてあり、恰かも露國人がプロトコールを書いたかの如く揑造されて居ます。併し夫れは所謂『頭隱して尻隱さず』で假令一二の字句を掏り變へた所で內容全體を見ると其の所論の猶太人の陰謀たることを否定するを許さぬのでありま す。而も革命露國の現狀と其の主腦部の顏觸れとを見た丈けでも之れを否定することが出來ず。卽ちプロトコールは豫ての猶太人の計畫であり、夫れが今實現されたものであることは公平な眼識の所有者の認めざるを得ないところであります。（二二六―二二七頁）

云々といつてユダヤ禍論者死活の岐るゝところとはいへ中々よく闘つてゐる。

讀者はこの兩者の論文を對照して如何に思惟さるゝか。たゞ私をしてこゝに一言を挿さましむ

るならば、私は敢て北上氏に言ひたい。北上氏はそれほどの眞本ならば、平凡社座談會（後出）の席上、何故もつと强硬にその眞本なるを主張されなかつたかといふことである。氏はたゞ『プロトコールにはさう書いてある』とか『眞僞は別として世相はその通りになつてゐるではないか』とは申されたが、『プロトコールは斷じて眞本である』とは申されなかつたのである。

三　厨川博士

雜誌『改造』がその大正十二年五月號に『猶太人硏究』の論叢を掲げたとき、その中の一篇に厨川白村博士の『何故の侮蔑ぞや』といふのがあつた。これはその後博士の著書『十字街頭を往く』の中にも收められた。博士は曰く、

試みに思へ、今日の『やまと民族』といふもの、一人のベルグソンのごとき哲人を、一人のエヂィスンの如き發明家を、一人のアインスタインの如き科學者を出して、世界人類の進步發達に貢獻し得たりと廣言し得るか。

……國亡びて山河在りといふ。山河などはどうだつて可い。國ほろびて人がある、個人が存在する。天才は更にその光輝を增すのだ。云ふまでもなく天才は國より大きいからである。エデ

イスンも、ベルグソンも、アインスタインも、今日の世界に於て、僅に國といふやうな者を背景にする事によつて立つてゐる樣なひよろ〳〵の人間ではないのである。猶太の國ほろびて玆に二千載。流竄漂浪の猶太の民がさながら歴史の流れのなかに、水と混じれる油のごとく、あらゆる迫害と侮蔑と虐遇との間にあつて、而かも人類の爲めに貢獻したる其偉業を追想せよ。

又曰く

資本主義の社會を改造しようとする思想、また露西亞のボルシエギズムなどの中心人物に猶太人が多いからと云つて、近頃は猶太人の世界破壞の陰謀などゝ、飛んでもない妙なことを西洋でも云ひ出した。猶太人を憎惡する基督敎徒のアンチセミチズムが今や保守的なる反動思想と野合するに至つて、かくの如き流言蜚語をまで、まことしやかに傳ふる者あるに至つては、寧ろ滑稽の感がある。世界大戰以來の歐洲人は、悲慘なる大事件におびえたる後の人心にありがちな多くの疑心暗鬼に煩はされて、色々な惡魔を夢みた。猶太人の陰謀などゝ云ふのも、恐らくは薄を幽靈だと見る者の言ひ草に過ぎないであらう。殊に日本などでは、西洋の昔の本もろくに讀まず、何も知らない者がかの中世以來のフリー・メーソンの結社をさへ、奇怪至極なる

意味に解釋して、さきに吉野作造博士の一喝を喰つて一言も無かつた者などがあつた。世界破壞の猶太人の陰謀なぞと云ふ流言は、ちかごろ米國に益々盛なク・クラックス・クランの祕密結社ほどにも、吾人の注目に價ひしない馬鹿げ切つた話であらう。

かくまでも個人主義的傾向の猶太人に、そんな大きな團體的な破壞運動などが出來る筈は無いといふ明白なる理由の外に、この資本主義破壞の運動と猶太人との關係に就ては、近代の歐洲史上に極めて興味ある現象が見られると思ふ。

……猶太人は飽くまでも個人主義的傾向が强いために、すべてが組織的に集團的に行はれる今日の經濟界では、資本家としても既にその勢力を失墜しつゝあるのだ。故シッフの財閥のごときさへも、今では既に日露戰爭ごろの勢力はないと聞く。世界顚覆などゝいふ馬鹿々々しい大陰謀が、かくの如き個人主義者によつて行はれ得るものでないと、私が主張する所以である。

云々と。こゝまで書いたのだから、厨川博士は吉野博士と同樣、ユダヤ禍論者の烈しい怒を買つた。松居氏はその著に兩博士の言を引用し

こんな風に世間からエラィと思はるゝ博士達が、猶太人の提灯持ちをやるので、何も知らない若い者は、丸呑みに呑み込んで了ふから實に怖ろしい事になつて來る。少しくど〱しくなり

ましたが、此二人の博士がプロトコールに反對論者であるから御參考までに玆に引出したのであります。(『猶太民族の大陰謀とは何ぞ』一二頁)

と攻擊を加へてゐる。

四　新見博士

文學博士新見吉次氏は廣島高等師範學校教授として、西洋史科を擔當して居られる。氏は昭和二年五月中央融和事業協會より融和問題研究叢書第一編として『猶太人問題』の著作を刊行された。ユダヤ問題に關する書物が澤山刊行された中に、ユダヤ禍の色に染んでゐないものは、鮮きに大阪每日新聞主幹渡邊巳之次郞氏の『猶太民族の世界的活動』を除いて、恐らくこの新見博士の『猶太人問題』ぐらゐなものであらう。博士のユダヤ人問題を取扱つた態度は中正であり、その心事は公明である。百頁を少し出たほどの分量に過ぎないが、ユダヤ人に關する智識と概念とを學ぶに於て敢て不足はない。

博士はその著書中、『猶太人の陰謀說』と題し、その迷妄なる所以に說き進めて曰く、

猶太人が非猶太人の國を亡ぼす隱謀をしてゐるといふ說が我國には相當根を張つたやうに思は

れる。

西洋にフリー・メーソンリーといふ結社がある。それは中世ヨーロッパに行はれた石工の組合の名殘ではあるが、實は十八世紀の初め頃、人格修養の目的に性質を變じたものである。組合員には親方、職人、弟子の三階級があり、彼等の集會所をロッヂ（團舍）といふて居る。この組合は宗教的のものでない、又政治的のものでもない。世界主義的運動であつて、平和を高唱し博愛を高唱するものゝやうである。けれども社會主義や、共產主義の運動とは異つて、貴族や富豪や智識階級の間に蔓つて居る。アメリカ合衆國にも大に擴がつて、一九一〇年の調によれば、合衆國内に團舍が五十餘、團員が百五十萬人あると稱せられる。そして猶太人が多く好んで入團して居ることは事實である。畢竟猶太人の信仰自由に傾いたものゝ中に生じた世界主義的性質が之に適合する所以であらうと思はれる。

フリー・メーソンリーの團員に猶太人が多數あることは、反セム主義者をしてメーソンリーに疑を抱かしむるに至つた。メーソンリーは決して祕密結社ではない。その集會所の如きは公然人の知るところで、その團長も團員も知られて居るが、其の内部のことは祕密とせられて、決して團員外に公言することをしない。これが疑惑の種子である。

反セム主義者はメーソンリーを稱して猶太人が世界を猶太化すべき運動機關であるといひ、その團員は全部猶太人ではないが、猶太人の隱謀の道具に使はれて居るものと解釋してゐる。アメリカ合衆國の獨立に當り、獨立宣言書に署名した十三州の代表者五十六名中、五十二名がメーソンリーの團員であつたのみならず、建國に力のあつた知名の士や、獨立戰爭に參加した最高武官十五將軍が悉くその團員であつたなど〻例證に擧げられて居る。

猶太人は革命や騷擾を喜び、その間に利を得んと計るとの疑は、彼等が致富の事情や及びその居住する國家に對する愛國心に缺けて居るところがある事實から推して、世界に於ける古來の革命の裏面には猶太人の暗中飛躍があつたことを斷ずることは必ずしも誤りではないかも知れないが、私は其がために猶太民族に隱謀民族の名を負はすことを不當だと信ずる。世界戰爭の終りに於て、ロシア、ドイツ、オーストリア三帝國に革命があつた。そして何れも猶太人の力が多かつたことは事實である。けれどもこれ等の革命黨が社會主義者であるに對して、メーソンリーのブルジョア階級であるといふことの矛盾を看過する譯にはゆかぬ。

アメリカ合衆國の獨立は英國に對する叛逆であつた革命であつたに違ひない。けれどもその獨立に力を致した人は只亂を好むがために事を起したのでなくて、獨立國家の建設に努力したこ

とを否定することは出來ない。第一大統領ワシントンや第三大統領ジエフアーソンがメーソンリーの團員であつたとか、第二大統領アダムスが猶太人であつたといふことは、米國の立場からいふ時には決してメーソンリーや猶太人を危險視する理由を見出し得ないのである。隱謀説を唱へる人は猶太人はローマ人にデモクラシーの病魔を巧みに皷吹し、民權自由思想を普及し、ローマの統一を破り、先づ東西に分れ次に四分せしめ遂に滅亡せしめたなどゝいふてゐる。この論法を以てすれば、米國の獨立は英國で起つた自由民權論の實現したもので、英の領土を二分せしめ、英米二國を對立競爭せしめて、遂に二國を滅亡に導くべき猶太人の隱謀の一過程であるかのやうに說くべきであらうが、私は猶太人が無自覺の間に聖書の豫言に從つて、全世界をシオン帝國たらしめる準備として、世界的運動をなしつゝあるといふやうなことを信ずることは出來ない。酒井勝軍氏の著『猶太人の世界征略運動』に、イスラエル世界同盟の祕密に對してゐる作戰計畫として示された左記の條項

一、世界の全權を掌握する事。

二、新聞を利用し非猶太人を籠絡する事。

三、非猶太人の信仰を破壞し、基督敎を四分五裂せしむる事。

四、家族主義を破壞する事。
五、忠君愛國心を涵養する學校及その擁護者たる軍隊を撲滅する事。
六、凡ての國有地を猶太人の手に入るゝ事。
七、各國の立法者たる權利を獲得する事。
八、辯護士或は醫師を獨占して非猶太人殊に基督敎徒の權利及び生命を左右する事。
九、非猶太人中に賤民を增加せしむる事。
十、猶太民族の計畫遂行の便となるべき世界的攪亂及び革命等に努力する事。

や、英國に於て十九世紀末發表せられたプロトコールと稱する猶太人隱謀の證據書類などについては、その出所來歷についての說明に未だ十分信憑すべき根據を承認し得ないことを遺憾とするものである。

ロシアの共產主義は吾が國體と容れないところがある。アメリカのデモクラシーも亦吾が國體と合はないところがある。我國民の思想を赤化せしむることも、米國化せしむることも、共に危險である事はいふまでもないが、それは人種民族上の問題でない。思想上の問題である、經濟上の問題である。殊に我國には猶太人の居住するものは曉天の星ほどもあるまいと思はるゝ

のに、さまで猶太人を恐るゝには及ばぬのである。ロシアの第三インターナショナルの社會共産主義は米國の資本主義とは氷炭相容れざるものである。そして國際政局に於ても當分到底二國は握手する事の出來ぬものであらう。此の間に處する我國の立場に甚だ六ケ敷いところがあるが、それは猶太人問題とは別問題である。

私は猶太人の陰謀といふよりも、前述したやうに猶太人が近世國家の建設や、帝國主義政策の爲めに利用されつゝあるを感ずるものである。ナポレオン一世は既に一七九九年埃及遠征に當り、アジア、アフリカの猶太人に檄して、聖地を彼等に與へ、エルサレムを復興せしむることを約束して從軍せしめんとした。この時猶太人は動かなかつたが、その後カイゼル・ウイリヤム二世がシオン運動を保護したが如き、英國政府が或は猶太人を利用してアフリカ殖民地の開拓を企て、或はパレスチナ占領に先ちてシオニストに建國を承認した如きは、寧ろ猶太人が強國の世界政策の野心の傀儡となつて居るものではあるまいか。（『猶太問題』八七—九四頁）

五　その他のユダヤ禍反對論

その他雜誌や小册子の上で、ユダヤ陰謀說の迷妄なるを論じた人も少くないが、槪してそんな

愚說に相手になつてゐるのは大人氣ないといふ態度を取り、默殺にかゝつてゐたので、むしろユダヤ禍說の方が、著述に講演に優勢を示し來つたのである。

ユダヤ禍說排擊の小册子を發行して、各方面に配布したのは鈴木正吾氏である。少壯政論家として聞え、雜誌『內觀』同人の一員である氏は、大正十三年八月『何故の露國不承認ぞ』と題する册子に於て『勞農政府はロシア正統の政府でなく、世界顚覆をたくらむユダヤ人の政府であるから承認することは相成らぬ』と說き立つる一派に對し、痛烈なる攻擊を與へたのである。今私の手許にこの册子がないから、拔萃してこゝに揭載することは出來ぬが、氏からこの册子を送られたとき、私は氏の勇敢なる戰陣を後援する意味に於て大贊成の返事を出したことがある。當時ロシア承認問題は朝野の大問題であり、ユダヤ禍論者は盛に檄を飛ばしてロシア承認の不可なる所以を唱道して居つた。私は大正十一年來、三宅雪嶺、中野正剛、風見章、緒方竹虎、桝本卯平等の諸同志と共に又新社の一同人として對露交涉促進を筆に口に叫んでゐたので、この鈴木氏の小册子には全部の贊成を吝まなかつたのである。

遠藤無水氏はかつて社會主義者として聞えてゐたが、十年前からその同志と分離し、今日では尊皇愛國、錦旗革命の唱道者となつて鬪つてゐる。氏はその機關雜誌たる『日本思想』創刊號大

正十四年三月發行の誌上に『左右の思想的奴隷を罵る』と題する一文中に、又軍閥中のムソリニ張り右翼セミ奴隷等に至つては、物もあらうに舊ロシアの不良教授セルジイ・ニルスの僞作たる『猶太禍』を拾ひ上げて鬼の首でも取つたように雀躍し、無分別にも『赤化防止』と『白禍對策』の兩一助にとてか、之を聽ては米探をも勤めかねまじきミツション系の某に飜譯させた。赤化防止も白禍退治も吾々又大いに緊急を唱ひ、殊に白禍退治に至つては吾々の疾呼する處であるが、吾々の猶太人迫害は是れ白人の尻馬に乘つてする有色人吾々の自辱的卑下行爲たるのみならず、その結果はツラン民族の結束的勢力を殺ぎ、以て白人の興悦を増すものでは無いか。況んやその道具に使つた品物が惡毛唐の賤しむべき僞作であり、その遣り口が舊ロマノフ朝又は舊ブルボン朝の當時に於けるそれにも劣鄙たるに於てをやである。

云々と。

東京にて發行さるゝ英文雜誌『カレント・オブ・ザ・ワールド』は、昨年（昭和三年）六月號を『猶太人問題の最近相號』として發行したが、同誌記者は卷末に左の所感を掲載してゐる。

記者は幼少の時分年長の人々が『あいつはジユウの樣なやつだ』と云ふのを能く聞いた。それ以來ユダヤ人は强慾沒義道卑劣陰謀の權化である如く常に考へさせられて居た。ロシアに勞農

革命が起つた時にはトロツキーやラデツクばかりか、レーニンその他の幹部までが悉皆ユダヤ人で、あの革命全體が全然ユダヤ人の陰謀に基いたものだといふやうな誤想を一般世人と共に分擔するに躊躇しなかつた。

記者はその後ユダヤ禍に關する頗る場當り的な本を讀んだ。中には日本人の筆になるものもあつた。ユダヤ人の陰謀は歐米諸國に革命騷亂を惹起すばかりか、日本の國體をも脅威するものであると云ふやうな記事も讀んだ。それらの書物によればユダヤ人の陰謀機關は頗る精致巧妙を極めたもので、革命のある所必らずジユウの影が動き、歐洲諸國の王冠は彼等によりて次から次へと墜落される、而してユダヤ人究極の目的は、エホバの神によりて選まれたるユダヤ人をして世界征服に成功せしむるに在りと。

ユダヤ人に對する是等のセンセーショナルな課題をドコまで信用してよいかは一に讀者諸君の常識に任せる事としやう。唯ユダヤ人をして强慾沒義道陰謀の權化たらしむるやうにしたのは歷史的環境の罪も亦與つて大であらう。ユダヤ民族が歷史的初期からその故國を追はれ、漂浪の民として訪づれる各國に於て、ありとあらゆる迫害や虐待を加へられて來た事は、此民族の根性をどんなにヒネこびらかするに與つて力あつたかは今更絮說する迄もない。他のいづれの

民族と雖もユダヤ人の如き境地に置かれ、ユダヤ人の如く虐待迫害を受けたら、その民族性が卑屈陰險とならざらんと欲するも能はずであつたらう。

ユダヤ人の陰謀癖や革命好きや貪慾や卑劣は此民族が自己防衛の爲めに幾世紀間不知不識に養ひ來つた民族性である。ユダヤ人は何も好んで自らシヤイロツクたらんと欲したのではない。ユダヤ人を包容した他の民族が之を强ひて爲さしめたのである。これはユダヤ民族史の數頁を讀んだ人々の一樣に首肯する事であらう。

云々と述べてゐる。カレント・オブ・ザ・ワールトの記者は、もはや日本にユダヤ禍說の如きは誰も人が相手にしないやうになつたのだらうと思つてゐる。然かもこの雜誌が發行されたと前後して、九州の一角にはユダヤ禍に關する書籍が發行され、三ケ月も遲れて東京の司法省にはユダヤ禍說が講義され、而して今また態々ユダヤ禍說を抹殺せんがために、この著述が執筆されつゝあるのである。記者をしてこの有樣を見せしめたなら、御苦勞樣とも何とも評しやうがないであらう。

本文執筆の最中、私の手許に雜誌『日本時代』の昭和三年十二月號が送附された。この雜誌は高須梅溪氏を主幹とする新東方協會の機關誌であるが、中に『世界の禍視せらるゝユダヤ人問題』

の題下、滿川龜太郎、口田康信、井上右近、川路柳虹四名の論叢が載つてゐる。口田康信氏は前廣島高等師範學校教授で、今は大邦社を主幹してゐる。氏は『猶太問題閑話』と題し、客主二人の問答體にしてこの問題を取扱つてゐる。

『然しそれには僞那印刷物があり、僞那噂があると云ふだけの事であつて、斯々の人數が現に斯る密會をして斯う云ふ運動を行つたと云ふ證據のないことである。共産黨の檢擧の樣に手入れの出來ないことは事實だ。言はゞ煙の樣な話である。此問題に就て眞面目に猶太禍を憂へて居る人もあるやうだが誤解じやないか。什麼も事實上こんな陰謀が行はるべき性質のものかは疑はしい。セルゲ・ニルスが陰謀決議錄プロトコールを宣傳し出したのは一九〇三年だから大分以前のことであるが、それから已後これと云つて陰謀の證據が擧つて居ない。マルクスが猶太人だ、トロツキー、ヨツフエが猶太人だからと云つて猶太人が現實に斯々の聯絡をとつて活動して居るとは考へられない。今日社會問題を起しつゝある爭鬪理論が猶太人の思想家によつて創造され、一部の猶太人が之に關係してゐるからと云つて直ちに陰謀と云ふことはどうか。大和民族は世界一家の傳統的大理想を抱持して居るからと云つて、日本を陰謀國とする譯には行くまい。』

『然し勞働運動其他一切の舊秩序破壞の運動が凡て猶太人の陰謀だとすると、運動の根據が判明し、社會秩序の公敵が判明するから敵本主義から云へば都合がいゝ譯だね。マルクスが唸う云ふ說を爲したと云ふだけでは敵愾心の遣場がないが、マルクスが猶太人で世界陰謀の元兇だと云へば如何にもマルクスが憎む可きものとなるから、既存のものは何でも辯護しやうとする立場には都合がいゝ。猶太禍が喧しく云はれるのも一半の原因は其處にあるかも知れないね。』などゝユダヤ禍論者の最も痛いところを突込んでゐる。

井上右近氏は三井甲之氏系統の日本主義者であるが、『猶太民族は基督を生みながらこれを迫害し慘殺したことによつても察せらるゝ通り物質主義者であり、性情に於て冷酷殘忍性または感傷呪咀的感情の所有者であるといひ得る』といひ『猶太人の陰謀なるものもこの性格の發露である。現今問題にされてゐるプロトコールなる祕密文書の如きまた遡つて舊約聖書及び猶太諸經典の如き、處々この民族性格を物語るところを見出さしむるのであるといつてゐる。これによれば氏はたしかにユダヤ禍說の肯定者である如くであるが、必ずしもユダヤ禍說の急先鋒たり宣傳者たりと目すべきではない。

川路柳虹氏は詩人として聞えてゐるが、氏の公平純眞なる立場から『耶蘇教國民の幻影か』と

題するユダヤ問題觀を聞き得たことは嬉しい。氏曰く、

『西洋人がユダヤ人に對する觀念は、日本人が特殊部落人に對すると同じやうなものだが、しかもユダヤ人の實力に對しては陰で惡く言ひ乍らも皆怖れをなしてゐる。この恐怖心が歐羅巴のユダヤ問題なるものを幻想化し、神祕化し、この現代に於て最も不可思議な幻影となつて現はされてゐるのである。』

『自分はユダヤ人問題を調べたことも硏究したこともない、時々外國の雜誌でこれに關する斷片的記事を見てさうかなと思ふ程度である。近ごろ日本の新聞にもちよいちよい話題にはなつてるやうだ。耶蘇教の牧師だつた酒井勝軍氏が俄に向き直つてこのユダヤ人の陰謀魔手の既に日本へも現はれてゐることをかいた記事もよんだが、その眞僞がどうであるかはむろん知らない。』

『そのプロトコールだつて甚だ眉唾もので、世界戰爭も猶太人の豫定の行動、露西亞革命もその豫定行動とくると、いさゝか大本教の御筆先に類する感じがする。』

『歐羅巴の耶蘇教國民にとつてこそシオニズムは謎でもあり、幻影でもあらう。大本教がその教理を神道へくつつければ、邪教を押し立てゝもついてくる人がうんとあるやうに耶蘇教と離

れることの出來ない西洋人にはもつてこいの神祕的な問題で、世界の動亂がみんなユダヤ人の操る糸だと思はせられゝばこの位世話のかゝらぬこともない。震災の時の朝鮮人のやうに、がそれよりもさう思はせ乍ら、そのスキに色々怪しからぬ事をしてゐる資本主義的陰謀家が世界にどの位多いか、――むしろその方を警戒する方が肝腎なのだ。』

利慾のための利慾、――あとは野となれ、山となれで、株の上げ下げを都合よくするために盛に國際間の離間策をいろ〳〵やる。御互の國家などは念頭におかないのだ。そして耶蘇教國の民衆を操るのに都合のいゝユダヤ問題などを以てきてタキつける。さうしてその關係株を暴騰さしたり、下落さしたり、勝手な眞似をして實は個人の懐を肥してホクソ笑むでゐる奴が、モンテカルロ邊で自動車を飛ばしていつでも悠々と遊んでゐる連中に多いといふことだ。』

云々と書いてゐる。

どうです、ユダヤ禍論者諸君。これでもまだ眼が覺めずに、ユダヤ人の陰謀説を振れ回はりますか。それとも、そんなことをいふお前達こそユダヤ禍にかぶれてゐるのだと主張しますか。

第五章　陥穽と挑戰

一　陥穽への徑路

ロシアにボルセウィキの革命が起つたのは一九一七年十一月、聯合軍の所謂過激派討伐はその翌年即ち大正七年八月であつた。我が日本も亦シベリアに出兵して四ケ年の間勞農ロシアと揉み合つたが、早々凍傷と共に我が國に輸入せられたのが即ちこのユダヤ禍である。實に『世界革命の一大陰謀——シオンの决議——マッソン祕密結社』といふが如き一大怪說が朝野の一角を驚かしたのは、大正八年春より遲くなかつた。

その頃世界に漲る革命の風潮は滔々として勢を逞くし、堅實を以て誇るイギリスすら或は顚覆の運命を見るのではないかと思はれたほどである。我が國に於ても亦著しき社會不安の諸相を呈し、人心恟々として止まるところを知らなかつた。米騷動に續く勞働爭議の頻發、パリ講和會議に反映する朝鮮獨立運動、生活困難より來る思想界の大動搖等、孰れか心ある人々をして一大異

變の發生を豫想せしめざるはなかつた。部内有數の戰略大家として聞え、海軍省軍務局長の要職にあつた某中將が深く大本教に凝り固まり、天變地異の發生を豫言すべく宮内省に駈け付けたといふのもこの頃であつた。かゝる折柄シベリア土産として齎らされたユダヤ禍が、火焰上更に油を注ぐ資料となつたことは、或は何の不思議でもなかつたかも知れぬ。

エ・ジ・ダニエルス氏の世界終末説(ハルマゲドン)

内村鑑三氏の基督再臨說

川島清治郎氏の貨幣廢止論

福田、吉野兩博士等の黎明會

筆者等が世話人たりし老壯會

北一輝氏の日本改造法案大綱

遠藤無水氏の財產奉還論

以上の諸說や會合は大正八年頃を中心としての所產であり、當時の人心に多かれ少なかれ影響を與へたこと言を須たぬ。迷妄としてのユダヤ禍說亦これらの中に交つて根を張り出した。大本教では盛にユダヤ禍說や基督再臨說を宣傳の材料に使用した。何れか眞、何れか贋、その鑑定は

具眼の士でなければ能はぬことであつた。

筆者が初めてユダヤ禍說を耳にし又議定書なるものゝ內容を讀んだのは大正八年春であつた。そんな馬鹿なことがあるものかと格別氣にも止めなかつた間に、これを信じこれを宣傳する人が非常に殖えて來た。ロシアの革命に對する反過激的の宣傳材料として恐らくこれに越したものは無かつたであらう。ユダヤ人といへばどんな顏をした人間か誰しも日本人に鑑別の付く話ではない。そのユダヤ人が恐るべき世界革命の陰謀團體を組織してゐるといへば、大抵の人は本當だと思ふ。カール・マルクスがユダヤ人であり、トロツキーがユダヤ人であるから世話はない。序でにレーニンまでもユダヤ人にして仕舞へば宜いのである。一方被告側のユダヤ人は世界的に無告の民である。假りにユダヤ人の持主である新聞にしたところで、ユダヤ人に肩を持つやうなことを書いては賣行が惡くなる。そこでユダヤ人に對する惡口は言ひ放なしとなつて、何でも歟でも世界の惡事はユダヤ人のせいいに塗り付けた。

吉野博士が『中央公論』誌上でユダヤ禍說を論破したのは大正十年六月である。筆者が初めてユダヤ禍說に一矢を放つたのは、その前年の大正九年七月『雄叫び』誌上であつたが、詳しくその迷妄を論破したのは吉野博士より一ヶ月後れた大正十年七月號『亞細亞時論』誌上であつた。

『亞細亞時論』は內田良平氏の主宰する黑龍會の機關雜誌であり、內田氏等はかつて國體擁護問題につき吉野博士と猛烈なる論爭を開いたことがある。それにも拘らず吉野博士と同說であるとして斥けず、私の論文『世界革命と猶太人に就て』の一篇を揭載したのである。尤もその後黑龍會主催暴露膺懲演說會の速記錄などを讀むと、田中舍身居士の演說の中に『ユダヤ人がロシアを乘取つたのは豫定の行動である。何となれば彼等は夙にマツソンといふ恐るべき祕密結社を組織し、二十四ケ條の世界顚覆計畫を決議してゐたといふではないか』といふ意味のことが述べられてあつた。何時の間にかユダヤ禍說が我が國の志士浪人といふべき一團の人々の頭腦に喰ひ込んでゐたことが判かるのである。松居錬石氏も亦その著述中、北上梅石氏に與ふる書を揭げて曰く、

私がどうして猶太問題研究を初めるやうになりましたか、其動機を簡單に申上げますと、大正十年の秋頃、日本讀書協會會報第七號中に『世界に誇る陰謀團』といふ頗る物騷千萬な標題の記事がありましたから、半ば好奇心にかられて讀んで行きますと、シオン決議錄の事や、フリー・メーソンの事や、佛蘭西革命の原因などの事が可なり詳しう書いてありますから、是れがほんたうか知らんと半信半疑でしたが、末尾に引用の參考書目なども書いてあつて相當信を置くに足るとは思ひましたが、マダ私は少しは疑つてゐました。處が十二年五月の雜誌『實業

に酒井勝軍氏の『猶太人の世界征略と日本の運命』といふのが出ましたから、猶太民族の大陰謀といふのは矢張り事實としてあるものかなあとやゝ信ずるやうになりました。そして間もなく酒井氏の『ユダヤ講演』が出ましたから、亞米利加系猶太人の陰謀が大體判りました。もう此時には私も大分猶太問題研究熱が高くなつて居ました。

私が貴著『猶太禍』を讀みましたのは、出版になりまして間もなき十二年の十二月でありました。之によりまして露西亞系猶太人の陰謀を知りました。そして其の陰謀の大仕掛なるに驚きました。私は此書は心ある人に是非讀んで頂きたいと思ひまして先輩や知己にも贈つて讀ませました。其頃四王天大佐の『勞働爭議と猶太問題』と題するパンフットも讀みました。又一面日々の新聞記事も注意して讀むやうになりました……。ところが大正十二年十二月十三日の『天業民報』の論説に『自由平等博愛の關係は如何』と題して……ありましたから私は曩きに貴著を讀んでこの三標語の因つて來る理由を知つてゐましたから、この論説が如何にも名論なるに敬服致しますと同時に、猶太問題に就て御研究があつてゐるであらうか否かと思ひ、もしマダ御研究がなければ是れは是非御すゝめしたいと思ひまして、大正十三年一月三十一日同紙主筆山川智應氏に一書を呈しました……。是によりまして國柱會内に於ては猶太問題研究を始

められました。十三年四月田中巳之助先生が衆議院議員立候補宣言せられた時の演說『世界的なるべき日本の國政』の中に猶太民族の陰謀に就て警告を與へられました。次で同年七月五日から二十四日まで十四囘に亘つて天業民報紙上に『猶太化か日本化か』と題して滔々として述べられました。田中大先生の此獅子吼に依つて最初に日蓮主義の人々が猶太禍に覺醒して來ました。實に有難いことゝ思つて居ます。

次に私は十三年七月二十九日付を以て全國に五萬の團員を有する修養團主幹蓮沼門三氏に思想を善導する前に、思想を混亂せしむる根源をつきとめる必要があると思ふ。而して私は思想を混亂せしめつゝある根源は猶太禍であると思ふから、是非此問題について御研究を願ひますと申してやりました處が、早速研究され、猶太民族の陰謀が事實であると感ぜられたと見えまして、雜誌『向上』十一月號及十二月號には堂々と『猶太民族の大陰謀』と警告を與へられました。かくて修養團員なる全國の青年の頭の中にも猶太人といふ事が少しは這入りましたでせうと思つて居ります。云々

この書を讀むと著者松居氏が如何にユダヤ禍の陷穽に陷つて行つたかの徑路を知ると共に、田中智學とか蓮沼門三とかいふ一廉の識者が如何にたわいいもなくユダヤ禍論者となつて、日蓮信者

や修養團員の間に宣傳して回つたかゞ手に取る如く窺はれるのである。――筆者はこの點に於て深く松居氏に感謝する。何となれば筆者は氏の著述に接するまでは、こんなにまで深くユダヤ禍説が根を張つて行つたかの徑路を知らなかつたからである。これでは司法省が檢事の思想講習會にユダヤ禍を選んだのも以所あるかな。然かしさすが修養團長たる平沼騏一郎氏のみは『そんなことは正確になつて居らぬ』といつてユダヤ禍説に同意しなかつたらしい。平沼氏は松居氏が修養團機關誌『向上』に送つたユダヤ問題の原稿を掲載することを見合すべく蓮沼主幹に注意してゐるのである。これは松居氏の著述中に平沼氏の名前等が伏字になつてゐるけれども、一讀直ぐそれと察せられる文章である。

ロシアの青年共産黨員等が一切の反對説に目かくしされて、眞一文字に共産主義の深淵に誘致さるゝが如く、ユダヤ禍論者は名ばかり研究といふ立前で、ユダヤ禍説の深淵に陥れられたのである。尤もそれは共産主義やユダヤ禍説に限らず、天理教でも金光教でも聖天様でも稲荷下ろしでも、皆同樣であるであらう。それほどの熱心な信者が出來なければ一宗一派の繁昌は期待されぬのである。

二 『過激派討伐』の材料として

大正十一年を前後とする數年間は筆者に取りユダヤ禍說との戰鬪に終始したといつてもよいほどの年であつた。筆者は大正八年早春、一篇の意見書を朝野識者の間に撒布して以來、勞農ロシアに對する正視と承認とに盡力しつゝあつたが――福田德三博士は最も筆者の意見に共鳴せられた、同博士著『暗雲錄』參照――自己の主張を貫徹せんがためにも、ロシアに對する誤解の最大理由『ユダヤ禍』そのものゝ撲滅を圖らなければならなかつた。八年九年十年十一年といふ間にユダヤ禍說は偉大なる成長を遂げ、驚くべき傳染力を發揮した。シベリアの政情が言語に絕する紛糾を極めた後、白派の沒落となり、チタに極東共和國なるものが出來、我が政府は窮餘これを相手に大連會議や長春會議の豫備交涉を開きつゝあつたとき、國內に漲るものはユダヤ禍より發散せる謬想であり、迷妄であつたのである。

筆者が神田如水會館に開かれたるロシア研究會席上、ユダヤ禍の迷妄を論破してロシア卽時承認を主張せし時、猛然として筆者に喰つてかゝつた樋口艶之助氏の怒聲の如何に高かつたかは、當時列席諸氏の今猶記憶に存することであらう。筆者は實にその時初めて樋口氏の如き熱心なる

ユダヤ禍論者の存在を知つたのである。その後數日、四谷の電車の中で圖らずも樋口氏と邂逅したとき、氏は『吉野もあんなことを言つたが今では大分判つて來てゐるよ』と言はれた。

當時老壯會で懇意にしてゐた陸軍中將佐藤鋼次郎氏は、新に國粹會關東本部の總裁となり機關雜誌を發行するに付き、筆者に對していろ〳〵の相談があつた。そのとき筆者は佐藤中將からユダヤ禍に對する質問を受けたので、それは以ての外の迷妄である所以を說明した。然かしその時はすでに中將の周圍にユダヤ禍說が包圍して居り、又中將自身の立場から考へてこの說を否定するの不利益であつたためか、遂に筆者の說に聽從されなかつたのである。

特に對手を名指してといふではなく、——又事實に於てユダヤ禍說は當時その說の如く出所が漠然たるものであつたから——筆者は尙も屈せずユダヤ禍說に對する一般的撲滅戰に從事しつゝあつた。然かしユダヤ禍說の傳染力も中々猖獗であつて、筆者が一彈を放てば、彼亦一彈を以て社會を迷はすといふ有樣であつた。別に揭げしが如く、筆者は『東方時論』『解放』『國本』その他の雜誌によつて機會ある每に戰を交へ來つたのである。然るにユダヤ禍論者のユダヤ禍說は大正九年正月號雜誌『公論』誌上『A祕密結社の驚くべき世界的大陰謀』と題して現はれたのを皮切として大正十年にはハルビン發行雜誌『極東』に附錄として『猶太硏究』の續載となり、十一

年六月にはボレッツキー著戸田一峰氏解說『國家を滅亡へ』の出版となつた。これらは公刊物として一般人の目に觸れたものであるが、特種の方法で限定された出版物も可なりあつたことゝ思はれる。筆者が大正八年春初めて見た議定書なるものもそれであつた。筆者が大正十一年冬、長崎旅行からの歸途山陽線に乘つてゐると、後方の座席に一團の帶劍靑年學生が何やらひそ〱書類を讀みつゝ話してゐたが、やがて途中の驛で下車したあとをふと見ると、一枚の謄寫刷印刷物が落ちてゐた。それは今尙筆者の手許に保存してゐるが、こんなことが書いてある。

御斷り

某日反過激の某武官より過激派硏究の資料にとて『過激主義と猶太人』『呪詛の猶太人』の小冊子二部を授けられたるも、當時之を飜譯すべき適當の人なく徒らに書籍箱中に埋沒し呻吟せしめ居たる處、幸にも露語通譯淺野氏本科の囑託となられしを好機として之が譯文を依賴したるに、今や『過激主義と猶太人』を殆ど完成せんとす。氏は私に向ひ語句難解にして譯文適當ならず、文章澁滯して解し難き箇所若干ある可きも大體の要點は捕捉しあり、妥當ならざる語句は訂正の上判讀せられたし、末輩者が斯る國際的書類に手を染め他人の閲覽に供するは烏滸釜敷次第なりと謙遜せらる。（中略）

茲に參考まで本册子を紹介するに臨み聊か御斷りの辭を述ぶると同時に長日月多忙なる業務の餘暇を以て飜譯に盡瘁せられたる氏の勞を謝す。

大正十一年八月十五日　　　　　　　　　　　　　　　　H　生

これを見ても如何にユダヤ禍說が過激派討伐、勞農政府否認の材料に供せられたるかゞ窺はれる。

我が國に水平社運動の起つたのは大正十一年三月である。之に引續いて朝鮮には白丁の運動が起つた。ユダヤ民族は世界の特殊部落民であるが故に、ユダヤ禍とこの水平社運動との間に必然的な連想が生れて、この運動またユダヤ禍の操縱し支配するところであるなどゝ誹謗せられた。翌大正十二年九月には關東の大震災があつた。十四年には但馬、十五年には丹後の大地震があつた。一方頻々たる共產黨の檢擧があり、人心は彌が上にも恟々として戰慄した。かゝる機會に乘じてユダヤ禍說がます〳〵猖獗したことはむしろ當然であつたかも知れない。大正十二年に北上氏の著が生れ、十三年に酒井氏の著が連發され、十四年には藤原氏や包荒子の著が出版された。もうよい加減に止むだらうと思つてゐてもユダヤ禍書の出版は絕へなかつた。昭和二年には包荒

子のフォード說解說が現はれ、三年には松居氏の小册子が出た。ユダヤ禍論者は一般の人々が荒唐無稽の說なりと一笑に附してゐる云々といつてゐるが、この說に接した大多數の地方人は勞働爭議や小作爭議の現狀と照合して、むしろこれを事實なりと信じてゐる。筆者が地方に出講して接した經驗からいふも左樣である。

三　挑戰されたる筆者

筆者は大正十五年の著作『世界現勢と大日本』の中に於て、及び昭和二年の著作『世界維新に面せる日本』の中に於て、ユダヤ陰謀論の所由なき所以を力說した。次で一年間連續執筆を依囑せられたる雜誌『日蓮主義』昭和三年八月號『虐げられたる民族としてのユダヤ人と黑人』と題する一篇中に於てもユダヤ禍說を痛擊したのである。これは多くのユダヤ禍信者を有するらしい日蓮主義者の間に、その迷妄なる所以を論ずるは決して徒爾ならじと考へたからである。然るに九月に至り、司法省の檢事講習會に四王天少將の講義ある由を知り、筆者の國家と人類とに奉公すべき任務のいよ〳〵重大なる所以を痛感してゐるところへ、『日本』新聞を見ると松居錬石著『猶太民族の大陰謀とは何ぞ』といふ書物の廣告が每日連載され出した。筆者はこの時まで松居

氏の名を知らず、その發賣所が天業民報社とあつたので、多分田中智學氏の國柱會に關係ある人であらうと想像してゐたのである。

筆者は司法省主催の講習會に出席した少壯檢事が四王天少將所講のユダヤ禍說を事實なりと思ふと云ひし由を耳にし、且つ驚き且つ悲しんだ。これはまことに別個の意味に於ける思想國難である。而してこの國難解決に當るべきは不肖筆者の一大責任であると。かくて筆者は雜誌『拓殖文化』のために『世界に漂泊するユダヤ民族の研究』一篇を艸し、次で雜誌『日本時代』よりユダヤ研究に關する一篇をと所望せられたるを好機として『ユダヤ人問題に就て』の一篇を執筆し、又筆者の關係せる拓殖大學及び立命館大學の講義に於ても特にユダヤ民族に論及し、ユダヤ民族を正視すべき必要を力說したのである。如上筆者は過去十年に亘つて聊かユダヤ問題のために奮鬪し來つた。ユダヤ禍論者よりの挑戰はもとより期待せしところである。

果然未知の河野清三郎氏より來翰があつた。氏は福岡市に居住し、自ら中等教育に從事してゐると書いてゐられる。氏は、ユダヤ問題に關する意見を列擧し、筆者に對して、取消を要求してゐる。曰く

現今に於ける思想の惡化は人類生活上の要求より發したるものに非ずして、猶太人の陰謀より

發したるものとす。卽ち彼等は宗教上より自己民族を神の選民と自稱し、世界を統一して一大帝國を建設せんとす。然るに彼等は亡國の民にして國家なく一兵もなし。故に武力を以て此一大使命を果すこと不可能なるを以て目的の爲めに手段を選ばずとし、遂に惡思想を宣傳し、不平者を煽動し、戰爭を製造し、又其の導火線に火を點じて各國家を其內部より崩壞し、目的を達せんとするものにして、其の證據左の如し。

一、彼等の絕對的に信奉する舊約聖書タルムード、トーラには之に關する豫言及訓言到る所に在り。

二、彼等は日々之が實現を神に祈り特に正月元日二日の祈禱の如きは寢食を忘れ、狂氣の如く泣き叫びて祈る有樣は他國人を驚嘆せしむ。

三、婚禮の際三々九度の席上にて新郞は盃を碎き子生れて七夜に割禮を行ふが如きも亦此目的を達するために外ならず。

四、亡國の民は滅亡すること常なるに彼等は二千數百年各國に寄生し、迫害に迫害を受けたるも滅亡せざるのみか、榮えに榮えて現今千五百萬人を算し、有爲の人物輩出し、世界の富の過半を占め、風俗習慣を固持しつゝあるも全く宗教上より一大使命を達せんとする希望に燃

ゆるが爲めなり。

五、彼等の祕密結社イスライル世界同盟は一八七〇年英人ジョンレードクリフ博士之を發見して其綱領を世に發表して以來約六十年、プロトコールは一九〇二年露人セルゲ・ニルス之を發見して世界に暴露せし以來二十六年を經過す。此等を研究して近來に於ける世界情勢及び我が國の現狀を見る時は悉く符合して實に動かすべからざる證左なり。

六、露國の革命は米國ニユーヨークにて彼等の祕密結社が計畫したるものにして、革命前同所より一週間に約八百人の彼等一味は露國に入込めり。

七、現在露國の執政官は五百四十四人にして內猶太人は四百四十七人なり。而して彼等は前記のプロトコールに在る如く極端なる專制壓迫政治を行ひつゝあり。

八、世界大戰の導火線に火を點じたる者は彼等及其一味なり。

九、佛國大革命も彼等及其一味の計畫なること掩ふべからざる事實なり。

十、近時猶太人の中にも我々の目的は大部分成功せるを以て最早左程祕密にする必要なしと公言するものあり。

以上の如くにして彼等の陰謀は一點疑なき事に候。而かも彼等は世界大戰に於て其目的の大部

分達成したるを以て、其運動も露骨となり、乗氣となりて我國に鋒尖を向け赤化せんとするものに御座候。然るに貴下は斯る明瞭なる事實なるにも拘らず其著『世界維新に面せる日本』及び『日蓮主義』八月號に於て『ユダヤ陰謀論の迷妄』として我國をも崩壊せんとする魔の手の張本人猶太人に斯る陰謀なしとて事實を以て世に警告する陰謀論を打消すとは如何なる御心底に候や其理由を御示し下され度候。

尙彼等の虐げられたるは事實に候へども彼等は自ら虐げらるゝ種子を蒔く故に候。卽ち數百若くは二千有餘年各國に寄生するも同化せず、國家內に國家を造りて生活し、筋肉勞働を厭ひて惡辣なる商業を營みて富を吸收し、前記の如き陰謀を以て其國家を攪亂せんとするを以て迫害を受けたる事多きものに御座候。黑人等と同視し同情するは盲目的の同情に御座候。（中略）

尙本問題を絕叫して世を警醒する人尠少なるは左の原因なるべしと考へられ候。

一、講演又は書籍等にて此事實を見聞するも事柄が餘り大なる故信ぜざるもの多きこと。

二、之を信ずるも我國民は大丈夫なりとて樂觀するもの多きこと。

三、之を知るも自己が旣に此思想に化ぶれ居るを以て之を排斥することを好まざるのみならず、寧ろ之を擁護せんとするもの甚だ多きが如し。

四、國際關係を顧慮する者。（政治家の如き）

五、彼等及び其一味を恐るゝ者。

六、彼等に買收せらるゝ者。（彼等採消運動及逆宣傳書籍を買占め世に出さゞる如くする運動は猛烈なれば、非猶太人を買收するは當然のことなり。）

要するに國家の存亡に關する一大問題の警告論を迷妄として排撃せらるゝは如何にも疑惑に堪へざる事に御座候。尙失禮の言には候へ共御地には此問題研究權威者も多數有之、書籍の發賣も多く候に付此等に就き御研究の上前記貴下の論文は御取消相成度萬一陰謀論を飽くで迷妄なりと主張せらるゝならば詳細に其理由發表相成度候。

昭和三年十月二十日　　河野清三郎

滿川龜太郎殿

筆者は取り敢へず大竹博吉兄の『猶太禍……禍』所載『東洋』昭和三年十一月號（後出本文一七一―一八〇頁）を河野氏に贈り、『これを讀んでから小生に取消しを要求されても決して遲くは無之候。』云々といふ返事を出した。

筆者はまたかねてユダヤ禍說に就き、平凡社長下中彌三郎兄に話してゐたが、右河野氏よりの挑戰狀を機とし、一度肯定否定の兩論者を會して座談會を開き、その速記錄を雜誌『平凡』誌上に揭ぐることゝなつた。座談會は十一月七日午後五時より麴町區富士見軒に於て催ふされた。出席者は肯定者側より樋口艶之助、酒井勝軍、大石隆基の三氏、否定者側より大竹博吉、筆者の二名、中立としての信夫淳平氏、並に平凡社長下中彌三郎、同編輯局長志垣寬の兩氏を合せて八名であつた。尙吉野作造、黑田禮二、中平亮、田中智學、赤池濃、今井時郎諸氏にも平凡社から案内狀が發せられたが、事故があつて缺席された。四王天延孝氏へは現住所が京都であり、且つ御大典のため到底出席は望まれまいとて案內されなかつた。

この座談會に於て筆者は久し振りに樋口氏と相見えた。氏の風丰には烈士暮年の情が現はれてゐたが、最早往年の如き大聲叱咤さるゝが如きことはなかつた。『もう俗界と絕つて每日釣ばかりしてゐる、今日も釣に行つてゐた歸途だ』と言はれた。筆者はまたかねて噂に承知してゐた酒井勝軍氏と初對面した。氏によつて松居錬石氏が福岡縣の人なること、並に松居氏がその經營せる雜誌『建設』の九十兩月號に、筆者を反駁せる論文を揭げてゐることを知つた。酒井氏は筆者に對し『松居君が貴下を誤解してゐるのです』と言はれた。氏はまた下中兄が『パレスタインへ御出

でになつてから大分御說が變つたやうに承はりましたが』との問に對し『イヤ私の說は少しも變つてゐない。ユダヤ人の惡口を言はないのは私だけです』と答へられた。松居氏が福岡縣の人なるに徵して、河野氏が松居氏と密接なる同志關係であることが察せられた。

正式の座談會を始めてからの問答は、『平凡』昭和四年三月號に掲げられ、また本書卷末に附錄として轉載された通りであるから、讀者は就て閱讀されむことを望む。

筆者がこの座談會より歸宅せし翌朝、松居氏より左の書翰に添へてその著書並に『建設』誌二冊を送つて來た。

昭和三年十一月五日　　　　松居甚一郞

拜啓未だ拜顏の榮を得ず候へども一書呈上仕候。

小生事昨年貴著『世界維新に面せる日本』を拜讀致したる際猶太人の陰謀說を否定せられ居候間愚見を呈して御高教を仰ぎ度存居候ひしも何かと取紛れ其まゝと相成居候處『日蓮主義』八月號に於て同書と同じやうな意味の事が載せられ居候條、數年來猶太問題を研究致したる結果その陰謀說は動かすべからざる事實と信じ居候小生としては、只あれ丈けの事にては今日ま

での確信を覆へすを得ず候間更に先生の御高教を仰度雜誌『建設』九月、十月號に於て猶太人陰謀說に就て滿川龜太郎氏に與ふなる拙文を掲載致し、一方『日蓮主義』編輯人加藤文雄氏に拙稿送附申上候。其際先生にも『建設』御贈呈申上度考へ居候も御住所不明の爲今日まで延引致、昨日知人より承り早速御贈呈申上候條何卒御高覽の上御高教賜度候。猶太問題は今日世界的に研究せられつゝある大問題に候へば、小生としても私情を挿みて先生を攻擊するやうな不都合な考へのない事は茲に明瞭に申上置候。(中略)拙著『猶太民族の大陰謀とは何ぞ』一部贈呈仕候條御批評仰度候。拜具

尙前記雜誌『建設』上には、筆者の兩文を冒頭に引用し、吉野博士とか厨川博士とか西洋かぶれした學者なら兎に角、滿川氏の如き東洋思想を皷吹し、日本主義に立脚してゐる人がこの明々白々たるユダヤ禍を否定して、之を說く者に對し『不見識極まる話』とか『甚しい迷妄』とか斷ずるのは不都合も甚しいとて、論據となるべき數ケ條を擧げてあつた。然かしその論據とは、從來ユダヤ禍論者が言ひ古るせしところを一步も出たものではなかつた。たゞ筆者は氏より贈られたる著述を讀んで、前記せし如く氏が非常に熱心なるユダヤ禍宣傳者なることを知り、又氏によつて多くの識者や敎育家が容易に信者の仲間に引入れられつゝあることを初めて承はり驚嘆之を

久しうしたのである。

ところがその翌日酒井氏からも一葉の書箋來り、松居氏論文所掲の『建設』誌を添へ送つて來た。酒井氏の書面には

一日も速かに此迷蒙を拓き度きものに候。御健闘を祈る。云々（口繪參照）

とある。この『迷蒙』は筆者の『迷蒙』にあらざること明かである、何となれば健闘を祈る云々の文句あるに徴しても。筆者は長文の返翰を松居氏に認め、讀了後は河野氏に回附せんことを依頼すると共に、原稿紙四十枚に近き『ユダヤ禍の迷妄』を執筆して、福岡市なる九州日報社に送り、河野、松居兩氏に對する返答に代へた。然かも筆者は之を以て滿足せず、更に長篇の本書執筆に着手したのである。

かゝる間にも筆者はまた河野、松居兩氏との間に直接書信戰を戰つた。筆者發信の控を缺くので大體の文意しか記憶せぬが、受信の方は書翰の現物が左の如く殘つてゐる。

（松居氏より　昭和三年十一月十日付）

……七日夜平凡社主催にて富士見軒に於てユダヤ禍問題の懇親會開催せられ候由、時節柄良い思付に御座候。酒井勝軍氏も御出席相成候由色々と御意見も出で隨分と面白かりし事と遙に想

像致居候……。猶太問題に對し貴殿と小生とはその見方が大分違つて居らやうに御座候間先般『建設』誌上に於て愚見の一端を述べ貴殿の御考慮を煩はし候處、近日之に對し九州日報紙上に於て『ユダヤ禍の迷妄』と題し御執筆下さる由につき樂しんで拜讀可仕候。御承知の如く猶太問題はマルクスの當時からも可なり八釜しく論ぜられ候がロシア大革命後一層重要視せられ、最近ロンドン留學中の日本大學教授K氏の書面中にも『最近獨逸にも盛に民間に猶太問題を研究してゐる相です』と有之、猶太問題の研究は極めて重要なる事と存じ候間互に意見の異なる處を鬪はして考究する事も穴勝ち無駄でないと信じ候條何卒御高教賜り度御願申上候。(下略)

(松居氏より　同年十一月十一日付)

猶太問題に關して重ねて詳細な御手紙頂き難有存じます。不思議な緣から相見ずともかうして文書を交換する事も天下の快事の一つであります。

御手紙によりますと酒井氏が先夜貴下に對して私が貴說を誤解してゐるといはれたさうですから、今夜早速同氏に書面を出して私が誤解といふのはどんな意味でせうかと尋ねてやりました。私が猶太人の陰謀說を信ずるやうになりましたのは昨夜の書面に同封して置きました『猶太問題研究資料』に印刷した著書や新聞、雜誌から綜合して得た結論ですから若し此等の諸說か全

く捏造僞作のものであるとすれば最早や議論は盡きるのであります。私は猶太人の陰謀などゝいふ甚だ不祥事は言ひたくないのであるが、之れまで讀んだり聞いたりした事を綜合して考へるとマサカ嘘とも思へませぬから大に猶太禍を絶叫してゐるのです。それで私のこの信念を打ち破る丈けの强い有力な資料を提供して頂きたいのであります。

私も貴下が公明なる心事を以て該問題を論じて居られる事を信じます。又私も冷静に理智的に批判して行きたいと思つてゐます。物は徹底的に研究せなくてはその眞相を捕ふる事が出來ません。猶太問題にしても一寸讀み嚙つたり、聞き嚙つたりした丈けで批判すると間違ひます。今日まで大部分の人がさうだと思ひます。然るに貴下が該問題に對して眞劍に御研究されてその眞相を闡明しようと努力されてゐますことは誠に感謝に堪へません。

御手紙によりますとマルクスやレーニンが悪人であるなら正々堂々とマルクスの理論に反對すればよい、ユダヤ人全體を悪人とすることは日本民族としての耻辱ではないかとありましたが、私はマルクスの理論が科學的でも何でもなく一つの空想に過ぎないといふ事は已に『時事隨感』に論じて置きましたから別封を以て御贈り致します。次に一言して置きますのは私はユダヤ人全部が悪者で陰謀を企てゝゐるとは申しません。フォードの言を借用して『其內の一部分卽ち

世界操縦の猶太人』であるといふのであります。此點は特に御注意願ひます。（下略）

（河野氏より　同年十一月十三日）

早速御返書及雜誌を御恵送下され難有奉深謝候。却說雜誌中大竹氏の『猶太禍の禍』を熟讀仕候處、單純なる一事を以て明瞭にして組織的なる世界的一大事實を否定する氏の大膽にして暴狀なる事には一驚を喫し、同時に其心事を大に怪むものに候。今其理由を左に開陳可仕候。

一、氏は『猶太人古代の神祕的なる宗教上の經典を信じて彼等に陰謀ある如く喧傳するものあるも斯る神祕的なる宗教心は既に去りたるを以て陰謀など企てる筈なし』との意味に論ぜらるゝも是れ大なる誤なり。彼等は二千年來亡國の民となり、世界各國に寄生するも其國に同化せず又如何に迫害せらるゝも滅亡せざるのみか益々發展して其人口は現今約千五百五十萬人を算し、而かも人材輩出して各方面に優勢を占め世界の富の過半を握りたるは燃ゆるが如き宗教心の結果なり。從て神よりの選民思想愈々盛にして其使命卽ち世界を統一してシオン帝國を建設せんとする信念は衰ふる理由なく、其日常生活の狀態熱烈なる祈禱割禮悲愴なる結婚儀式は毫も衰へざる證左なり。

二、猶太禍を高唱する研究權威者は數年間歐米各國に遊歷して親しく其社會狀態及び猶太人並

に其一味の狀況を視察し尙彼等と交り其家庭にも出入して表裏兩面より洞察したる事實を基調とし、尙各國にて出版せる猶太禍の書物多數を參考として研究したるもの、卽ち危險を犯し心血を注ぎて得たるものにして論者の論ずる如くイワノフの宣傳によりたる薄弱不確實のものに非ず。然るに論者は臆測を逞ふして獨斷的に彼の宣傳に依りたるものゝ如く論ずるは誣ふるも甚だし。

三、猶太陰謀の發覺は一八七〇年英人ジョンレートクリフ博士に依りて發見公表せられたるものにして大に物議を醸し大問題となりしが、彼等の辯解書の買占め、其他有らゆる揉消運動に由り一時鎭靜したるも、爾來新事實續々發見と共に各國に於て盛に論議せらるゝに至りたるものなり。

我國は世界大戰前には彼等と交涉極めて稀にして且つ日露戰役には米國猶太銀行より財政的援助（眞意は日本を利用して露國を倒さんとするにあり）を受けたるを以て常に彼等に好意を有し、偶々陰謀說を聞くも信ぜず又信ずるも今までの關係上論議を避けたり。然るに大戰中及其後彼等は目的の大部を達成したるを以て其運動も大に露骨となり、尙其鋒尖我國に向け來る故に論議盛となり警戒を加ふるに至りしものなり。

四、イワノフは白系の露人なれば其祖國彼等に奪はれたる故に、憤慨の餘或は誇大の言を弄したるやも知れず、假令彼等の言全然虚構なりとするも之を以て猶太禍を否認するを得ず、如何となれば此問題は一個人一局部のものに非ずして世界的一大事實なればなり。

五、論者がイワノフの取出したる一抱への書類を一見して直に全部を偽物なりとなすは早計に非ずや。如何となれば斯の浩瀚なる書類の內容は一見して理解するものに非ず、是れ何物か先入主となりて一種の偏見に囚れたるものに非ずや。

之を要するに大竹氏の所論は其根據極めて薄弱にして獨斷的なれば信を置くことを得ず。

六、統計から見たソヴエト・ロシア事情に就て。

露國勞農政府と第三インターナショナルとは表面は無關係なるも裏面に於ては同體なることは掩ふべからざる事實なり。而して彼等は其陰謀と自己の弱點とは極力掩蔽し、潜航艇式に其目的を達せんとする政策を採用するを以て常に虚僞を弄し、言論機關と出版權を獨占せるを奇貨とし、自己の弱點不利益なることは之を避け自己の都合よきことは大々的に掲載し或は事實を曲筆し或は輿論を揑造するものなれば、彼等の言論或は印刷物を見て直ちに之を信用するは大なる危險なり。故に標題の件も信を置き難し。

以上論ずる如く大竹氏の所論を以て猶太禍論を迷妄なりと斷ずることを得ざる者に候。……

尚二三事實を申上げ御參考に可供候。

一、露國革命は米國ニユーヨークに於て計畫し（猶太祕密結社が）而して其資金は各國の彼等の富豪より出費したるものなること確實なり。現在勞農政府の執政官中八割强は猶太人にして又は此革命中露國富豪は悲慘なる最後を遂げたるも猶太富豪等は何等の損害を受けず、益々其大を爲しつゝあるは陰謀事實を裏書するものに非ずや。

二、露國の共產主義政策は極端なる專制政治にして且つ壓制なり。猶太教理に則り陰謀の筋書に合せり。

三、近世各國の革命又は叛亂の張本人には彼等の加入せざるものなきは陰謀事實を語る確實なる證據なり。世界大戰を計畫し導火を爲したるものは何人か、カイゼルに非ず、英人に非ず、彼等の祕密結社なり。

四、彼等は二千年來祖國の恢復を熱望し特に近代シオン運動を起し、祖國を恢復して世界各所に寄生する同胞を歸還せしめ猶太國を建設するを目的なりとし、大戰中及び其前後に於て目覺しき活動をなしたる結果、戰後事實上目的を達したるを以て續々歸還する筈なるに約十年

を經過する今日僅に二三萬人歸國したるのみなるは何を語るか。

五、一九一八年シベリアコルチヤツク軍が衝天の勢を以て將に歐露に進入せんとして俄かに退軍し終に全く崩壞したるは英國猶太人等の策にして其一人なるサンダソン大尉を極東に急行せしめ、上海等に於てコルチヤツク軍に不利なる輿論を喚起し餘義なく退軍せしめたるためなり。又一九一九年二月南露に於て佛軍師團と協同し、破竹の勢を以て過激派軍を破り長驅前進したるデニキン軍が一朝敗北して又起つ能はざるに至れるは、佛軍參謀長猶太人フリーデンベルグ及びオデッサ領事猶太人エノ夫妻等が過激派軍に勝利を得せしむるため之に內應して情況を密報し、且つ不意に佛軍を退守せしめたるため戰線に大なる缺陷を生じたるためなり。

六、彼等は既に世界の富過半を握るも尚且つ汲々として富を獲得せんとするは何故なるや。全力を以て非猶太人を壓伏せんが爲めなり。近時彼等の會社は漸次トラストとし、一大資本力を以て非猶太人を壓伏し其膝下に屈伏せしめんがためなり。尙言論機關通信網の獨占を企て、既に其大部は彼等の手に歸せり。近時蟒寸事業の獨占を企圖し會社買收の手は既に我神戸邊まで伸びつゝあり。

七、羅馬尼王室の御家騷動は英明なる皇太子に猶太女を近付け、色仕掛にて退位を餘義なくせしめ、幼主を擁立して王威の振はざるに乘じ漸次平和的革命に由り共和政となさんとする彼等の陰謀なり。

八、大正十五年二月の上海時論に上海福民醫院長頓宮博士の論文『驚嘆すべき猶太民族の世界政策』中に在る氏の交友猶太人の實話は何を語るか、彼等陰謀の動かすべからざる生證據なり。

九、露國は日本に對抗する目的を以て露獨の猶太人をシベリアに移民して一大共和國を建設せんとす。而して其資金は米國の猶太富豪より出費し着々計畫を進めつゝありといふ。

前便及び本便の通り幾多の事實有之候に付貴下は全部虛構なりとて否定するを得ざるべくと存候。要するに此問題は國家の一大問題なれば御互に感情に走らず、自己の利害に關せず、最も眞面目に研究する事肝要に御座候。貴下も一意に陰謀論を否定せず御研究の上彼等陰謀の一事實を發見せられ度御忠告申上候。尙本文を大竹氏の御一覽に供し被下度願上候。

（松居氏より　同年十一月二十六日）

（前略）酒井氏からは早速御返事が參りました。先夜の座談會の大體の模樣と最後酒井氏の意見

を認めてありました。

『余は猶太問題は極めて複雜し居るを以て一面の觀察を以て直ちに是非するは不可ない。余は樋口君と共に猶太人の世界革命運動を認むるも亦滿川君と共に今後日本は猶太人と提携する外途なきを信ず。歐羅巴は猶太人に覆滅せられたればとて之を以て猶太人を世界の惡魔なりと斷ずるは非なり……』

と可なり長く書いてありましたが、同氏が最近親猶主義（以前もその傾向にありましたやうですが）になられた事や何かについて私の考へを述べたいと思ひますが之は可なり長くなるやうですから後日に讓る事に致しませう。（下略）

（河野氏より　同年十二月二日）

拜復御返翰並に松居氏宛の御書翰拜誦仕候。貴地に於て御開催の猶太問題座談會に於て酒井氏は貴說に贊意を表し、樋口氏も餘り論爭せざるため貴下は大勝利を得たる如く御自信の如くなるも、元來酒井氏は最初猶太陰謀論を高唱して國民に警告を與へたるも、後には三J政策を採り日本は猶太の後裔の如く論じ以て兩者を握手せしめんとする論者なる事は、其著書及講演に依りて明かに候。故に今日氏の立場は彼等の陰謀を知るも陰謀論者として表面より彼等を排斥

する事爲し得ざるものにして、貴説に贊意を表するは當然過ぎたる當然に候。樋口氏が餘り論爭せざるも何等かの都合に由るものにして貴下の論に屈伏したるものには非ずと存候。貴下が前記座談會に於て有利の位置に立ちたると大竹氏とイワノフとの會見狀況とを以て、多岐複雜なる世界的大事實たる猶太陰謀論を迷妄として駁擊するは如何に考ふるも不可解の事に候。併し不日九州日報紙上に御揭載の由に付其御名論卓說を拜讀可仕鶴首待居候。但し如何に名論卓說と雖も事實を打消す事は不可能に候。當方に於ても貴說に對抗する覺悟と準備有之候に付今後新聞紙等に於て正々堂々會戰可仕候。

要するに彼等猶太人の陰謀祕密結社は潛航艇式に各國の弱點に乘じて活躍するものなれば、萬一貴說勝を制し陰謀論打消さるゝ時は、國民の警戒心一層弛緩し彼等に乘ぜられ、國民思想の頹敗を招くは火を睹るよりも明かなる事に候。歐米の例に徵すれば彼等は陰謀發覺して不利に陷りたる時は猛烈なる揉消運動を爲し、漸次其國民の感情を和げ警戒心を緩めしむるは常套手段に候。故に先覺者は此陰謀事實を國民に周知せしめ警戒を加へしむる事其義務に御座候。此見地よりして小生は一大覺悟を以て陰謀論を擁護し貴下と論爭する者に御座候。右愚見の一端を開陳申上候。敬白。

筆者は河野氏の希望もあつたので、右兩氏の來翰を一束にして大竹君に示したところ、大竹君より十二月十二日付左の來葉があつた。

……ユダヤ禍論者諸先生の書翰一束を拜見いたしました。小生としては同じ日本人にてありながら斯うも物の觀方がちがふものかと嘆息する以外には別に言葉もありません。河野氏が十一月十三日附の手紙にあげて居られる九項ばかりの指摘は、幸か不幸か最近十年ばかりロシア革命とロシア事情の研究に微力を盡してゐる小生には殆ど全部首肯し難いばかりか、よくもかゝる單純な作り話を我々の同胞であり、多少とも教養ある人々が信じてゐることだと驚くの外はありません。八百人のユダヤ人がニユーヨークからロシアへ乘込んだためにロシア革命が起つたと信ずる以上、ラシエヴイチがハルビンへ來たから日本があぶないと信ずるのも當然かと思はれます。マルクスの理論は空想的でユダヤ禍論は科學的研究の成果だと信じてゐる人のあることを知りました。

第五章　迷妄の打破

一　僞　書

筆者はこれからいよ〱迷妄打破に取りかゝる。先づユダヤ禍論者の最大典據ともいふべき議定書（プロトコール）の價値如何といふことである。

ユダヤ禍論者は議定書を指して、ユダヤの賢哲等が會合して決議した記錄であるといつてゐる。ユダヤ禍論者の主張には奇怪なことが澤山あるが、その人達が見て最も惡むべき「世界破壞」の計畫書に對し、『賢哲』が集つて決議したものであるとは、聞いたゞけでも辻褄が合はぬ話である。それならば日本共產黨の祕密政綱は日本の賢哲等が會合して決議したものであるといひ得るか。我々の常識からいつても賢哲とは、そんなユダヤ人の都合のいゝことばかりを計畫する一團の人々とは考へられぬのである。賢哲が世界破壞の陰謀を企らむだといふことは楠正成が南朝倒壞を企らむだといふことゝ同然である。然らばそれは『賢哲』でなくて『變哲』であらう。尤も

ユダヤ問題は非常に複雜してゐるから、簡單なる常識で解釋出來ぬといふならば、最早筆者は御相手することの御免を蒙りたい。何となれば、この忙はしい世の中に松澤病院行きの人達を眞面目になつて相手としては居られぬからである。それは如何なる場合にも科學と論理との綜合的常識の上に立つて事物の判斷に從へる筆者の領域を離れて、變體心理の權威中村古峽氏あたりの手に回附しなければならぬからである。

『前警視總監某氏は靜岡市のユダヤ禍論者諏訪部一之輔氏に與へてこの議定書を眞なりとして曰く

右は我等同志の人の千辛萬苦して露國にて得たる原本によりて譯せるものに有之、『議定書』の眞を疑ふ者有之候も小生等はこれを眞なりとし、少くとも世間は此議定書によりて動かされつつあるは蔽ふ可らざる事實に候。

と、又曰く

佛國革命以來、世界革命は悉く美名の下に民衆を煽動し、又經濟界壓迫の下に貧民を激發せしめ、以て暴動革命に誘きたる猶太人の陰謀に有之、險惡なる世相は彼等の組織的計畫の下に誘發紛糾せしめられたるもの多く有之、近來我國に於て提唱さるゝ諸說又は實行又は暗示により

て隆盛に相成、一般民衆は不知不識の裡に之れに感化され、彼等の中毒に禍されてゐる次第、從つて此際は猶太の本體と其行動を分明するは卽ち世人を覺醒する所以に有之云々』

これは松居鍊石氏の著書から引用したのであるが、前警視總監の何人であるかは大抵想像は付くが、松居氏が祕してゐるのだから强ひてこれをこゝに明かにする必要もない。兎に角前警視總監とか、陸軍の將軍とか、新聞主筆とか、敎授とか、博士とか、學士とかの有識階級の人々がこの議定書を眞たりとし、盛にユダヤ禍を論唱してゐるからと言つて、それで直ちに議定書やユダヤ禍を肯定することは出來ないのである。

筆者は先日郊外の某池畔に催ふされたる海舟南洲遺墨展覽會から招かれて參觀したが、その中に明白なる南洲の僞書が陳列されてあつた。筆者は過ぐる二ケ年を『大西鄕全集』の編纂委員として、聊か這の大先哲の風格書韻に接し得たのであるが、その明白なる僞書であるといふ證據は、書を見ずしても『大聲呼酒坐高樓。豪氣欲呑五大州』云々といふ詩に徵して明かである。かくの如きは『洛陽知己皆爲鬼。南嶼俘囚獨竊生』といひ『回首十有餘年夢。空隔幽明哭墓前』といひしほどの謙虛なる大西鄕の詩としては似てもつかぬ增上慢のものであつて、維新の當時そこらあたりをごろつき囘つた勤王屋の怒鳴りそうな文句である。現に鹿兒島市に近き國分には國分南洲

と稱せらるゝ男があつて、盛に大西鄕の僞筆を書いてゐる。然かし彼自身としては號を南洲と稱するのだから致方もないらしい。この書が國分南洲の書であるや否やはもとより穿鑿する要もないが、かゝる一見明白なる僞書をつかまされて、この會の主催者は氣が注かなかつたのである。主催者は社會に信用ある名士を網羅する財團法人であり、南洲海舟の偉業を後生に顯彰することを目的としてゐるのである。而してこの展覽會には高貴の方々も臺覽に成つてゐるのである。

この例と同じくユダヤ禍論者に社會的名士を網羅し、ユダヤ禍書の中に『賜天覽』の朱印が捺かれてあつたからとて、それを以て必ずしもユダヤ禍說が眞であり、議定書が僞書でないといふことは出來ない。

世には可なりに僞書といふものが存在してゐる。そして僞書はそれ自身に於て存在の價値を有してゐる場合がある。又僞書にして他を傷け、社會を誤らない限りは必ずしも深く咎むべからざる者もある。一七六二年キャピテン・クックが太平洋の探檢航海に從事し、大にヨーロッパ人の好奇心をこの方面に集中せしめつゝあつた時、ブサルマンデルなる男はフォルモサ人(臺灣人)と稱して突如英國に出現し、フォルモサを以てオコツク海に在りとし、盛にフォルモサの地理、言語、人情、風俗等を製造して時人の好奇心に投じたが、遂にオックスフォード大學に於てフォル

モサに關する一講座を擔當し、フォルモサ語の文法までも講義したといふことである。こんな話は僞作の念入りとして極端なものであるが、それほどでなくとも我が國に於てもその實例には決して乏しくないのである。僞作として世間に擧げらるゝ有名なものには、何々古文書とか何々書とかゞあるやうであるが、筆者の接したる明白なる僞作はヨーロッパ大戰の初期に出版せられたる『朕が作戰』であつた。これはカイゼルの原著で邦人の譯となつてゐたが、盜み出して世に暴露するに至つたといふ徑路は『議定書』と同工異曲であつた。但しこの方はカイゼル原著とあつたが誰しもその原著を見たものが無かつた。我が參謀本部の將校は譯者を訪ふて原著の閲覽を迫つたが、譯者は言を左右に托して之を拒んだ云々と當時の『萬朝報』に出てゐたのである。これは譯者と稱する人の僞作であつたから、他人に示すべき原著が無かつた明かな證據である。然るにこの譯書は非常に巧妙に作製せられ、カイゼルの世界征服の野心を窺ふに足るものがあつたからであらう、上村海軍大將や松方公爵が大にこの書籍を感讀し、弘く知友の間にこれが購讀を勸めてゐたのである。筆者の知人たる司法界の一先輩も「とう〳〵『朕が作戰』には一杯喰はされた、これは我輩一代の不覺だつた」と筆者に語られたことがある。

民國五年の頃、時の大總統袁世凱は支那皇帝たらんとする野望を抱き、籌安會を起して盛に支

邪帝制論を唱道せしめ、洪憲なる新元號を創定して大事殆ど成らんとした。時にたゞ一つの邪魔物が邦人經營の『順天時報』であつたので、袁は部下に托するに鉅額の黄金を以てし、同紙を買收せんと企てたのである。然るに部下は買收費を悉く私腹に投じ、袁に欺くには『順天時報』の僞物を供した。袁はそれとも知らず、有繋の侃諤の論を唱へし『順天時報』が、黄金のため一夜にして袁帝制說を讃美せし態度の一變に雀躍したのである。

公債や株券の僞造さるゝ世の中に、新聞紙の僞造されることも多く怪しむに足らない。先年ロンドンでも勞農新聞プラウダの僞造されたことがある。その新聞には勞農政府が殆ど破滅に瀕してゐるやうな記事があつた。これは當時イギリスの勞働者が動もすればソヴエト革命の方式に走らんとする傾向があつたので、これを阻止すべく企てた仕事であつた。

先年イギリスの政界に大波瀾を起さしめ、遂に勞働黨内閣の瓦壞を招いたジノヴィエフ書翰なるものも、漸く近頃になつてそれが僞物であつたことが分つた。然かし今更それが分つたからとて、取て代つた保守黨内閣が辭めるものではない。結局勞働黨内閣こそよい迷惑であつたのである。その後起つたアルコス・ハウスの家宅捜索事件もその根柢には、反古となつたロシアの石油株を釣上げんとするイギリス資本家の魂膽が潛んでゐた。そしてイギリスの内務省と外務省と

は全く意見が背馳してゐたのであるが、遂に內務省一部の獨斷專行によつてあの家宅搜索が行はれたのである。ロシアの宣傳を恐るゝこと凡そイギリスに及ぶ國は無からう。それだけイギリスは屢々僞の材料をつかまされる。今日ヨーロッパの中央には有らゆる國際關係の祕密材料ともいふべき僞物を製造する一團がある。時にはこれを僞物と知りつゝ、知らぬ顏して爲めにすることもある。イギリスの保守黨內閣はアルコス・ハウス事件を口實としてロシアと斷交した。然かし利益に敏きイギリス商人は依然として對露貿易に從つてゐる。近所交際はしないが、商賣だけは拔け目なくするところに、アングロ・サクソンの民族性が輝いてゐる。もとより世に傳へらるゝ所謂ロシアの宣傳なるものが全然無いといふのではない。世界の鬪爭は虛々實々である。我々は聰明なる眼を放ち、光明正大なる見地に立つて有らゆる事物を正視せねばならぬ。アルコス・ハウスの家宅搜索からは、遺憾ながら正確なる材料と覺しきものが出て來なかつた。然かしイギリスはこれによつて對露斷交の口實を得、內閣の壽命を延ばし得た。

民政黨代議士中野正剛君がロシアから十萬圓貰つたといふ材料を揑造され、議會に問題となつたことも時人の記憶に尙新しいことであらう。あれは中野君によつて議會に田中、山梨兩大將の機密費事件が暴露された反對黨のシッペイ返へしであつたこと一目瞭然である。當時反對黨が如

何に中野君を陷るべく材料を僞造するに努めたかは、むしろ滑稽なほどであつた。

筆者は大正八年議定書を一見するなり、直ちに之を以て『朕が作戰』に連想し、僞物なりと斷定したのである。筆者とユダヤ禍論者との相違は、これを僞物と看破したか、實物と信じたかの相違である。その相違がやがて今日千里の差を生じて、こゝに相見ゆるの已むなき次第となつたのである。

北上梅石氏はその著『猶太禍』に於て、議定書を眞なりとする大なる確信に燃えて書いてゐる。然かし該書出版後五年の今日、ユダヤ問題座談會に於ては飽くまでもその眞書なるを爭はずして、『信ずると信じないとは各人の自由であるが、世の中はアレに書いてある通りになつて來てゐるのだから仕方がない。卽ち普通選擧が通つて民權が增大し、勞働爭議が頻發して主權の統制力が弛み、自由平等博愛の思想によつて社會は全く腐敗墮落して來たではないか』といふ意味を述べてゐる。酒井勝軍氏は最初から『議定書は僞作であるといふ說もあるが僞作にしても事柄が大きい』といふ態度を取つて來た。然かし如何に事柄が大きくとも僞作ならば三文の價値もないではないか。その後氏は最近の著作『神州天子國』に於て三J政策といふを提唱し、今までユダヤ人をシヤイロツクと見立てたるヨーロツパ人の大偏見なりしを論破してゐる。して見れば酒井氏は

最早議定書を僞作なりと斷定したりと見てよいのである。何となれば議定書は實にユダヤ人をシヤイロツクとして見たるヨーロツパ人の夢中の產物であるからである。

戶田一峰氏はその著『國家を滅亡へ』に於て總頁二百二十頁の書物中、百八十六頁まで滔々ユダヤ禍を紹介し來つて扨て曰く

『一八六〇年の巴里市に於ける、全世界猶太人の大同盟の決議事項と云ひ、シオンの議定書と云ひ、猶太聖書と云ひ、何れも、猶太人を毒する、荒唐無稽の笑話に過ぎずとするも、希臘以來、今日に至るまでの歷史に徵し、之を各國の政治、宗敎、思想、倫理、軍事に鑑みるとき、吾人非猶太人は、果して、如何なる感想が、涌くであらうか。假へ是等の書類にして、何人かの未來記に過ぎずとするも、眼光將に千年後の時代を洞觀せる大豫言と言はねばならない。』

云々と。この文章では『荒唐無稽の笑話』といひ『何人かの未來記に過ぎず』といつてゐるのは他人であるか、それとも著者自身であるかハツキリ判らぬが、孰れにしても議定書等が僞物であるといふ說を氣に病んで書いてゐることは事實である。

酒井勝軍氏はユダヤ問題座談會に於て、議定書の全譯者包荒子がパレスタインを見てから大に從來抱懷せし思想に變化を生じ、『世界革命の裏面』の如き書物はもう古くて駄目だといふ意を洩

らした云々と語つてゐる。筆者はそれ以上立入つて聞き糺すことが出來なかつたが、酒井氏の談話に徴しても、今日ユダヤ禍信者の最大經典ともいふべき議定書の價値に致命的動揺を生じて來たことを疑はぬ。

筆者は再び斷言す、議定書は僞作である。この僞作の上に立つた百のユダヤ禍說は迷妄であると。

二 ユダヤ禍變造犯イワノフ

今、我が國に行はれつゝあるユダヤ禍は、主として十年前から盛に卸賣を初めた男によつて種蒔かれたのである。それは現在ハルビンに住むイワノフといふロシア人である。彼はかつてオムクス政府の宣傳部長を勤め、後にウラジオなるメルクローフ政府の總理大臣となつた。彼の立場はもとより所謂反過激派であり、シベリアに於ける聯合軍殊に日本軍の支持を受けてゐたので、自己の存立上の必要から言つてもボルセウィキと對抗せざるを得なかつた。而してロシアには前世紀より革命の裏面にユダヤ人ありとの說があり、議定書等の爲めにする材料やユダヤ人迫害の行はれし事實を利用し、且つマルクスがユダヤ人であり、トロツキー、ジノヴィエフ等のユダヤ

人がボルセウィキに在りしを屈强の理由として、盛にユダヤ禍を宣傳し、一部日本人に迎合し又大にユダヤ人を知らざる日本人を驚駭せしめたのである。のみならず彼は更にその得意なる宣傳をアメリカあたりにも伸ばし、自動車王フォードまでも一時ユダヤ禍說の網の中に捕へることが出來た。フォードが一九二〇年『國際的ユダヤ人』なる論文をディアボン・インデペンデント誌に發表したのは、彼か米國資本家の中にあつて純然たるアングロ・サクソン人であり、從つてユダヤ資本家と競爭の地位に在つたことによるのであるが彼の論文發表を勇氣付けたものが、イワノフ等のユダヤ禍說にあつたことは亦疑ふべからざる事實である。

雜誌『東洋』昭和三年十一月號には大竹博吉君の『猶太禍……禍』と題する一篇を掲載してゐる。この一篇はユダヤ禍宣傳者イワノフの人物を暴露し、ユダヤ禍說の正體を闡明したるものであつて、これだけでもユダヤ禍說の根據が覆へり得るのである。今その全文を轉載する。

猶太禍……禍

大竹博吉

先ごろ鄕黨のK氏といふ老政治家が僕に手紙をよせて『最近或る人のすゝめにより某氏著『猶太禍』なる一書を讀んだ。それ以來邦家の前途を憂ひ、近來田舍の町に於てさへ思想問題かや

かましくなつて來たのに思ひめぐらして夜も眠れずにゐる。猶太禍問題について君はどう考へてゐるか?』と言つて來た。僕は、とうとう猶太禍が家郷の親しい老人までも不眠の捕虜にしたのを想ふて『猶太禍……禍』の力づよさにおどろかされた。

そのことを友人M氏にはなした。M氏は僕よりも前に現在日本の地方を支配してゐる『猶太禍……禍』の異力に辟易してゐる人であつた。そして現在普及されてゐる猶太禍書の四五の標本を僕に見せてくれた。トビラに『賜天覽』の朱印つきのものもあつた。

*　　*　　*　　*　　*

あらゆる社會不安は思想的混亂をおこす。この思想不安はいろいろなものを探求させる。この探求の途上で或る者は神祕に降伏する。こゝに神祕の誘惑力があり神祕の活躍舞臺がある。猶太禍思想もその一つだ。――如何にその內容の神祕的なるかを見よ。そこではユダヤ人の遠い遠い昔の神祕的な誓ひの言葉が今も尙ほわれ〱の眼に見えない祕密のうちに生きてゐるかに書かれてある。ユダヤ人の世界革命の陰謀が、ユダヤ人の全世界の異民族征服の陰謀が、グロテスクな、神祕な、われ〱の眼には絕對に見えない組立で織りなされてゐる。それがわれわれの眼に見えるユダヤ人の才能や經濟力やいろ〱なものと巧みに結びつけられてゐる。

あらゆる邪教や神祕敎が多くの信仰者をもつごとく、この『猶太禍敎』にも眼にとばりされた多くの人々を引きつける要素が含まれてゐるのを見る。

*　　*　　*　　*

去年の夏のことである。僕がハルビンに滯在中の或る日、帝制派のロシア人某（彼れはロシア帝制派中の反キリル派であつた。つまりニコライ・ニコライヴイチ太公派であつた）を通じてイワノフなる人が僕に一夕會談したいと申込んできた。これを取りついだ男は『イワノフは反猶太運動(アンチ・ヒフレイストヴオ)のハルビン支部長をしてゐるので、貴下に反猶太主義の宣傳をはじめるかも知れないからそのつもりで逢つて貰ひたい。私は帝制主義者だけれども反猶太主義者の猶太禍說を信じてゐる譯ではないんだから……』といふのであつた。僕は興味をひかれて逢ふ氣になつた。約束の時間にイワノフ氏の住んでゐるホテルへ出かけた。彼れは小さなホテルの別館を住宅兼事務所にしてゐた。イワノフ氏はすこぶる愛想よく僕を迎へた。彼れは堂々たる巨軀と、鷲のやうな眼と、調子のいゝ辯舌には浦潮で彼れがメルクーロフ政府の『首相』をしてゐる時代に接したことがある。そして彼れが天才的な演說家で文章家で、しかもその行動が山師的で大の怠け者だといふ話も

聞きおよんでゐた。

『支那革命運動の將來と極東の形勢』といふテーマについて彼れが口を切りだして四五の話をした後に、サモワルを立てゝお茶になつた。彼れは僕がモスクワに長くゐたことも知つてゐた。『貴下はボリシエヴィキの親友を澤山もつてゐるでせう』などゝスガ眼をつくつて僕の顏をのぞいたりした。

やがて、僕が心まちに待つてゐた彼れの反猶太主義の教説がはじまつた。——僕がこゝで『教説』といふのは、彼れがこれを說く態度たるや音吐朗々まことに手に入つたもので傳教師の教說そつくりであつたからだ。彼れは言ふのである。

* * * * *

『全世界はすでにユダヤ禍の洪水に浸されてゐる。ユダヤ人の蜘蛛の巣にからまれてゐる。ロシアはその最初の犧牲者だ。アメリカを見よ、ドイツを見よ、フランスを見よ、イギリスを見よ、全世界を見よ。それらの國はもうユダヤの蜘蛛の巣にからまれて身うごきが出來ない。崩壞の前夜だ。明日崩壞する。全世界を見わたして猶太禍の洪水に浸されざる國があるか。ある！　唯だ一つある！　日本だ！　東方の日出づる國——日本帝國だ！　自餘の國

はもうユダヤ人の黄金と新聞と祕密の黑い手とに絡みつかれて身うごきが出來ない。日本だけがまだその中に囚はれてゐない。もうすでに囚はれやうとしてゐる。彼らは囚へやうとしてゐる。だがまだ囚はれてはゐない。全世界を猶太禍の中から救ひうる國は——と此處で彼れはぢつと僕の顏を催眠術師のやうに見すへて——尊敬する大竹氏よ、貴下の祖國日本帝國だけである！　それも明日と言はず今日すぐに全日本人が蹶起しなければ駄目だ。明日ではもう手遲れだ』

＊　＊　＊　＊　＊

彼れの辯舌は火のやうだ。さうだ、油紙が燃えてる火のやうだ。抽象的でつかまへどころがない。僕は微笑して言つた。

『全世界を身うごきも出來ないまでに囚へてゐる偉大な魔力をわれ〳〵日本人がどうしたら抑へつけることが出來るだらう？』

と油をかけて見た。彼れは思ふ壺だといふ風に、

『そこだ！　手段はただ一つある。日本人が全世界に向つて反猶太運動の模範を示すことだ！　全世界のあらゆる民族が猶太禍の蜘蛛の巢を破りすてゝ蹶起するための合圖の烽火を

あげることだ。その合圖としてまづ隣國ロシアをボリシエヴィキの手から、猶太人のソヴエトから救ふことだ。——見よ、ボリシエヴィキはすでに日本征服の代表者を極東へ派遣してゐる。それは誰だと思ふ。誰でもないいまハルビンにゐる東支鐵道副理事長のラシエヴイチだ。彼れはユダヤの密旨を帶びて東支鐵道に足場をおいて機をうかゞつてゐる。日本に××を起し、彼れが日本××に代つて日本の×座にすわるといふことはユダヤの祕密決議だ』

彼れはその決議文のコッピーが最近自分の手に入つてここにある——と傍らの用箪笥を指さした。

『猶太人のソヴエトと言ふけれども近ごろボリシエヴィキの中の有力な猶太人が、たとへばジノヴイエフやカーメネフやトロツキーやヨッフエや、更にラデツクまでが失脚したり除名されたりしてゐるところを見ると反猶太主義者諸君もさう心配しなくてもいゝと思ふが……ラシエヴイチも左遷の意味で中央から極東へ追ひ出されたといふのに貴下が日本の×座に彼れを擬するのは冗談のやうでをかしい』

この僕の言葉をうけた彼れの答への當意卽妙はおどろくべきものであつた。

『全世界をして貴下とおなじ考へを起させやうために、彼らはさうしてゐるのだ。貴下も全

世界も彼らのゴマカシの罠にかゝつてゐる。彼らは全世界が近ごろボリシエヴィキはユダヤの傀儡だといふことに氣づきはじめて反猶太ソヴエト總攻撃を起すのを危險視してゐるのだ。そこで八百長喧嘩をして全世界の眼をごまかさうとするのだ。これは彼らの欺瞞手段のうちで最も單純な初歩的な常套手段だ』

* * * *

こんな問答を書きつゞけて行くと際限がない。全世界がユダヤの蜘蛛手にからまれて身うごきが出來ないといふかと思ふと今度は世界の反猶太攻撃をおそれてボリシエヴィキ中の猶太人が八百長喧嘩をしたなどゝ言ふ（この時はまだヨッフエは自殺してはゐなかつた)。――兎も角も彼れは

『全世界的反ユダヤ聯盟を作つてユダヤの世界革命に對抗しなければならん。日本にはH教授及びS將軍といふ我々の熱心な同志がゐる。彼らを中心として反猶太協會日本支部が近いうちに創立される。アメリカの自動車王フオードも最近われ〳〵の同志になつた。――彼らの著述の材料はみんなこゝから（とまた彼れは例の用箪笥を指さして）出してゐるのだ。』

と非常に得意であつた。そこで『ユダヤの祕密文書』なる者を見せてもらふこととなつた。

彼れは用箪笥の鍵をおごそかに開いて中から一抱への書類を取りだした。その中には、例のユダヤ祕密結社の組織や階級鬪爭や決議書の原稿が無類にある。

『そら、トロツキーやジノヴィエフもこんな下級の方にゐる。ラシエヴィチのごとき小輩はこの階級の中にはまだ入つてゐない』

と迚も愉快さうである。そこで最近手にはいつたといふラシエヴィチを日本××に代へるといふ『祕密決議』を見せてくれと言つたら、彼れは『いま重要な同志に傳へるために上海へ送つてある』――と答へた。（さつき用箪笥を指したのを彼はケロリと忘れてゐるらしかつた）

そこで僕は

『お說によるとこの中に祕密でないものは一つもないやうだが、その祕密中の祕密文書が貴下の手へこんな澤山集まつてゐるのが僕にはユダヤの祕密以上の謎だ』

と皮肉のつもりで言つたのだが、彼れは大眞面目で

『彼らの祕密をあばくために我々は世界中に祕密の網を張つてゐる。その網へ引つかゝつた材料が全部こゝへ集まつてくるのである』

と大得意。

それから二三日の後に僕をイワノフに紹介した例の帝制派のロシア人と逢つて話した。——その男の話によると、イワノフはオムスクでコルチヤツク政府の宣傳部長をやつてゐる時代に反ボリシエヴィキ宣傳の目的で一つの著書を書きあげた。それは在來ロシアで（或は世界各國で）廣く行はれてゐる反猶太書にボリシエヴィキ幹部の名や革命運動を材料に加へて巧みに書かれた新らしい反猶太宣傳書で、これによつて反猶太思想を反ボリシエヴィキ思想にふり向けやうとしたものである、彼れの天才的な、また空想的な、しかも奇智縱橫な文章は、この書がオムスク政府の手で出版されるや、帝制ロシア人の間ばかりでなく世界ぢうの反ボリシエヴィキ主義者や反猶太主義者の一部の間で虎の巻となつた。中には意識的にこの書の內容の空想的なことを知りながら、これを材料として利用する者も出れば、心からそれを信じて憂慮懊惱する者も少なくないやうになつた。そこで彼れは『俺れは世界的な反ユダヤ宣傳者だ』と自任してゐるのである。——『彼れが例の用箪笥の中から引きだして得々として人に示すのは大部分その時の原稿なのだ』と彼れは笑つてゐた。僕はどうりでそれを見た時すぐ『原稿』といふ直感を得たと思つた。

* * * * *

だが、僕の見たその原稿が曾てオムスクでロシア語の活字で横に組まれた本になり、その本の中から日本人の手で日本語に譯して縱に活字で組まれ、とう〳〵日本の田舍である僕の鄕里のK老人を憂慮のあまり夜も眠らせぬワザをする。……何といふ猶太禍の禍であらう。

『元オムスク・コルチャック政府宣傳部長、その後ウラジオ・メルクロフ政府總理大臣、さらにその後ハルビン在住白派亡命ロシア人兼世界的反猶太主義宣傳者イワノフ、並にその意識的無意識的追隨者打倒！』（十月三日）

前記大竹君の一篇が『東洋』に發表されたと同時に、『昭和公論』十一月號には覆面子と稱する譯者の『深刻なる勞農露の對日新陰謀』なる一篇が揭載されてゐるが、そのはしがきに次の如く斷つてある。

この一篇は舊コサック大佐であつて、コルチャック政府樹立の際、其の情報部長となり、予とは西伯利滯在中親交を結び、極東露領に過激政權の確立するや、逃れて奉天に來り、また日本にも渡來せしこと二回あり、予とは今日に至るも尙音信する露人某氏からの書翰であるが、兩者共に名を祕したのは、今後の行動をこれを發表したために累せしめざらんためである。（譯者）

而して譯者は屢々譯文中に註を加へて、

當時予は貴族院、諸官衙、民間に於て猶太陰謀に就て講演し、之を一括して大正十二年十月『猶太禍』と題して發刊せり

とか、

又大正十三年拙著『何故の露國承認ぞ』に於て次の觀察を發表した

とか言つてゐるところを見れば、苟くも『猶太禍』の著者が何人であるかを知ることが出來、覆面子と名を祕してゐても夫子自身が『頭かくして尻かくさず』といふ滑稽千萬なことになつてしまつてゐる。而して該本文の內容が依然としてユダヤ禍の宣傳であるところから見ても、また本文執筆者がかつてコルチヤック政府の情報部長を勤めたとあるに徵しても、それがイワノフであることに何人か想到せざる者があらうか。

一體ユダヤ禍論者が奇體にその著書や譯書に本名を祕したがるのは如何なる理由から出てゐるのか判らぬ。覆面子と言つても『予は『猶太禍』の著者である』といへば、それが北上梅石氏であることが分かる。然かもその北上梅石亦變名であるといふに至つては、まことにユダヤ人の陰謀以上に込み入つた話である。或は藤原信孝といひ、或は包荒子といふ。外にもつとあるかも知

れぬが、苟くも確信を以てユダヤ禍を宣傳する以上、何故に正々堂々と本名を名乗らないのか。それともレーニンやトロツキーが本名でないといつて攻撃せる乃公自身が變名や匿名であることは、『深刻なる勞農露の陰謀』に模倣せるものでもあるといふのか。この點で酒井氏のみは初めから本名を出してゐるのがえらい。又ユダヤ禍論者の中には屢々祕密研究會なるものを開き、眞面目になつてユダヤ禍を說明し、列席の士をして信者たらしめた例がある。かうなつてはユダヤ禍論者の方が却て恐るべき祕密結社といふことになる。

ユダヤ問題座談會に於て酒井勝軍氏は注目すべき左の談話をしてゐる。

フォードはユダヤ人から告訴されて裁判沙汰になつたが、とう〳〵彼はユダヤ人に降服したと。それとよく似た話が我が國にもある。それは一國產電球會社が商賣敵のマツダランプを非難するに、その日米合同經營なるを奇貨として、『あれは米系ユダヤ禍の魔の手だ』と振れ囘つた。そこでマツダランプは怒りて之を告訴し、目下繋爭中に屬してゐるが、國產側は法廷にユダヤ禍書を朗讀して有繫の判官を面喰はせてゐるといふことである。かくの如くユダヤ禍說はすでに我が國の商業戰にまで及んでゐるのである。

三　フリーメーソン

シオン議定書を讀むと、その中に澤山のマッソンなる文字が出て來る。

曰く、

『我が社會マッソン主義の主張する社會人道連帶同胞主義より吾人が常に援助を與へて居るところの我が軍隊、即ち社會主義、無政府主義或は虛無主義に入ることを勞働者に勸める際には、我々は恰も此の壓迫に對する勞働者の救濟主の如くであるであらう。』

曰く、

『何人か、はた何物か、此の見えない勢力を退治することが出來やう?! 吾人の勢力といふのは即ち斯樣なものである、外見のマッソンは勢力とその目標との目隱である。併し此の勢力の活動計畫と所在とは人民に取つて全然不明なものである』

曰く、

『實際に於て我がマッソンの暗號たる自由的な言葉は、自由、平等及び四海兄弟である。併し吾人が天下を取つた曉には、暗號でなく、理想的な自由の權利、平等の義務、及び四海兄弟の

理想といふ言葉に代へやう』

曰く、

『既に現在、例へば佛蘭西雜誌業者に於て已に暗號上にマッソン式一致が存在する。卽ち有ゆる言論機關は古の陰陽師の如く、斯道の祕密を以て相互に連絡せられ、その發表を定められぬ以上は、一社員と雖も己が情報の祕密を明さない』

曰く、

『或る祕密結社の一切の新施設に對しては、同じく死刑を以て處刑する。祕密結社の中現在あるものは皆吾人に解つてゐる。そして現在吾々の爲に働いてゐるもの、又嘗て勤務したものを廢止し、之を歐洲から遠き大陸に流刑にする。我が祕密を頗る多く知つてゐる非猶太人のマッソン結社員に對しても同樣である』

曰く、

『吾人が君臨する迄は反對に、世界各國にフランク・マッソン座を增加創設し、權力者及び現在の有力なる活動家を引き入れる。如何となれば此の座は檢察場であり、感化機關であるからである』

曰く、

『若しも此の世界が溷濁するならば、それは世界の頗る大なる團結を破壞する爲め、之を溷濁せしむる必要が吾人にあつたことを意味する。若しも世界に謀叛が起つたならば、その主謀者は我が忠僕中の一人に外ならない。從つてマッソンの活動を指導するものは吾々以外にはないといふことは自然的なことである』

曰く、

『死は凡ての者に取つて遁るべからざる終焉である。我が黨のものや我が事業の創造者よりも先きに、吾人の事業を妨害するものに此の終焉を近づけたい。吾々はマッソン社員を罰するが、それには同胞以外何人も、處罰の犧牲者自身さへも處刑を受けたことを疑はないやうに之を死刑にする。卽ち凡て彼等の死は、恰も當り前の病氣で斃れたものゝ如くすることが必要である。』といふやうにである。

この議定書の計畫によると、ユダヤ賢哲がマッソン結社を利用し、マッソンの中に交つて世界の有らゆる方面に潛入し、自由平等博愛の美名の下に社會主義や共產主義を皷吹し、一方には享樂思想を盛にせしめて、以て現在の一切の國家を解體覆滅せしめ、然る後これをダビデの後裔た

るユダヤ人の手によつて統一し、こゝにシオン帝國を建設せんとするにある。而して最後の目的を達した曉には、今までユダヤ人の爲めに犬馬の勞を取つたマッソン社員を、彼等自身すらも氣付かないやうに處罰して仕舞はうといふのであつて、謂はゞ宇都宮釣天井の如く、出來上つた後は其の建築に與つた大工共を皆叩き殺して仕舞ふ算段である。そんな大それた計畫が洩れた以上はマッソン社員たるもの大にユダヤの賢哲とやらに喰つてかゝらなければならぬほどであるが、未だ全般的にそこまで行つてゐないのは、目下ユダヤの大陰謀か進行中であるので、マッソン社員は氣が付かず、せツせとユダヤ人の爲めに忠勤を抽でつゝあるのであるらしい。かるが故にマッソン結社は恐るべきユダヤ人陰謀の祕密結社とせられてゐる。尤も包荒子によると『一二三年前より各國に於て猶太問題の極めて眞面目な研究が開始せられ……之には一般基督教徒許りでなく、マッソン委員そのものが猶太人に對して戰を宣してゐる。マッソンの理想的共和國北米合衆國ディアボン・インデペンデント誌中に曰く

マッソンは決して汚名を受くべき團體ではないし、又顚覆の目的を有したこともない。彼の佛國に生じたる無宗教な革命的の僞マッソンは、大に猶太人の保護を受けたもので、眞のマッソン結社に取りては迷惑極まる不良團體であるに拘らず、世人は唯マッソン社の同類なることの

みを見て、其の背後にある猶太人の魔手を見ざりしは甚だ遺憾とする所である。このマッソンの誤傳の再發したのは、一八二六年であるが、爾後米國猶太主義の首領等が自己の姓名をマッソンの名と混同結合せしめてから、マッソンの聲價は傷けらるゝに至つた。

然し吾人は米國猶太主義の首領が最早此のマッソン結社の背後に隱るゝを許さず、又吾人はマッソンの名を猶太人に對する攻擊防止の楯に使用し、乃至は責任を分つべき同盟者に利用するを許さゞることを彼等は覺悟せねばならぬ。云々』

とある。世に問はず語りといふことがあるが、包荒子の引用したこのディアボン・インデペンデント誌の論文は、マッソン結社の如何に混線し、惡用されつゝあるかの實證を示すものである。

大震災の時齋藤朝鮮總督は、朝鮮人から襲擊せられんことを恐れ、その東京の自宅の門標を外づしたとて大に一部の人々から非難されたが、奚ぞ知らんこれは齋藤總督と同姓同名の藥屋の主人が、朝鮮總督と間違へられんことを恐れて、自家の門標を徹回したのであつた。故に『齋藤實氏が朝鮮人の襲擊を恐れて門標を徹回した』ことが事實であつたとしても、これは朝鮮總督たりし齋藤實子に取つては事實無根にして甚だ迷惑千萬な話であつたに相違ないのである。又濱田四郎と呼ぶ姓名の持主は一寸聞えた人だけでも四名もあつて、屢々郵便物の間違が起つてゐたが、

結局それが相互の緣故となつて『濱田四郎の會』が出來たといふ新聞記事があつた。これなども事實を知らざる人に取つては大なる錯誤を惹起する理由となり、若し第三者がその内の一人に對し惡意を以て作爲するならば、他の三氏はどれほど迷惑を蒙むるかも分らないのである。

かゝる錯誤は人の場合に限らず、團體に於てもある。例へば我が國に於て國粹會と言へば全國を統一したる俠客の團體と思はれ、又惡く言へば暴力團の如く非難されてゐるが、それが大阪に在る關西國粹會と、東京にある國粹會關東本部との間に何等の連絡もなく關係もないものであるといへば、世人は定めし驚くであらう。然かしそれは正確なる事實であることを如何ともし難い。夫れを若しも國粹會といへばどれもこれも一所に見て、一方で或る何事かを爲したと言つて他方までも同樣に律しては大なる錯誤を生ずるのである。又過般大西某を中心とする天理研究會不敬事件の眞相が發表さるゝまでは多くの人々によつて天理敎の不敬事件と取沙汰されてゐたが、蓋を開けて見て初めて天理研究會と天理敎本部との間に何等の關係がなかつたことが分つたのである。勿論天理研究會は天理敎から叛逆分離したものであつて、多くの天理敎布敎師が連座したことは事實であるが、それだからと言つて直ちに天理敎そのものゝ不敬事件と斷ずることは出來ないのである。これは恰かもキリスト敎がユダヤ敎から出たものであると言つても、キリスト敎と

ユダヤ教と同一視することが出來ぬと同樣である。

マッソン結社は英語の所謂フリーメーソンリーである。この結社の起原に就てはユダヤ禍論者の中にもその說を異にし、或はソロモン殿堂の建築者と稱されてゐるヒラムをその創設者とし、或は此等に對する證據は何にもないと否定してゐるが、要するにその詮議は閑人に任かすことゝして、新見博士の言はるゝ如く『中世ヨーロッパに行はれた石工組合の名殘りであり、今では平和を高唱し博愛を高調する世界主義的社交運動の團體である』ことが事實である。勿論その中にはユダヤ人も參加してゐるけれども、これを以て直ちにユダヤ人の世界赤化運動であると見ることは餘りにフリーメーソンを誣ゆるものである。勿論如何なる世界主義的運動と雖も、各國の國情環境によつて自ら性質を異にし來るものなること、共產黨の例に徵しても明白であるが、フリーメーソン亦各國によつてその階級數を異にするが如く、各國によつて夫れ夫れ特色を帶びてゐることを疑はぬ。

優生運動主幹池田林儀君は『大東文化』昭和二年三月號誌上『ソコールの運動と民族精神』と題する論文中に述べて曰く

それから今一つ此歐羅巴の今日の情勢を觀る上に注意しなければならぬのは猶太人の勢力で

ありますヽ猶太人と云ふと是は皆頭から猶太人は世界革命者であるといふやうなことを考へる。彼のフリーメーソンといふやうなことをやつて居る。フリーメーソンに就て今まで書かれたものもあるが、此フリーメーソンの規則を守つて居るといふことは知つて居りますが、此フリーメーソンは日本に於て宣傳されて居るやうな世界革命といふことを目的に立つて居るものとは受取ることは出來ないのであります。此フリーメーソンは御互の親睦を圖り、自分等の生活を安定ならしむる爲めに本當の信義ある交りをして行かうといふことに過ぎないのであります。若し是れが本當に政治的に經濟的にそれ程深い所の意義のあるものとしたならば、もう少しもつと具體的に何等か政治的綱領、經濟的綱領があるべきではないか。一昨々年以來非常に歐羅巴に於て問題になつてゐる大綠運動、此大綠運動といふものが歐羅巴の中央に流れて來て、それが英吉利駐在の波蘭公使の口を通して暴露した時に、歐羅巴の大問題になつたのであります。其大綠運動が暴露した時にフリーメーソンの今日迄の經過が明になつた。それに依つてもフリーメーソンといふものは政治的の計畫はない、寧ろ政治的には無能者のやつて居るものであるといふことが能く理解されるので、フリーメーソンの運動に對して何等恐るゝに足るものでもなし、又左程重大視すべきものではない。一種の日本で云ふと何々講といふやうな、さういふ

やうな一種の迷信、もう少し體裁好く云へば科學的迷信に依つて進んで居るものではないかと思ふのであります。私は日本に於て宣傳されてゐるやうなフリーメーソンを信用しませぬ。云々と。これは下位春吉氏や四王天少將等多くのユダヤ禍論者が異口同音に叫んでゐるのと、まるで反對である。下位氏が同じ『大東文化』昭和二年八月號に『ファッショ運動の精神』を述ぶる記事中に

伊太利のファッショ運動、黑襯衣運動、是が僅に五十三人の手に依つて起されて、後一年と四ケ月でもう殆ど滅びるやうに未來が危くなつた其國家を泰山の安きに置くことが出來た。然るに當時の政府はと云へば非常に腰が弱くて何事も陰の方に隱れて居つた。何となれば其時の伊太利政府は實は今も世界を掻廻さうとしてゐる陰謀團、物質萬能主義、金錢萬能主義で、以て精神的の文明を打破すべく有らゆる新聞雜誌を利用して居る猶太の運動、卽ち英語でフリーメーソンと言ふ運動團體の關係者ばかりでありました。

云々と書いてゐるのはその一例である。

尤もイタリーに於てフリーメーソンが革命的祕密結社として取扱はれてゐたのは事實である。それは決して今日に初まつたことではなく、今より百二十年前なる一八〇七年、イタリー統一の

原動力となつたカーボナリー社がナポリ王國の山間に生れたと時を同じうして、イタリーの天地に出現したのである。但しこの兩社はその性質を異にし、カーボナリーが武力に訴へても革命をなさんとせしに反し、フリーメーソンは專ら人道主義の達成を目標としてゐた。けれども此の兩社共法王の權力に反對せる自由主義の中流階級と復古政治を喜ばなかつた陸軍將校より成立した點は同軌であつた。かくてフリーメーソンがスペイン、ポルトガル、イタリー、殊にカソリック敎國の間に蔓延してローマ敎會の權力に對し爭鬪を開くに至るや、ローマ敎會では之を以て異端なりとし、就中法王ピー九世、レオン十三世の如きは極力フリーメーソンを排撃し、一八八四年レオン十三世は特別回章とイタリー人民に與へたる書を以て、フリーメーソン社に屬し、若くはその一味たる疑ある者とは一切交際すべからずと命令したほどである。

これより先き各國政府のフリーメーソンに對する態度は互に異同があつて、新敎國は全く自由に放任し、フランス自由黨內閣は之を庇護し、ロシアのアレキサンドル一世はその支部の創立を奬勵したほどである。然るにオーストリーのメッテルニヒは之に反して一切の結社を嚴禁し、之を異端の陰謀として他の政府に警告した。彼はドイツ學生の結社や、スペイン、イタリーの革命を奇貨として祕密結社の禁遏を露帝に忠告し、これがためアレキサンドルは遂にロシアに於ける

フリーメーソンを禁止することゝなつた。
かくの如く考察し來ると、フリーメーソンリーを革命陰謀結社の如く誣ひたものは時のローマ法王と專制政治家メッテルニヒであつたことが判かる。それをまた更に强調せんがためには、ヨーロッパ人全體の間に潛在せる排ユダヤ意識を燃燒せしめ、ユダヤ禍とフリーメーソンとをごつちやにして揑ね上ぐるに若くはなかつたのである。
フリーメーソンの正體も洗つて見ればこんなものである。
昭和三年八月十一日露西亞通信社發行『露西亞事情』に曰く
最近レニングラード市では十數名の石工より成るマッソン結社がゲ・ペ・ウの手で發見された。同結社は所謂中世紀時代のやうな無害な厭世家の集合ではなく、ソヴエトに敵意を有する反革命分子を團員として祕密に反革命運動を畫策してゐた。右の外にマルチン派なる結社も組織され、多數の婦人まで加入してゐるが、これも反革命的のものだと。
世界からむしろ白系に近くとも赤派に傾くことの無いとの定評ある露西亞通信の報ずるところであるから間違なはい。この記事を讀んでユダヤ禍論者は果して何と辯解するであらうか。ユダヤ禍論者に從へばマッソン結社はユダヤ人陰謀の巢窟であつて、ロシア革命を起した元兇であつ

た筈だ。然るにそのユダヤ政府によつてマツソン結社が檢擧されたといふことは、田中內閣が政友會を檢擧したといふ以上に奇怪千萬な出來事であるではないか。

一にもマツソン、二にもマツソン、やれワシントンがマツソンであつたとか、やれ孫逸仙がマツソンであつたとか、やれ林董伯がマツソンであつたとか、米國獨立も支那革命も日英同盟も何も歟も、恐くユダヤの陰謀たるマツソンの仕業の如く振れ囘はることは、いくら死人に口無しと雖も、眼の開いてゐる人が現代に活きてゐることを考へてからにして貰ひたい。

四　思想惡化の根源とや

河野清三郎氏の筆者に對する挑戰狀の冒頭には、前記の如く

現今に於ける思想の惡化は人類生活上の要求より發したるものに非ずして、猶太人の陰謀より發したるものとす

と喝破し、以てユダヤ人が惡思想を宣傳し、不平者を煽動し、戰爭を製造し、又戰爭の導火線に火を點じて各國家を內部より崩壞せしめんと努力せるものであると論斷されてある。若し左樣であればまことにユダヤ人は魔法使ひの如く全知全能の民族であつて、我等もたとへ物騷な奴等だ

と言はれても構はぬ、たつたいつたい一日でよいからそんな調法な民族になつて見たいものである。

さういふ頭腦の持主はひとり一河野氏に止まらず、ユダヤ禍論者を押しなべての現象であるのではあるまいか。例へば諏訪部一之輔氏は『國本』昭和三年三月號に『赤化の禍根と其對策』と題する論文に曰く

倩々社會の現狀を看るに、人心は輕佻浮薄となつて利己主義に走り、民俗は逸樂奢侈に流れて生活困難に陷り、傳統の良風美俗は終に影を收め、勞働爭議小作問題は全國到る處に勃發して忌むべき階級鬪爭を惹き起し、思想は益々惡化して之に基く犯罪件數は左記の如く著しく增加した。

とて、大正十一年より十五年に至るまでの統計を擧げ、次で曰く

かうして平和を亂し、社會を騷がし、濁流滔々として共產主義あり、無政府主義あり、危險の淵に落込まうとする、實に恐るべき現象である、之を救はん爲め種々に論議すれども恰も群盲巨象を探ぐる如く、其本體に觸れないのは遺憾である。

抑々其禍根は何物であらう。獨り我思想界の動搖惡化のみではない、各國の治亂興亡も世界の大問題も凡て猶太民族の陰謀が其因子となつてゐるのである

と、まことに大膽無的の論斷である。

かく思想惡化世相險兆の根源がユダヤ人にありとすると、それはイワノフの言の如く、日本で大に排猶運動を起しさへすれば宜さそうである。すると酒井勝軍氏がこの頃三J政策と言つて、ジャパン、ジーサス、ジュデアの三者合一を提唱し、大に親猶主義を皷吹してゐるのは以ての外といふことになる。河野氏や諏訪部氏は先づ酒井氏から排猶運動の血祭に供さねばならなくなつて來るのである。

かく簡單にユダヤ人排斥で片が付けば、無産政黨あたりから反動內閣といふ稱號を附せられてゐる田中內閣でも、今日の如く思想問題で苦勞する必要はあるまい。然るに田中首相自身すら機會ある每に『思想は生活の反映である、今日の急務は國民生活の確立に在り』と唱へて居るのである。『公平なる肥料の分配』と言つたとて、必しも之を冷笑すべきに非ずして、あれでも首相が若干は農業振興を考へてゐるかを察すべしである。して見ると諏訪部氏等の考ふる如く、ユダヤ問題は思想問題社會問題の本體ではないやうである。

昨年三月一齊檢擧された共產黨事件が、如何に悲しむべき事件であつたかは、ひとり筆者の感想のみではなかつた。筆者は當時大審院檢事總長小山松吉氏のこの事件に對する談話を新聞紙上

で讀み、實に檢事總長としてよりは慈父の言として感激させられたのである。小山氏は諏訪部氏の論文を掲載したる『國本』社の幹部の一人であつたけれども、事件の原因をユダヤ問題に歸するといふが如き大箆棒なことは言はれなかつた。小山氏はこの悲しむべき事件の發生が明かに社會組織の缺陷にあることを指摘して、朝野の反省を促されてゐる。小山氏の談話は多くの新聞雜誌によりて好評嘖々たるものがあつた。勿論謙虚なる小山氏は自己の重大なる職責に鑑み、這の嘖々たる好評を却て恐縮されたであらう。たゞ一の若宮卯之助氏は『日本』新聞紙上、小山氏の所感を難じ、この事件が第三インターナショナルの模倣と臣從との外に何物も無かつたことを論じてゐた。若宮氏はかつてユダヤ禍に關する小册子を著述されたことがあるが、こゝでは明かに第三インターナショナルと言つて、ユダヤ禍とは言つて居られぬ。或はまた別に小山氏の如き責任の地位にある人は、たとへ事件の眞因がユダヤ禍にあることを知つてゐても、それを公言することは出來ぬではないかといふかも知れない。すると同じ責任の地位にあつても、四王天少將だけはユダヤ禍を公言して差支へないのかと問ひたくもなる。

ユダヤ禍論者の錯覺と偏見とは、卽ち今日の國際問題、社會問題、乃至一切の思想問題に對するその人の錯覺と偏見とを示してゐるものである。而してこの錯覺と偏見とによりて如何に多く

の悲しむべき事件が從來發生したかを見よ。桂内閣にして今少しく社會主義に對する理解があつたならば、かの悲しむべき幸德事件などは起らなかつたであらう。又我官民全體にして今少しく朝鮮問題に對する理解があつたならば、かの悲しむべき萬歳騷動や、震災當時の大反動は起らなかつたであらう。『成吉斯汗は源義經也』を著はして帝國軍人の間に多くの共鳴者を得た小谷部氏は、その著書中に片山潛氏を激賞し、かの如き愛國者をして今日に至らしめたるは全く當局官憲の誤解と壓迫とが生んだものであることを喝破してゐる。誤解は錯覺と偏見とより來れる一種の利己主義である。もとより人類には利己的本能があることは事實であるから、必しも深く咎むることが出來ぬかも知れない。然かし盲目なる利己主義は他を傷くるのみならず、結局自己をも破滅の中に陷れざるを得ざるに至る。ロシア革命を誤解したるシベリア出兵の破滅、支那革命を誤解したる田中外交の破綻、それがために如何ばかり尊き人類の魂を汚したことであらう。而して如何ばかり國運の伸展を妨げたことであらう。多くいふに忍びざるものがあるではないか。

如何なる上の句にも『といふにつけても金の欲しさよ』といふ下の句を付ければ和歌になるといふ話がある。『敷島の大和心を人問はゞといふにつけても金の欲しさよ』『心だに誠の道に叶ひなばといふにつけても金の欲しさよ』等、等。小作爭議、勞働爭議、サボタージユ、盟休、赤化

その他等、等、一切の根源をシオン議定書の如くユダヤ禍に在りとなすは、如何なる上の句をも和歌とせしむるこの下の句と同然である。それとももう一層判然と、『これまた憎くきユダヤの仕業よ』とでも代ふべきか。

五　經典と割禮

ユダヤ禍論者は今日のユダヤ禍が實に數千年前なるユダヤ經典より來れるものとなし、ユダヤ人がタルムード、トーラ中に在る豫言訓言を奉じ、シオン帝國の實現を狂氣の如く泣き叫びて祈禱し居るが如き、或は新婚の席上第二杯目の盃を踏み壊してエルサレムの喪失を悲しむが如き、或は子生れて七夜に割禮を行ふが如きを以てその世界覆滅の野望を達せんとする明白なる證據であるとしてゐる。

然かし乍ら假りにそんな證據があつたとしても、現實に世界破壞を試みつゝある共産黨員は、たとへそれがユダヤ人であらうとも、元來宗教は人民を昏睡せしむる阿片であると考へてゐる無神無靈魂論者であるから、頭からタルムードやトーラなどを否定してかゝつてゐる。故にユダヤ

教の經典が、ロシアの共産黨員に思想的影響を與へてゐるとはどうしても受取れない。或は『カール・マルクスはユダヤに取りては忠君愛國の立派な人物であつた』などゝ勝手な解釋をして、シオン帝國と共產主義との間に聯絡を付けたがつてゐる人もあるが、そんな風に解釋されては有繫のマルクスも苦笑の外はあるまい。もとよりマルクスの說の是非は別問題とし、彼が十九世紀の生んだ世界巨人の一人であつたこと、其の私的生活の極めて高潔であつたこと、及びその思想が實に深き人類愛から出發してゐることは疑無きところである。さはいへ、それが直ちにシオン帝國の理想に奉仕する偉大なる愛國者であるとは斷じて考へられない。よく世間には二十年前の放校學生が社會的有爲の人物になつたからとて遽然その待遇を改め、校友に推選して俺れの處にはかういふ立派な出身者があると他校に振れ囘はる學校もあるが、マルクスをシオン帝國の忠君愛國者に加へるのもその例である。

然かし問題は一步退いて、ユダヤ經典が果してそれほど危險なる暗示に富んでゐるかどうかから省察せねばならぬ。ユダヤ人がイスラエルの神を信じ、イスラエルの民たることを誇りとし、從つて他の民族と融合しなかつたことは事實であるとしても、それはむしろ到る處に迫害され來つた結果によることが多い。その證據には甚しき迫害を受けた國に於てほど、その同化が困難な

事情を示してゐる。ロシアやポーランドに於ては他の如何なる民族と雖も、あの地位に置いて迫害したら所謂惡化せずには居られぬほどの境遇に置かれてあつたのである。それで以て惡化しないのが寧ろ不思議なほどである。タルムードに於て非ユダヤ人に對し極端なる侮辱的章句や之を無視する文章が使用されてあるといふが、(本章第二節參照)これらは如何なる程度に於て信用すべきか、ユダヤ禍論者中にも自身これを疑ふてゐる狀態である。さればあとは『造物主』とか『救世』とか『信仰』とか、どの經典にも有り振れた文句があるに過ぎない。『宇宙の王』とあつたからとて、直ちにユダヤ人世界統一の訓言であると神經過敏に考へることは要らぬ。我が神道に『天御中主神』といひ、佛教に『三千大千世界』と呼ぶと同樣である。日蓮信者が『一天四海皆歸妙法』と叫んで、團扇太皷で近所そこらを練り歩いてからとて、直ちに日蓮信者の世界統一の大陰謀の現はれとは信ぜられぬではないか。新婚の夜盃を破つてユダヤの復活を祈禱するのは、エルサレムの喪失を悲しむユダヤ民族主義の發現である。彼等はどうしても、せめてエルサレム丈けにでも故國を囘復し來らねばならぬ。國家を有たずして各國に漂泊すれば各國民から迫害される。迫害されるから同化しないのであつて、同化しないから迫害されるのではない。然かし今そんな理窟を述べてゐても間に合はぬからとて、テオドル・ヘルツルは敢てユダヤ建國運動を發

起した。彼こそ眞の愛國者である。ヘルツルがマルクスを嫌つたのは、マルクスが人類愛の道程を社會主義に求めたに反し、自らは之を民族主義に求めたからである。ユダヤ人は今世界統一どころの騷ぎではない。如何にしてエルサレムを完全に奪還すべきかゞ與へられたる當面の急務である。若し夫れユダヤ人が割禮を施してゐることがその所謂世界的大陰謀と何の關係があるのだ。割禮は宗教上より來た一種の儀禮に過ぎない。そしてそれはユダヤ人のみに限らず、回教徒の中にもアフリカ黑人の中にも之を施してゐるものがある。勿論それは衞生上に宜しく、自瀆者や花柳病患者を出さず、健全なる性慾の遂行によつて優秀なる多數の子孫を生産增加しつゝあるのは事實である。それだからユダヤ人が恐ろしいといふならば、我日本に於ても割禮法を施行したら宜いではないか。恐らくは現在の人口よりも更に一層の增加を示すであらう。而して東方の新しき割禮民族の光輝を全世界に放つであらう。

六　革命裏面潛在說

次ぎは有史以來、各國に起つた革命運動や獨立運動や、戰爭や、宮廷の御家騷動などその悉くがユダヤ禍の結果であるといふ說である。

實は筆者ももうよい加減に相手になるのを御免蒙りたいのであるが、乘りかゝつた舟だから致方なく、その迷妄を論破することにする。

ユダヤ禍論者は、ユダヤ人が世界漂泊の第一着としてローマを滅ぼして以來、ヨーロッパ各國の宮廷内に入り込んで顚覆の陰謀を逞ふし、進んで英國に革命を起し、海を越えて米國を獨立せしめ、更にヨーロッパに引返へしてフランス革命を起し、イタリー、スペイン、ポルトガル、ギリシヤ、トルコと相踵でその目的を達してから、今度は世界戰爭に點火し、ロシア、ドイツ、オーストリー三大帝國を顚覆せしめ、無政府主義、共産主義の毒煙を全世界に散布して、今や殆どその目的を遂げんとしてゐる。されば『近時ユダヤ人の中にも我々の目的は大部分成功せるを以て、最早左程祕密にする必要なしと公言するものあるに至つた』と言つてゐる。

シオン議定書に『標象の蛇』といふのがあつて、左の如く書いてある。

予は本日諸君に、我が目的は既に吾人を去る數歩の所にあることを報告することが出來る、餘す所僅かである。吾人に依つて貫通された道は、我が國民の標徴たる『標象の蛇』の輪の頭尾を接合せんとしてゐる。此の輪が連接するとき全歐洲の各國は恰も強い籠で締められたやうになるであらう。

と。そしてこの蛇は今や全力を盡して經濟界の崩壞、精神界の墮落、道德界の頽廢、思想界の混亂を實現せしめんと、のたくり囘つてゐるが、やがてその目的を達して後、初めて昔時のユダヤ國内にその頭を復歸するのであるといふ。

有史以來七囘に亙つてこの蛇はヨーロッパ内の一定地に宿營し、盛に附近の崩壞に努力したが、第一囘はギリシヤ、第二囘はローマ、第三囘はマドリッド、第四囘はパリ、第五囘はロンドン、第六囘はベルリン、第七囘はペテルブルグであつたさうだ。『這囘の大戰に於てロシアが最もユダヤの慘禍を蒙つた理由が分かるではないか』と言つてゐる。そして其の蛇が今や鎌首を我が帝國に向けてゐるのだから大變なのである。

ユダヤ禍論者の心理は、ユダヤ問題を複雜極まりないものであるとしながら、世界歴史の進行をたゞ單なるユダヤ人のみに任して奇怪とも何とも感じないのである。二千年この方雜作もなく革命を起したり、王冠を蹴落としたりして居り乍ら、まだアジアの片隅なるパレスタインに於てすら滿足な獨立國一つ建設し得ない狀態では、『大部分の目的を達した』でもないではないか。

筆者が『ダビデの皇統連綿として續いてゐるといふが、その後裔は現在何處に住み、何と稱し、何をしてゐるのであらうか。』と問はゞ、必ずや『そんな大切な寶玉を娑婆風にさらしてゐるような

ユダヤ人ではない。それはユダヤが世界に君臨の日まで秘かに隱くしてある』といふであらう。ギリシャ、ローマの昔に遡つて亡國の原因をあげつらつてゐては日が暮れるから、手近なアメリカ獨立の原因が、ユダヤ人の仕業であつたかどうかを考察して見よう。

一七八一年の米國革命はユダヤ人の活動に大なる機會を與へ、ロバート・モリス（ユダヤ人）は獨立戰爭の藏相として大手腕を揮ひ、共和國建設の殊勳者なりき。卽ち彼は佛國より私債を爲し、之を米國に提供して一七八一年ワシントンの軍隊をしてドウヴア波止場よりヨークタウンに輸送するを得せしめたり。（レーヴイン著新復興民族パレスタインの部）

佛國大革命はその八年前ユダヤ人の努力を以て米國に行はれたる革命より取りたる點多し。例へば一七八九年七月末以來國民議會の要求せし市民權は大體フィラデルフィアよりラ・フワイエツトが持ち歸りしものなりしなり。（ラ・レボラシオン）

ラ・フワイエツトはマツソン團の第十九階級に屬し、マツソンの巨將ワシントンの親友にして、彼の革命を助け後佛國に歸り佛國の爲に斯く働きしものなり。（ゼ・ニユーエージ）

以上三項は『猶太研究』に紹介せられたる記事である。第一はユダヤ人ロバート・モリスが大に米國獨立軍のために盡力したといふ記事であつて、それは米國史の一頁を讀んだものゝ誰し

も知つてゐる事實であり、別段珍しいことではない。然かしそれがためにユダヤ人が米國獨立の革命を起したといふことは出來ない。何となれば米國の獨立にはもつと外の原因があつたからである。而してその原因たるや、後生大事に隱くされてあるのでなく、一般に世界歴史に公開されてあり、獨立を承認した英國側でもすでに充分その原因を肯定してゐるのである。第二項の米國に行はれたる革命がユダヤ人の努力に成つたといふ說はそのまゝ肯定することは出來ないにしても、米國獨立の思想的影響が、革命の機を孕みしフランスに及ぼしたことは疑ふべからざる事實である。然かし第三項にワシントンをマツソンの巨將なりとし、ユダヤ人と米國獨立との關係をいひ、もつと密接に考へることなどは出來ない。ワシントンがマツソン社員であつたと否とを問はず、米國の建國者であつたことは事實であり、彼はリンカーンと共に米國の二大偉人として、我が國の小學生でさへその名を讃へてゐるのである。近頃米國でワシントンが享樂主義者であつたと言つて、その日常生活を素ッ破抜いた書物が出版せられ、大に一部のワシントン崇拜家を面喰はせたが、それは要するにワシントンを神棚より人類の仲間にまで下げて來ただけの話であつて、毫も彼の偉大性を毀くることゝはならぬ。新見博士の論破せられし如く『アメリカ合衆國の獨立は英國に對する叛逆であり、革命であつたに相違ないが、その獨立に力を致した人は只亂を好むが

ために事を起したのではなく、獨立國家の建設に努力したことを否定することは出來ない。第一大統領ワシントンや、第三大統領ジエッフアーソンがメーソンリーの團員であつたとか、第二大統領アダムスが猶太人であつたといふことは、米國の立場からいふ時は決してメーソンリーや猶太人を危險視する理由を見出し得ない』のである。

もとより米國獨立といふが如き大事業が一ワシントンや一ラフアエツトによつて完成されたものでないことは明かであるが、ユダヤ禍論者は次に起りしフランス革命に關聯し、ラフアエツトがマツソン社員であつたからと言つて餘りにラフアエツト一人を重視し過ぎてゐる。若し米國獨立に對するフランス人の貢献如何といふ問題になつて來れば、それの殊勳者は決してラフアエツトに非ずして純然たる巴里兒ボーマルセーその人であつたのである。ハンガリーの史家エミルライヒ氏は曰く

かのフランスの壯年公爵（ラフアエツト）は北米十三州の獨立に與りて實際何等重要なる行動をなさず、又嘗つて千古の名案をも出さなかつた。之に反してヴエルゼンヌ又はボーマルセーのことは就てに米國人の間に稱讚又はその功勞を鑑識する一語をだに耳にすること罕であるが、ボーマルセーの感化功勞の大なることはラフアエツトと日を同うして語ることが出來ぬ

と。實にボーマルセーが一七七六年より一七七七年にかけ、ハーヴルの根據地より米國人に向けて莫大なる天幕その他すべての種類の軍需品を發送した中にも、三萬挺のライフル銃と二百門以上の大砲とあつたことが、獨立軍に取つてどれほど偉大なる援助となつたかはこゝに申すまでもない。ボーマルセーが何故かくも積極的に獨立を助けたかと言へば、それは英國に對するフランス積年の怨を報ぜんがためであり、今日米國人が何故ラファエットを賞揚して却てボーマルセーに對する恩義を知らぬかと言へば、

ボーマルセーの功績を認めんか、米國人の功勞はそのために著しく減少するの憂があるが、ラフエットに對しては如何ばかり媚を呈しても、米國人の功勞は毫もそのために毀損せらるゝところがない。（エミルライヒ氏『近代歐羅巴の基礎』）

からである。かくの如く米國の獨立にはユダヤ人ロバート・モリスの功績を沒することが出來ぬと共に、フランス人ボーマルセーの大功績をも亦決して沒することが出來ぬ。而してこの二つの事實はユダヤ人の大陰謀といふが如き夢のやうな問題とは全然沒交渉であらねばならぬ。

ユダヤ禍論者は、米國々旗の星章がユダヤの紋より來つたものであるとし、その三角をかけ合はした六光星では餘りに目立つからと二の足を踏んで五光星としたのであると斷じてゐるが、そ

れなら我陸軍の星章も亦ユダヤの紋から來たものとなり、光輝ある我國軍も最初からユダヤ禍によつて操縱されてゐることになるのである。どこまで馬鹿氣てゐるか判からぬではないか。

ユダヤ禍論者は更にフランス革命前の思想界がドイツユダヤの泰斗メンデルスゾーンや、マツソンたる百科全書派ウオルテール、モンテスキユー等によつて支配せられつゝあつたこと。フランス革命の第一の目的はブルボン王朝を倒し之に代ふるにフランス・マツソンの長たるオルレアン侯ルイ・フイリツプをフランス王とするにあつたこと。ルイ十六世の處刑も亦一七八六年オルレアン侯の邸に祕密集會を開いたマツソン結社員の決定した事であつたこと。平然としてルイ十六世の斷頭の任務を果したる者がユダヤ人サムソンであつた等の諸例を擧げて、フランス革命が全くユダヤ禍によつて起されたものであると斷定してゐる。

これも極めて複雜なるフランス革命の國際的、政治的、經濟的、社會的、思想的原因の一切を無視して、單純なる一ユダヤ禍がそのすべてゞあると做すもの、ユダヤ禍論者の腦筋簡單なる一實例を示せるものに外ならぬ。世に『德川家康は天ぷらを食つて死んだが故に、天ぷらは人體に害毒なり』と叫び天ぷら征伐を起すものあらば、人はその狂態を嗤ふであらう。革命前フランスの王侯貴族が如何に豪華にして無慈悲なる生活をなしつゝありしか。フランスの農民が殿樣の安

眠を保護せんが爲めに、如何に夜を徹してガアく〳〵と鳴く蛙を殺す等の無用の努力を拂はされたか。フランスの資本家が如何に勞働者に對し、彼等の生活は一日三スー（三錢）あれば足ると放言せしが如く横暴極まるものなりしか。ブルボン王朝が革命を鎭壓すべく外國軍を招致せしことが、如何にその運動を過激化せしめたか。（この事實は同時にロシア革命の場合のコルチャック、デニキン、セミョーノフ等の反過激派軍が赤軍に敗られた理由を説明するものである。何ぞユダヤの赤軍に通謀せし結果ならんや。）等、等の最近最大の理由を無視して、一にフランス王朝倒壞の原因をユダヤ禍なる一天ぷらに歸す。かくの如きユダヤ禍論者なるが故に、我が國の共産運動や、小作爭議や、朝鮮獨立運動や、支那國民革命運動等のすべての原因をユダヤ禍に歸せしめ得るのである。

七　ロシヤ革命ユダヤ禍説

我が國に於けるユダヤ禍説がシベリア土産として輸入されたものだけに、ユダヤ禍論者の最も力説せる點は、ロシア革命をユダヤ人がやつたといふことである。

その證據としては、從來ロシアに於ける帝王大官暗殺事件の背後に必ずユダヤ人のあつたこと。

從來ロシアに起りし革命はユダヤ人の結社たるブントの計畫實行せしことなること。一九一七年第一次革命の中心人物がユダヤ人ケレンスキーなりしこと。一九一七年十月革命のボルセウィキは、トロツキー、シノヴィエフ、カーメネフ、ラデック等のユダヤ人によつて指揮せられしこと。これらのユダヤ人はロマノフの顚覆の祕密計畫を米國ニユーヨークに於て計畫せしこと。一週八百名のユダヤ人が米國よりロシアに歸還し、革命に參加せしこと。ボルセウィキの思想的本尊はユダヤ人カール・マルクスの社會主義なること。現今の勞農政府はユダヤ人によつて實權を掌握さるゝこと。ロシアでは土曜日を休日にしてゐるがこの日は卽ち吾々の日曜日に相當するユダヤ休日なること。ユダヤ富豪は依然としてロシアで幅を利かしてゐること。その他種々なる例を擧げてゐる。

筆者は前篇に於てロシアに於けるユダヤ人を詳說し、如何にユダヤ人がロシアに於て迫害されつゝあつたかの實例を列擧したから、今再びこゝに重複することを避ける。たゞ一言して置きたいことは、誰でもあれだけの迫害を受けたならば革命運動を起してロマノフ王朝を顚覆する氣になるといふことである。ロシアに於ける暗殺事件の下手人にユダヤ人があつたとしてもそれは少しも不思議とするに當らぬのである。されば日露戰爭の時、米國ユダヤ富豪シッフが我が國の軍

事公債に應募したのは、この戰爭によつて大に利益を博さんとするユダヤ人の特性を發揮したといふ點よりも、より多くユダヤの同族意識によつて日本に感謝し、日本軍作戰の進行を後援したのである。それを藤原信孝氏の如く『シッフの本心が錢儲けやロシア顚覆にあつたかと思へば有難味が薄くなる』と解することは、咽喉元過ぎて熱さを忘るゝ類である。そんなことを言へば日露戰爭當時の我が國御用商人にして、果してどれだけの利益を無視し、國難に殉ずるの精神を以て貢献せしものありしか。筆者は寡聞にして唯一人の園田孝吉氏が自家所有の金銀を軍資の一片にとて提供せし以外に、奇篤行爲に出でし實業家ありしを知らぬのである。或はその外にあつたかも知れない。然かしそれ等の人々と雖も、戰後授爵或は叙勳等それぞれの恩賞に預つてゐるのである。この點ではシッフ氏も亦勳一等に叙せられてゐる。故にそれで宜いのである。藤原氏の如くシッフ氏がユダヤ人であるからと言つて殊更に偏見を以て彼に對する必要はないのである。

話を元へ戻してロシア革命に移る。一九〇五年日露戰爭末期に起つたロシア革命は、ロマノフの對日作戰に大なる打撃を與へた。ロシアが我が國に讓歩してポーツマス條約の調印を急いだのは全くこれがためであつた。この革命には勿論ユダヤ人たる革命黨員も參加してゐる。然かし決してその革命の主力ではなかつた。而してこの革命のために更にいより多數のユダヤ人が虐殺され

たことは事實である。

當時參謀本部付大佐たりし明石元二郎氏が歐洲に派遣せられて特別任務に服し、ストックホルムにロシア革命黨の志士と會して彼等に莫大なる資金を提供せしことは、今や講談雜誌類にも紹介せられて殆ど天下周知の事實である。若しユダヤ禍論者の如くユダヤ人がロシア革命といふ『一大禍害』を敢行せしものとすれば、これを煽動せし明石大佐、後の臺灣總督陸軍大將明石元二郎氏はユダヤ人以上の『大惡人』といふことになる。而して

レニンは民權社會黨の一首領にして日露戰前より明石將軍とは交遊の間柄であつた。彼れは一日、將軍に對し、多衆運動を起さんとする際の用意を說いて『必ず武器を手にすべからず、武器を手にせざる騷擾は如何なる暴官憲と雖も亦如何ともすべからず』と敎へたといふが、革命に際する彼れの遣り口は人も知る如くである。彼は實に目的の爲めには手段を擇ばざる暴慢殘虐の惡鬼の如く傳へらるゝも、實は主義の爲めには至誠純忠、唯これ眼中國家あつて身命なく、況んや私利私慾に於てをや。されば明石將軍も彼れが將來を洞觀して、當時某親友に語つて曰ふ。革命の大業を達成するは夫れレニンならんか、と。果して然りしを見るべし。(元臺灣總督府囑託小森德治氏編『明石元二郎』上卷一四一―一四二頁)

など丶書いた『明石元二郎』傳の如きは不都合極まる出版物となり、この書物に題字を書いた黑田長成伯や、田中義一男や、金子堅太郎子や、頭山滿翁なども皆ユダヤ禍に罹つてゐること丶なるではないか。

すべての革命はユダヤ人がやつたのだと言ひ、ユダヤ人でない場合はマツソンであつたと言ひ、マツソンとユダヤ人とを捏ね上げてユダヤ禍論者は自己に都合よくロシア革命を見てゐる。ユダヤ禍論者は一九一七年の革命以前、ロシアにボベドノスチエツフがあり、ラスプーチンがあり、立憲民主黨があり、社會革命黨があり、社會民主黨があり、そのまた社會民主黨がボルセウイキとメンセウイキとに分れてゐた事實を果して知つてゐるのであらうか。知つてゐるのなら、ユダヤ禍說などは出て來ない筈だ。ユダヤ問題を硏究すると云つて實はユダヤ禍に溺し、ソヴエト政府の統計や報告などは一切僞作であるとして眼を覆ひ、臆測と妄斷との上に立つたユダヤ禍を大竹君の指摘せし如く自ら科學的硏究なりと信じてゐるのではあるまいか。

一九一七年三月革命の直前、ロシアは革命の斷崖に澁んでゐた。而してロマノフ王朝は一九〇五年の革命に於て危く倒壞すべかりしところを、辛じてこの年まで持ちこたへて來たのである。然かもロマノフ宮廷內の暗鬪。ラスプーチン等を中心とする賣國奴の宮廷蝟集。敗戰によるロシ

ア國民の戰意喪失。軍需品の缺乏。食糧の不足。ドイツのロシアに對する單獨講和運動の努力等、等一切がロシア革命を爆發せしむべき好個の發火點に置かれてあつた。この時何處のユダヤ人の陰謀などが大なる力を有つてゐたであらうか。むしろ英國大使ブキャナンの祕密の活動の方がどれだけ猛烈であつたかも知れぬ。何となれば英國は當時極力ロシアの脫退を妨ぐる必要があつたからである。勿論トロツキー、クラスノシチョコフ等のユダヤ人が米國から歸つて來たのは事實である。それはレニン、ジノヴィエフ、ハリトーノフ、ソコリニコフ等がスイスからドイツを經由して歸つて來たのと同樣である。然かし彼等はロシアに革命が起つたから歸つて來たので、三月革命勃發の當時、一人の革命家もこれを指導して居らなかつた。

三月革命爆發の導火線となつたのは、その一週間前ペトログラードに於けるプチヨノフスキー工場に於て、社會革命黨の示威運動に際し、百名ばかりの職工を馘首したことである。こゝに於て全般の勞働者が彼等の復職を要求したのであるが、當局者の態度甚だ强硬を極めたため、全市の勞働者も之に參加し、ネフスキーに繰出したところが警官隊に阻止せられ、こゝに三日間不安の日が繼續した。然るに警衞の任に當つてゐた近衞聯隊に民衆が接近して來たとき、一將校が高所に登つて兵卒に『打て』と命令した。この時兵卒の一人が『兄弟が打てるか』と叫んだところ、

全隊悉く萬歲を和して民衆と合流し、潮の如く宮殿に押し寄せたのである。萬歲の聲は『我にパンを與へよ』の悲痛なる叫に代つた。間髮を容れざる中に革命は遂に爆發したのである。この時多數の民衆中にはもとよりユダヤ人もあつたであらう。然かしそれがためどうしてユダヤ人が革命を起したといひ得やう。

革命はユダヤ人を解放したが、ケレンスキー內閣は遂にレニン等のボルセウィキの爲めに倒された。これは明かに社會革命黨と社會民主黨との政見の相違である。然るに北上梅石氏は曰ふ

『彼等に依り自治團を根據として組織された臨時政府は遂にケレンスキーと稱して、本名をキルビス（姓）アーロン（名）なる純猶太人の獨天下となり、純露人は沒落して了ひました。その後ケ氏もレーニン、トロツキーに殪されて沒落し、遂に勞農政府と稱する猶太政權が樹立したのであります。而して世人の多くはケ氏がレ氏ト氏に殪されたと思うて居ますが、『殪された云々』は芝居に過ぎぬので實際はケ氏は純露人から政權を奪つて夫れを猶太人に取次いだのでありまず。現にケ氏の沒落した時にレ氏が彼に庇護を加へ、宮殿內に隱匿して居たのでありま す。（『猶太禍』二三四頁）

これは北上氏が大正十二年八月の演說筆記であつて、ロシア革命の眞相が判明して居らなかつ

たときのことゝはいへ、ケレンスキーとレニンとの八百長と見ることは餘りに甚だしい誤ではなからうか。この筆法で行くと、ドイツのシャイデマンがリーブクネヒトを殺したのも八百長であり、レニンがカウツキーを背教者と罵つたことも八百長であり、共產黨幹部派スターリン等がトロツキーを流謫したのも八百長といふことになる。否現に北上氏は共產黨幹部派反幹部派の爭鬪をイワノフ同樣八百長と見てゐるのである。いくら八百長でも流謫の目に會つた方はつらい役廻りであり、又ヨッフェの如く自殺したり、リーブクネヒトの如く慘殺されたのでは、元も子も無くなつてしまふ。算盤高いと稱せらるゝユダヤ人が果してこんな八百長劇の實演を承認するであらうか。

北上氏が勞農政府を『ユダヤ政府』と呼んでゐる通り、すべてのユダヤ禍論者は、ユダヤ人が現在のロシアを支配してゐると思つてゐる。然り左樣思つてゐるのである。そして如何にユダヤ人に關する統計表を示してこれを反駁しても、河野氏の如く『ユダヤ政府の僞造統計などは當てにならぬ』と受付けぬのである。こゝに於て此の人達は實はユダヤ禍教の宗教的信念に固まつてゐると言つてよい。天理研究會の會員なら檢擧されて初めて大西某を甘露臺樣とやら申して尊崇してゐた夢から覺めることが出來やうが、ユダヤ禍信者の方は司法省の思想講習會によつて、思

想的に擁護せられてゐるから、恐らく永久に醒むる機會がないかも知れぬ。

河野氏が筆者に挑戰して來た『現在露國の執政官は五百四十四名にして內猶太人は四百四十七人なり』云々の材料は、その總數に一名の相違があるにしても、恐らく包荒子著『世界革命の裏面』に參考として掲げられた『露西亞を支配するは何人か』と題する表から出てゐるのであらう。この表は一九二二年調とあり、主なる國家機關に於ける代表的役員總計五四五名、役員中のユダヤ人四四七名の統計が上つてゐる。かゝる統計表が如何にして何處に製造されたものであるか、またその統計の標準となつたものゝ何であるかは少しも示されて居らぬ。極めて曖昧千萬のものであるが、百歩を讓つてこの表を承認するとして、扨てこの表は一九二二年の調であつて、一九二八年調、少くとも一九二七年の調ではない。卽ち河野氏の言ふが如き『現在』の調査でも、また『最近』の調査でもないのである。或は右一名の相違あることが一九二二年から二七年乃至八年に至る間の異動を示してゐるのかも知れぬが、ロシアの人口が一年二百萬の自然增加を呈し、また此の間新經濟政策や、レニンの逝去や、日露修交や、支那革命援助や、英露斷交や、共產黨の內訌や、目まぐるしきまでに波瀾曲折を經過し來つたロシア革命建設の過程に於て、代表的役員の總數がたつた一名增加し、而してユダヤ人の數のみは異動がなかつたといふ事實を、說明な

しに承認することは出來ないのである。

筆者は我が國に於けるユダヤ禍論者――寧ろユダヤ禍信者にかくの如き材料を供給した――もとより悪意でしたのではなく憂國の至誠よりしたのではあらうが――包荒子の何人であるかを明かにせぬ。然かし乍らこゝに包荒子の迷妄を打破すべき屈強の反證が擧げられてある。それは陸軍少佐安江仙弘氏が『偕行社記事』昭和三年九月號誌上に『猶太の建國運動を視る』と題する一篇を掲げたことである。

この一篇はパレスタインに於けるユダヤ建國運動を知る上に於て、極めて有益なる資料を與ふるものであり、ユダヤ禍論者に對する好個の反省資料でもあるが、その中に

『吾々日本人は露西亞の共産革命は少くも或意味に於て猶太人の共産革命であると思つてゐる。人によつても全然猶太人の革命であるとさへ言つてゐるのに、猶太人の所で過激派の悪口を聞くといふことは非常に不思議であります。尚パレスタインを出て土耳其に行き、洪牙利に行き、巴里に行き、到る所で露西亞の狀況を聞き、露西亞の話になると、彼等は皆露西亞の悪口を言ひます。是は非常に不思議でありますが、實際露西亞の狀況は目下猶太人とは非常に反對な狀態にあるのであります。

そこで私が能く調査研究して見ますと、露西亞の革命は確かに猶太人がやつたのである。それは露西亞の革命の話になると猶太人は申します。『さうだ、あなたは露西亞の革命に際して吾々猶太人が如何に働いたかを御承知か』と昂然として申します。そして『吾々は露西亞の露帝（ツアール）を殪す爲に長年非常に苦勞した。併しながら現露西亞を御覽なさい』と直ぐ斯う來ます。『今の露西亞は全く吾々猶太人を排斥して居る。彼等は露帝を倒す時には吾々を一緒に働かせて置いて、扨て露帝が倒れたとなると、もう猶太人には用は無いといふので排斥し出した。實に露西亞人は義理も人情も知らぬ奴である』と言ふ。事實現在露西亞に於ける大臣級には猶太人は一人も居ませぬ。次官級には一二の猶太人が居るそうであります。この前レニンが死んでからの幹部派反幹部派の鬪爭の如きも、之を人種的に見ますと反幹部派はトロツキー、ジノヴイエフ、レーニン夫人、ヨツフエ等皆猶太人であつて一方は皆非猶太人であります。トロツキーの如きはトルキスタンに流刑に處せられ、ヨツフエの如きは過激派政府に對して憤慨の餘り自殺したのであります。世間では政治的意見の相違から彼等が二つに岐れたといふ風に見て居りますけれども、猶太人の大部分の者は露西亞人は主義主張の相違に口實を藉りて、實際は民族的排斥をやつたのであると申して居ります。尙露西亞の民間に於ける反猶太主義は非常に盛

でありまして、レニングラードの職工などは工場に『ジユウを倒せ、露西亞を救へ』といふことを公然と揭げて、猶太人を排斥して居ります。又共產黨の中でも反猶太主義を揭げて、相連絡して猶太人の排斥に努めて居ります。

云々と。安江氏が勞農政府に對して今猶『過激派政府』と呼んでゐるのは甚だ耳觸りであり、又ロシア革命をユダヤ人がやつたと考へてゐることも前述の理由によつて誤であり、若しユダヤ人にして左樣思つてゐる者がありとすれば、それはユダヤ人の己惚れであつて、恰かも明治維新を長州人は長州でやつたと考へ、薩摩人は薩州でやつたと考へてゐるのと同然である。然かしそんなことを別問題として筆者は安江氏が『露西亞を支配する者は何人か』の問題に自ら解答して吳れたことを感謝する。それは包荒子初め多くのユダヤ禍論者の迷妄を覺破せしむるに足るものがあるであらう。

昭和三年十一月三十日、歸朝中なりし駐露大使田中都吉氏は、大阪ビルデングに於ける東洋協會主催東洋現勢研究會に於て、ロシアに關する一場の講話を試みたが、その中に曰く

『私が歸朝して見ますとユダヤ人に關していろ〳〵質問を受ける。中には現在のロシアがまるでユダヤ人によつて支配されてゐるやうに思つてゐる人もあるが、それは大なる誤であります。

成るほどトロツキー初め多くのユダヤ人が革命のために働いたことは事實でありましても、今日は全くユダヤ人の勢力は一掃されて見る影もありません。前にも申した通り、現在のロシアを支配してゐる全聯邦中央執行委員會幹部會員二十七名中、ユダヤ人はトムスキー唯一人でありょす。その他大臣級には一人も居ず、僅に次官級に數人を見受けるばかりであります』と。これは敢て筆者が『鬼の首でも取つたが如く』こゝに吹聴するのではなく、イワノフあたりから出たでもあらう孟浪杜撰の統計表を打破するために紹介するのである。

前篇に於て述べしが如く、ロシアに於けるユダヤ人は革命前の六百二十萬から、革命後の二百六十萬に減少した。それはポーランドやバルチツク諸州に於ける獨立分離のため、その方へ持つて行かれたからである。而して彼等は革命に際しリブオフ内閣によつて解放され、勞農政權中にも入つて行つたのは事實であるが、ロシア人のユダヤ人排斥はこれがために少しも熄んだのではない。それは恰かも米國に於ける黒人が奴隷解放後七十年を經過せる今日にあつても、猶甚しき差別待遇を受けてゐるのと同然である。奴隷解放戰のため從軍せし北軍の老兵等が、一年一回記念會を開く時でも、黒人兵を排斥して近けないのである。これでは何の爲めに南北戰爭をやつたのか分からないが、ロシアの共産黨でも今日革命の同志たるユダヤ人を排斥してゐることから考

へると、人種的反感は神が人類に與へた自然の本能であるかも知れない。

レニンはヨーロッパ大戰の間隙より生れたる現代世界の巨人であつた。彼は初めユダヤ人であると誹謗されたが、多分に東洋的風骨を帯びてゐる人物なることは、その面目に躍出してゐる。布施勝治氏はかつて『東京日々』紙上に『レーニンには韃靼人の血が交つてゐるのではないか』と書き、これをその著『レーニンのロシアと孫文の支那』にも轉載してゐるが、實際左様も思はれる位である。筆者はかつて『解放』『日本及日本人』『太陽』等の諸雜誌に、現代ロシアのソヴエトと元代蒙古のクリルタイとの組織を比較し、レニンの獨裁政治と成吉思汗の東洋的共和政に論及したことがある。それはこゝでは問題外に逸するから詳說しないが、專制政治必ずしも咎むべきではない。革命後に專制政治の必要なることは、猶切開手術後に綳帶の必要なるが如し。我が國は明治維新後二十三年間專制政治を繼續し、イタリーはフアシスト革命後七年にして益々其專制政治を鞏固にしつゝある。專制政治といへばネロも、始皇帝も、ニコラスも、メツテルニヒも、レニンも、ムツソリニも皆同樣であると考ふることが間違ひである。

百の異論があつても、ロシアがレニンの革命建設によつて救はれたことは事實である。而してレニンが勞農政府の頭目に立てられたことは、もとより彼の人格と力量とによるとはいへ彼がユ

ダヤ人で無かつたことが大なる理由をなしてゐる。一時レニンと並び稱せられたトロツキーはユダヤ人であつたが故に、今は中亞アジアの山奥の慘ましき流謫生活から更にトルコへ追ひやられた。ロシアに『テリヤとトロツキーとの關係』如何といふ謎々がある。心は『テリヤ（犬）は後尾を切り、トロツキーは前莖を斷る』、卽ちユダヤ人としてのトロツキーを侮蔑した言葉である。若しこゝで『トロツキーは果して割禮者であつたゞらうか』などゝ質問を發する者あらば、それは人生に諧謔の妙味あるを解せざるものである。這漢がよくマッソンの宣傳などに引かゝるのである。レニンの後をルイコフが繼いだのも、彼が重厚にして人望高き政治家であるといふ以外にユダヤ人で無かつたことが大なる理由をなしてゐる。

或はこれでも未だユダヤ禍論者は、『ユダヤ人は表面に目立てる椅子に非ユダヤ人を据付け、內面に於て之を操縱してゐる』と考ふるかも知れない。然かし乍ら聯邦ソヴエト大會にしても、全露ソヴエト大會にしても、縣州は人口十二萬五千人に付一人、市は二萬五千人に付一人の代議員を選出するのであつて、卽ちユダヤ人代議員の選出さるゝ率は、一億四千萬分の二百六十萬人に過きない。この比率は縣市より郡、郡より鄉、鄉より村に至るまでも變りがないのであるから、如何なる場合にもユダヤ人はその人口比率を超過したる代議員を選出することが出來ない。而し

てこれはひとりユダヤ人に限らず、他のすべての民族に於ても同樣である。幾何學の定理に『大なる邊に對する角は小なる邊に對する角より大なり』とある。ユダヤ禍論者たる者以て安堵すべしである。又ユダヤ禍論者は『過激派の機關新聞デルコムニズム』にユダヤ人コーハンが

猶太人は露國の革命を準備し、之を仕組みたり、猶太人は眞の無產階級、萬國主義者にして國家を有せず……如何なる程度まで過激主義と猶太主義とが一致するかを現はす爲めに、過激派は赤色の星を採用せり、此星は猶太の徽章にして又シオンの徽章なり、勇敢なる猶太人は社會主義の前衞なり。

と發表したと言つて、大變『赤星』を疝氣に病んでゐるが、相憎とソヴエト聯邦の徽章は『太陽光線』を土臺としたものであつて、單なるユダヤの紋とは大違ひである。

ソヴエト社會主義共和國聯邦憲法

第七十條　ソヴエト社會主義共和國聯邦國章は太陽光線中に顯はされたる地球上に鎌及鎚を交叉し、麥穗を以て圍み、麥穗はリボンを以て束ね、リボン上に第三十四條に掲ぐる六個語を以て『全世界のプロレタリア結合せよ』と記入せるものとし、徽章の上部に五叉の星を置く。

若し夫れソヴエト聯邦中の主位を占むるロシア社會主義聯邦ソヴエト共和國の徽章に至つて

は、太陽光線の下に『赤星』なんどは全然光を隱くして仕舞つてゐるから、いよ〳〵大安心である。

ロシア社會主義聯邦ソヴエト共和國憲法

第八十七條　ロシア社會主義聯邦ソヴエト共和國の國章は赤地に太陽の光線下に柄を下に向け交叉したる金色の鎌と鎚とを顯はし、麥穗を以て周圍を圍み左の文字を記入す。

（イ）R. S. F. S. R.（ロシア社會主義聯邦ソヴエト共和國の略稱）

（ロ）全世界のプロレタリア結合せよ。

それで今度はロシアの徽章が日本にあやかつたものとなるのである。これに『青天白日旗』の支那を加へて日支露三國同盟を東洋の天地に打ち建てる方法を講ずべきではないか。

若し夫れ『日本の社會主義者の中にはソヴエト式に土曜日を休日としてゐる者もあると聞くが、これはユダヤで土曜日を休日としてゐるからである』と云ひ、ロシアでは土曜日を休日としてゐる如く解してゐるのも大なる誤である。それとは全然反對に、一九一九年頃戰時共産主義時代に全ロシアに亘り『スツボートニク』（土曜勞働デー）なる共同勞働の形式がレニンによつて提唱され、毎土曜日に所定の勤勞を終つてから各人は公共的勞働に從事した。市街や部落の道路掃

除、修繕、または夫々の公共團體のために必要な勞働に從事した。これは民衆の間に社會のためにする共同勞働の習慣を養ふためと、破壞された生活施設の大修理をするためレニンの發案した勞力を以てする社會奉仕の方法である。殆ど强制的に行はれたが、新經濟政策施行後已んだゞけの話である。

最後にユダヤ富豪がロシアに跋扈してゐるといふ說は、勞農政府商業部のみは、さすがに委員長ミコヤンを初め、部下に數名のユダヤ人があり、又國立銀行頭取シェイマンがユダヤ人であることから來た誤解であらう。ユダヤ人が二千年間の世界漂泊者であつた關係から、商業上及び外交上獨特の才能を有してゐることは敢てこゝに說くまでもない。それ故勞農政府部內に於てもこゝばかりはユダヤ人の手腕に任さゞるを得なかつたのである。尤も勞農政府が一九二四年通貨安定政策を採つたとき、之に對抗して祕密兩替の市場を開き、多數のユダヤ人中不正なる利益を獲得した者もあつたが、官憲の手によつて悉く檢擧せられ、流刑に處せられた者數千に達したと言はれてゐる。『勞農政府がユダヤ人によつて支配され、ユダヤ富豪の射利を默視してゐる』となすが如きは、全然事實と相反せる妄說に過ぎない。

ロシア共產主義の祖師カール・マルクスがユダヤ人であるが故に、共產主義を指してユダヤ禍

となすならば、キリストはユダヤ人であるが故にキリスト教はユダヤ禍となり、エヂソンはユダヤ人であるが故に電氣はユダヤ禍となり、リリエンタールはユダヤ人であるが故に飛行機はユダヤ禍となり、ナンセン、ヘデンはユダヤ人であるが故に探検はユダヤ禍となり、スピノーザ、ベルグソンは哲人であるが故に哲學はユダヤ禍となり、マイエルベール、ワグネルはユダヤ人であるが故に音樂はユダヤ禍となり、ザメンホフはユダヤ人であるが故にエスペラントはユダヤ禍となり、ハイネはユダヤ人であるが故に作詩はユダヤ禍となる。噴飯するを休めよ、シオン議定書には有らゆる非ユダヤ人に文明を與へ、享樂主義に醉はしめ、地上の有らゆる王國を破壞して後シオン帝國に統一すべしと書いてある。禍なるかなユダヤ禍、入るにユダヤ禍、出づるにユダヤ禍、寢るにも起きるにもユダヤ禍が『蜘蛛の巢』の如くつき纏つては、結局現代人は自殺せねばなるまい。故に言ふあり『文明の自殺』！と。かくしてユダヤ人のみ生き殘つたら、世界統一にさぞ手數を要しないことだらう。

八　その他のいろ〳〵

以上の外、尙若干の落ちこぼれがあるから序でのことゝこゝに總ざらへを致さう。

ユダヤ禍論者は從來シオニズムも共産主義もごつちやにして、何でも彼でもこれをユダヤ禍と結び付けて來た。然かしそれが大なる誤解であつたことが酒井氏や安江少佐の實地視察によつて、漸く判然して來たのである。酒井氏は平凡社座談會の席上に於て曰く（附錄參照）

パレスタインのユダヤ人は實に立派な人物ばかりである。日本の古武士に見るやうな生活をしてゐる。そして彼等の間の貸借には決して利子を取らない。彼等はロシアの共産主義者に對して非常に惡く言つてゐる。トロツキーやジノヴィエフ等はユダヤ人にしてユダヤ人ではない。本統のユダヤ人は一神教を奉じ、割禮をしてゐる者であるとしてゐる。それ故共産主義とシオニズムとは嚴に區別しなければならない

云々。これでいよ〳〵シオニズムが所謂ユダヤ禍でないことが明白になつた。又一方の共産主義もユダヤ人の勢力殆ど見るべきものなしとせば、『ユダヤ禍』そのものは結局白晝の御化けの如く消滅するの外はないのである。

『ジョン・レートクリフ博士が西曆千何百何十年とかにユダヤ人の祕密をあばき出したところが、ユダヤ人の怒りに觸れて殺された』と。それは他人の祕密をあばき立てたら次第によつては殺されもしようではないか。然かし問題はその祕密の內容の眞僞如何である。ドレフユース大尉事件

の眞相を研むる者は、如何にヨーロッパの間にユダヤ人の排斥陰謀の行はれ來つたかを知ることが出來やう。あの時若しピカール大佐出でず、クレマンソウやゾラの正義の絶叫が無かつたならば、ドレフユースは永久に寃を雪ぐの機會もなく、空しく南米の孤島に悶死するの外なかつたのであらう。而してそれは今日ユダヤ禍を飾る好個の材料となり、『賣國奴ドレフユース大尉の祕密書類を抉摘したエステラージー少將』は、ジョン・レートクリフ博士の如く不朽の盛名をユダヤ禍論者から讃へられてゐたでもあらう。

ユダヤ禍論者は、支那、トルコ、ペルシヤ、ギリシヤ等諸國の王冠が漸次顚落して行つたのはユダヤ禍の仕業であり、又ルーマニアの皇太子を色仕掛でどうとかしたのも共和國に變革する大陰謀の發露であると言つてゐる。ユダヤ禍は遂に御家騷動に有り勝ちな艶ツぽいところまで來たのである。地下のマリヤ・テレサやカタリナ女王や西太后など何れも莞爾として我が意を得たりと喜んで居ることであらう。又孫文も、ケマルも、リザ・カンも、ベニゼロスも、皆マツソン社員に編入せられたことを光榮としてゐるであらう。おつとどつこいリザ・カンがカジヤール王朝を倒したまでは宜かつたが、シオン帝國の御許を受けずして自らペルシヤの皇帝となり、パーラヴイなどゝ稱してゐるのに僭上至極の沙汰であるから、今にきつときつい御法度があるに相違な

い。ついでにもう一つアルバニアが王國となつたこともユダヤの豫定計畫に背くものであるから、これも今に罰を食ふことであらう。道理でアルバニア王は現在宮殿内に幽居同様の姿となつてゐるとのことである。

ユダヤ禍論者は『ユダヤ禍に關する權威ある書物の著者は、多年歐米を視察して實地ユダヤ人の家庭に入り込み、危險を犯し心血を濺いで研究したるものであるから斷じて信頼すべきものである』と言つてゐる。然かし乍らそれ丈けの理由で直ちにその著書に信頼し得るや否やといふことは別問題である。晝夜寢食をも忘れて心血を濺いだところで、その研究題目がユダヤ問題に非ずしてユダヤ禍問題であつたならば、正當なる判斷とはますく距離が生じて來る。多年ユダヤ人の家庭に入り込んで居つたところで、また必しもユダヤ人に對する正確なる智識を養成し得るものとは限らぬ。論より證據、如何に今日まで多くの支那通や、ロシア通が、支那問題ロシア問題に對する判斷を誤り來つたことや。十年前ロシア問題の權威者は、『過激派政府』の如きは三日と保ち得るものでないと叫んだのである。つい此間まで支那問題の權威者は、青天白日旗は斷じて滿洲は勿論北京にも飜るものでないと高唱して居つたのである。

四王天少將はかつて筆者と對談のとき、次のやうなことを話されたことがある。

飛行機に乘つてゐると、眞に所謂羽化登仙といふやうな感じとなり、今飛んでゐるところが何處であるかを忘れて仕舞ふことがある。白山を右に日本海を左に飛んで居りながら、白山を富士山、日本海を太平洋とばかり思ひ込んで、方向を誤まるが如きこともあるのだ。又太刀洗から朝鮮に向つて飛び、扨て着陸して見ると大勢の支那人の小供が珍らしがつて見物に來た。ハテ朝鮮の筈であるのにこれは變だとよく考へて見ると、方向を誤つて山東省に着陸したのだつた

云々。『航空界の權威者』としてもこんな錯誤があるのである。これは勿論少將の自慢話とすべきものではなからうが、さりとて深く少將を咎むべき筋道でもない。否少將のこの談話は移して以てユダヤ禍論者に對する頂門の一針となすに足るのである。

更に『這囘のヨーロッパ大戰を計畫し、爆發せしめたものは英人に非ず、カイゼルに非ず、實にユダヤ人の陰謀の結果である』といふが如き妄説に對しては、筆者はこれを反駁することを遠慮して置かう。假りにサラエボの一彈を放つた青年がユダヤ人であつたとしても、それによつて世界の獨立國五十一國中三十三ヶ國まで參加し、一千三百萬の生靈と六千七百億圓の財帑とを糜したあの大戰が起つたとは、何人かこれを信ずるものがあらうか。然り、信ずる者はユダヤ禍論

者のみである。

以上筆者はユダヤ禍論者の迷妄を論破し來つたが、尙ユダヤ禍論者に取つて一個の大なる疑問が殘つてゐるであらう。それは何か。實にユダヤ人が素晴しき勢を以て歐米の經濟界に擡頭し來り、世界の富の半を握るに成功したといふ說である。これが『新しいユダヤ禍』である。

ロートシルドと言ひ、シッフと言ひ、世界の長者番付に大關格たるユダヤ人があることは事實である。筆者はそれを否定する者ではない。又ヨーロッパ大戰後新しきユダヤ人の富豪が歐米の財界に擡頭したのも事實である。黑人排斥を目的として起つた米國の祕密結社三K團が、一切の有色人排斥に加ふるにユダヤ人を以てしたことは、米國に於けるユダヤ人擡頭を物語るものである。米國に在るユダヤ人三百萬人、その內半數はニューヨークに居ると言はれてゐる。もとよりその全部が富豪といふのでなく、富豪は勿論少數であるに違ひはないが、その少數の富豪が米國に於ける新しき『ユダヤ禍』の種となつてゐるのである。純粹サクソン人ヘンリー・フォードが最早ロックフエラー等とは衍違ひの世界最大の富豪の身を以てして、ユダヤ禍を恐れつゝあるは必しも理由のないことではない。

ヨーロッパ殊にドイツに於ても亦『ユダヤ禍』の叫が高いやうである。前大統領エーベルトや、

首相シャイデマンがユダヤ人であつた反動でもあらう、大統領ヒンデンブルグはユダヤ人嫌ひの筆頭にあると言はれてゐる。説かるゝが如くドイツの財産の七十五パーセントまではユダヤ人が握つて仕舞つたといふことに幾何の信を措くべきかは問題であるにしても、今やユダヤ人がドイツ財界に大勢力を有してゐることは疑ふべからざる事實である。

新宿パン店中村屋主人相馬愛藏氏は、這般の歐米視察に際し、ユダヤ人に關する所感を『力行世界』昭和三年十二月號に語りて曰く

『私がヨーロッパ各地を廻つて泊つた宿屋は大抵ユダヤ人の經營であつた。ロンドンでは某子爵經營の大商店もユダヤ人の所有であつた。

ハイデルベルヒに行つた時には、獨逸人のユダヤ人排斥の旗行列があつた。一人の大學總長に此問題に就て尋ねると、『ユダヤ人は人數が少いが巾を利かせ過ぎる。獨逸の新聞の大部分はユダヤ人の經營であり、大學教授の半分はユダヤ人で財界の有力者も多くはユダヤ人といふ譯で、彼等に實力では敵はぬ爲め暴力で排斥する樣な有樣なので誠に御耻かしい譯です』と言つた次第であつた。』

『ユダヤ人は商業に熱心で、他人に使はれる事が大きらひで、何でも自分でやる。日本なら近

江商人と云ふ様な性格を持つて居て、やりかたは先づ僅少の資本で古本屋より始め書籍店、新聞經營と云ふやりかたである。』

『アメリカのユダヤ人は農業では利益がないと云ふ事を知つてゐるので、生産物の仲買をやり、買ひ占めては高價で販賣するので、農民の利益は皆ユダヤ人のブローカーの手に占められて居る。

デンマークでは米國に於けるかゝる傾向を見てその對策の爲めに組合を設け、農民は皆組合に加つてゐて、國内で組合に加はらぬ大地主は四戸しかないといふ有樣で、同國の農産物をロンドンの市場に送るに商人の手をかりない。其爲めにヨーロッパ各國の中此國丈けはユダヤ人の勢力が這入らぬ。此國では消費、販賣の組合が實に好く利用され、農家では生産物の値の九割が自分の懐に這入り、販賣手數の爲めに差引かれるものは僅か一割に過ぎぬ有樣なので、國民の懐工合は非常に良い。

現在の社會組織では此組合組織にしなければ骨折損である』

云々。ユダヤ禍論者は最後にこの相馬氏の談話を得たことをそれこそ『鬼の首』を得た如く喜ぶことであらう。然かし乍ら相馬氏の談話は常識的であり、且つ科學的である。『實力で敵はぬの

で暴力で排斥するのは御耻かしい』と心あるドイツの識者の嘆息をありのまゝに紹介してゐる。相馬氏は筆者と相識の間柄であり、多年外國亡命志士の擁護者として仁俠の聞え高き人である。氏は歐米に於けるユダヤ人勢力の擡頭を正視して來ただけ、ユダヤ禍論者の如き夢の國に遊んではゐないのである。

ヨーロッパやアメリカでは、或は今後『暴力で排斥』する『ユダヤ禍』說が一層盛になつて來ることであらう。筆者はユダヤ人と何の交涉もなき日本人がヨーロッパ人の尻馬に乘つて、この外國思想をそのまゝ直譯し、河岸を變へたるユダヤ陰謀論を、再び國內に流布せざらんことを望む。ジャパン・アドヴアータイザーがユダヤ人の經營であるとか、神戶の燐寸會社に陰謀の魔手が入り込んだとか、マツダランプがユダヤ禍であるとか、京阪の大新聞がフリーメーソンと關係があるとか、船來のフィルムは皆ユダヤ人の製造だとか、有ること無いことを一々詮議立てしてゐるより、日本人も眞實ユダヤ人に負けないやう一大奮發をしてはどうだ。

結言

人類解放は十八世紀の末葉以來、特に世界の大潮を成してゐる。アメリカの獨立に次けるフランス革命。そは遂にユダヤ人をも政治的に解放するの原因を成した。イギリスは一八三二年改革法にてユダヤ人に選擧權を與へ、一八五八年その被選擧權を與へた。ドイツは一八七一年、スイスは一八七四年、オーストタリーは一八七八年、ユダヤ人に對して平等開放の制を布き、一八七九年ベルリン條約を以てルーマニアのユダヤ人を解放した。若しそれロシアがクルロフ將軍等の意見を採用して居つたならば、ユダヤ人問題全體を、もつと早く解決することが出來たであらう。

然かし乍ら古來『ユダヤ禍』の問題は宗教及び經濟生活上の錯覺と猜視と偏見とから來てゐるのである。殆どヨーロッパ人の間に先天的習性となれるこの迷妄を打破することは、一朝夕の間には困難である。恐らくそれは『キリストの再臨』を俟つて解決すべき問題でもあらう。

もとよりユダヤ人の中には世界征服を考へてゐる者もあらう。それは日本人の中にも無いとは言へぬ。またユダヤ人の中には暗殺者も出た。日本人中には出なかつたと斷言し得るか。またユ

ダヤ人の中には詐欺漢や惡德漢も出た。日本人中には絕無なりと廣言し得るか。金持もあれば貧民もあり、學者もあれば昧者もある。それを『賢哲』とか『征服』とか言つて恐れたり、『陰謀』とか『暗殺』とか『詐欺』とか言つて譏謗する。シャイロックならずとも、『ユダヤ人も亦人類の一員だ』と叫びたくなるのである。

筆者は以上ユダヤ禍と言つて、ユダヤ人を故意に傷け、無知に恐怖するの迷妄を警めた。然からばとて、今後の國際戰爭などを豫期し、ユダヤ人のみと親交を結ばんとするが如き議論にも亦到底贊成することが出來ぬ。日本民族の上に負荷されたる偉大なる使命は、決して左樣なる狹量管見を以て遂行し得べくもないのである。

汝の迷妄を去れ！

世界を正視せよ！

ユダヤ人をして正當なる水準線にまで引上げしめよ。

人類解放の完成のために。

明治維新は二百萬の特殊部落を解放した。來るべき世界革命は、より遙かに光明正大なる日本民族の努力に俟つところ多い。

（終）

附錄

ユダヤ問題に關する平凡座談會

出席者

信夫淳平
酒井勝軍
大竹博吉
滿川龜太郎
樋口艶之助
大石隆基

下中彌三郎
志垣寛

下中 シベリア出兵の頃から猶太人が世界顚覆の大陰謀を囘らしてゐると眞面目に心配してゐる人々がありますが、その外に猶太人に關してはいろいろ問題があるやうですから、それに就ての御話を承はりたいのです。

滿川 猶太人問題といふと非常に範圍が廣いが、私が地方に出かけてぶつかる質問は所謂猶太禍の方で猶太人が世界破壞の大陰謀を企て最近にはロシア革命に於てあの通りの成功をした。マルクスが猶太人であつたのを初めとし、トロツキーやジノヴィエフ等も猶太人であつたではないか。そしてその恐るべき魔の手が日本にも及んでゐるのだ。小作爭議とか勞働運動とか共產主義宣傳とかいふのは皆それだといつて非常に恐怖してゐるのです。それからも一つ注目すべきことはこの夏九月、十日間ばかり司法省主催の思想檢事講習會が開かれた際、四王天少將の『猶太人の世界赤化運動に就て』といふ講義があつたことである。それが科外講義として參考に聽講させるといふのなら兎に角、正科の課目として催されたのだから、つまり司法省自身が

猶太人の世界赤化といふことを認めた形になつてゐる。これは猶太禍論者から言へば我意を得たり、これで思想の善導も出來ると喜ぶかも知れないが、猶太禍を日本人の妄想なりと斷定してゐる私から見れば、實に容易ならぬ問題と考へます。

志垣　何か猶太禍に關する根據があるのですか。

滿川　それは猶太人の世界顚覆の筋書であると言はれる例の議定書です。これは今では包荒子といふ匿名で邦譯せられ『世界革命の裏面』といふ書籍になつて出てゐる。然かし私は大正八年或るところで謄寫刷になつてゐた議定書の梗概を初めて見たとき、ハアンこれは『朕が作戰』のやうな僞作だと直覺したのです。『朕が作戰』といふのは歐洲戰爭の始まつた時、何とかいふ人がカイゼルの原著を譯したといふ振れ出しで出版したのだが、つまりこれはカイゼルが軍國主義を以て世界を征服する計畫書であるといふので、當時松方侯や上村海軍大將などが盛に他人にも購讀を勸めたものである。ところが參謀本部の或る將校が疑惑を抱き、譯者に原書を見せて呉れと申入れたが、譯者はどうしても言を左右に托して見せなかつたといひます。然かしこの議定書の方は勿論日本人によつて僞作されたものでなく、僞作のまゝシベリア土産として輸入されたものを和譯したまでゞす。ところが我國の猶太禍論者は皆この議定書を根據として

ロシア革命とくつ付け、今にも猶太人の赤化陰謀でこの日本帝國も破壊されるかの如く騒いでゐる。私は大正十年頃であつたか如水會館にロシア研究會が催されロシア承認問題を討議したとき、今晩此席にお出でになつてゐる樋口さんと猶太禍に就て大議論をしたことがあつたのです。こんな風に私は十年來猶太禍を否定して來たが最近福岡に居る未知の人から挑戰狀を突き付けられ、お前は猶太禍を迷妄といふが怪しからぬから取消せと迫つて來ました。

この事實を見よ

志垣 その議定書の概略でも話して戴けると結構ですが。

樋口 それ位のことは判つてゐる。それを信じやうと、信じまいと各々の勝手であるが、近頃の世相はちやんと議定書にある通りになつてゐる。政治上から言へば、第一普通選擧にすれば、自然人民に權利が生じて來るから、段々君主の主權が喪はれる。その次には、風俗の壞亂、左傾思想の宣傳、階級戰の惹起等が盛になつて居ります。公債を起すにしても、成るべく外債に依らせるから、益々國の負債が增し困難が生じて來る。經濟上に於ても政治上に於ても將た又社會上に於ても皆この書物に書いてあるやうな傾向になつてゐます。

大石　大體私の見たところを總括すると、滅びた猶太民族がシオン山の下に故國を再建する。その次にはそんな小さい目的でなく世界を猶太人の國にし、猶太人の統制の下に置くことゝする。その大目的を遂げんがために有ゆる王座を覆し、無宗教にして民衆の力で猶太國を造る。それから宗教を破壞するに理論を重んずる。同時にその目的のためには有ゆる手段を用ゐて差支へないといふので、その手段が何々であるかを議定書の中に書いてあるのです。

カイゼルの遺言

志垣　その手段の主なるものは……

大石　それは今お話の如く普通選擧で王座を覆へすとか、科學を起して宗教を滅すとか、淫蕩文學、カフエー、バー、ダンス等を盛にして墮落世界を造り社會を破壞するとか、勞働運動や階級鬪爭を激成させて置いて、そこに進出して猶太王國を造るのが、所謂世界革命であります。

下中　私は今非常に面白いことを思ひ付いた。『朕が作戰』の僞書であることは明白だが、多少政治的な、社會的な、頭腦を以て書けば、ある程度までそれが實現するといふことである。私は外交史を研究してゐた時、歐洲戰爭が起つたので、匿名で『カイゼルの遺言』といふ書物を書

いたことがあるが、カイゼルの運命は殆どその通りになつて仕舞つた。當時ドイツの勢は隆々として連勝しつゝあつたが、餘りカイゼルが官僚政治家の間違ひだらけの報告を信じたので結局悲慘な最期を遂げるやうになつたといつて、皇太子に遺言してゐる形で書いたのである。そんな譯で僞書といふものは實際に存在し得るのである。僞書はそれ自身に存在價値を有してゐる場合もあるが、ただ議定書の方はたとへ猶太人が世界の王座を覆へして民主主義を實現させたところで、全世界が猶太人の支配下になるといふやうなことはあり得ない。

大石　猶太人は自分で神の選民だと言つてゐるがそれが一つの迷信となつてゐる。この迷信があるために、すべてを征服して自分の目的を達しようとする意識が働いて行く。そしてまた事實國家としては猶太は滅びてゐるが、あの通り世界の隅々までも根強く經濟的發展をしてゐる。千七百年代であつたかフランスでフリーメーソンリーの一部と言はれる祕密結社が出來て可なりの勢力を張つたが、フランス政治家から非常な壓迫を受け、それに反抗して國王と鬪つた。またローマ法王も猶太人に對して異教であるといふので大なる壓迫を加へた。當時フランスは歐洲で最も强國であつたからどうしてもこれを倒さなければならぬといふので、つまり王座に對する復讐と、ローマ法王に對する報復心とで遣つた仕事だと私は思つてゐる。

プロトコールは僞物か

滿川 ところがロシアの共產黨中にゐる猶太人にはそんな宗教的觀念がないのぢや無いのですか。宗教は人民の阿片なりと言つてゐる位である。

大石 宗教を認めないやうに努めてはゐるが。

樋口 宗教といふのは、我々一般人の認める宗教は宗教でない。猶太人だけの宗教が宗教であるそれ故我々から見れば無宗教のやうではあるが、彼等から見れば宗教である。

大竹 先刻から議定書が問題になつてゐるが假りに眞物として猶太人がどの位あれを信じてゐるか、またどういふ態度を取つてゐるかといふことが判然してゐるのでせうか。ロシア革命に關係した猶太人は全く神を信じてゐるのかどうか、それも判然しないと非常に不徹底になつて來ます。下中さんのお話の如く一の僞書があり、その僞書通りに社會現象がなつて行くといふことは有り得るが議定書が存在するから猶太人が世界を支配するといふことは當らないと思ふ。どの位猶太人がこの議定書を基礎にして働いてゐるかを今少し詳しく說明して貰はぬと、最初から最終にまで一足飛びになつて、その中間が失くなつて仕舞ふと思ふ。

大石　それを立證する意見としては列國に於ける有力者、政治家にせよ財政家にせよ、それ等の顔觸れを見ればフリーメーソンの會員であり、同時に猶太人である人が可なり多い。尤も猶太人をフリーメーソンと結付けてあるが、フリーメーソン以外の猶太人はどれほどあるか判らぬ。有力者だけで全般を推すのが宜いかどうかは問題でありますが。

下中　私が今言つた意味で、ある程度まで議定書に近づいて來ることはあり得やう。つまり、その中に無產階級運動の精神、被壓迫民族の哲學といふやうなものが織込まれてあるに相違ないからである。私は猶太人に對して反感もなければ憎惡もない。シエクスピヤの著はした『ベニスの商人』には非常に猶太人に對して憎しみの念が出てゐるが、私は同感を表し兼ねる。むしろあの小說に現はれてゐる猶太人シヤイロツクこそ同情に値する。白人自ら猶太人に對する壓迫から疑心暗鬼を生じて、こんなことをして居ればこんな目に遭ひはしまいかといふ幽靈を表現したものが議定書だと思はれる。從つて日本人はこの問題を少しも氣にする事はない。

瀧川　猶太人のことをロシア語でユーレイスキーと云ひますよ。

下中　私は全人類を愛するけれど白人殊にアングロサクソンだけは好めない。彼等は外面に大變な殼をかぶつてゐる。穢ない者そこ除けといふ風に他の人類を扱ふ憫むべき者共であるが、之

らの點を猶太人の側から見れば可なり反抗心も湧くだらうと思ふ。それ故猶太人がどんな運動を起したところが、日本としてこれを排斥する何等の理由がない。殊に軍人が猶太禍を叫んで恐がる理由などは更にないのである。日本の特色は城を築かないところにある。たゞ家を建てそこに生活して來た。九州などにはそんな殿様が隨分ありました。中國で戰國時代から城を築くことが始まつたが、本來の日本精神は何でも來いである。矢でも鐵砲でも持つて來いといふので、何處から來て何んなにしても打ち壞せない一の力が內在してゐる。それほどの國柄である日本であるから恐ろしいことは一つもありませぬ。況して議定書が僞書であつて見ればなほさらのことだと思ふ。

満川　猶太人は二千年前に國を喪ひ、人種、宗敎、言語、風俗すべてが違つてゐたから漂泊して行つた先々で迫害されたのである。悪疫が流行するとソレ猶太人が井戸へ毒を投込んだからだと言つて迫害する。不作が續くとヤレ猶太人がそのやうに祈つたからだと襲撃する。戰爭だ革命だとその度び裏面に猶太人が潛伏してゐるとの理由で虐殺されたのである。ちやうど震災の時朝鮮人が誤解されたやうなもので、日本人にもそのやうな迫害を蒙つた經驗がある。それは一九〇七年桑港の大震災の時、日本人が放火したのだといふ流言が起り、それから加州の排日

運動が起つてゐるのです。日本の如く國を有つてゐてもこの有樣である。況して國を失つて他國の間に這入つて行くのであるから一と通りや二た通りの受難ではないと思ふ。けれども今下中君の御説の通り歐羅巴人は永く猶太人を窘めて來たから、復讐されはしまいかといふ惡夢を見てゐる。それが卽ち議定書である。日本人は猶太人と何の關係はない。否むしろ日露戰爭の時には猶太人から軍費の世話になつてゐる。今になつてそれは猶太人が深い魂膽から行つたことだなどゝ惡口を吐き、歐洲人の尻馬に乘つて猶太禍を叫ぶが如きは不見識極まるものと思ひます。

信夫 私は猶太人は平和な民族だと思つてゐる。

下中 私も左樣思ふ。

ある政治家の神經衰弱

樋口 けれどもロシアの事は猶太人自身がこの帝政を覆へすためにどれほど苦心したかと書いてゐる。

瀧川 それはあれほど迫害されたのであるから、私が若しも猶太人であつたら恐らくはそれに參

加してゐませうね。

大竹　（猶太禍宣傳の一書を取り上げつゝ）私は今こゝで猶太禍に關する書籍を見たのであるが、可なり牽强附會なことが書いてあつて、何か爲めにするところがあるのではないかと思はれる。猶太人は社會革命とか世界革命とかを目標にしてゐるやう書いてあるが、實際を見ると猶太人間でも殺し合ひをしたり闘爭をしたりしてゐて決して一致して居らぬ。例へば現在世界を支配する猶太の有力人物が列擧されてゐるが、ドイツの前總理大臣としてシャイデマンが揚つてゐる。ところがこのシャイデマンは、最も恐ろしいボルセウイキと一緒になつてドイツに革命を起さうとした猶太人の革命家リーブクネヒトやロザ・ルクセンブルグ等を、遠慮なく捕へて殺して仕舞つた。して見れば猶太禍論者は猶太人シャイデマンに感謝じなければならぬ。若し猶太人が世界革命を遂行しようとして非常に猛烈な手段を取つたものとして恐るゝならばシャイデマンはこの表の中へ入れるべきではない。然るにシャイデマンが恐ろしい赤化猶太人として入つてゐる。すると誰でも彼でも猶太人の有名な者は皆赤化陰謀家といふことになつて、個人的に或は團體的に對立したり殺し合つたりしてゐる事實の理由が分からなくなつて來る。少しく世界の歷史を知つてゐる者なら宜いが左樣でない者は何でも彼でも猶太人の陰謀だと思つて終ひ

には日本帝國までも猶太人に奪はれて了はなければならぬと恐怖することになるのです。近頃僕の鄕里の先輩の老政客が、たしか樋口さんの著書『猶太禍』といふ本を讀んで、非常に心配になつて來て夜も碌に眠られなくなつたが君はどう思ふといふ手紙を寄せて來た。實際この忙はしい世の中にもつと根柢のある問題で國民を啓發するなら宜いが、根柢のない——中には本當のこともあるでせう、恐らく……。でないと皆嘘だといふことでは皆を信じさせることが出來ないから多少はあらうけれど、嘘も事實もつき混ぜて、然かも一向根柢のないものを猶太禍といふ風に所謂揑ち上げることは、牽强附會であると思ひます。

樋口　ロシア人の間には猶太系統の者が多く、政權を取りたいばかりに何でも彼でも利用しようとする。革命によつてロシアの政權を奪つたのは猶太系統であるといふことを、事實私は知つてゐる。

ロシアの共産黨と猶太の共産黨

下中　一つ酒井さんの御研究を承はりたいものですが。

酒井　先年私はシベリア滿洲へ行きましたが、その時、樋口さんの譯された議定書を見た。私は

これは面白い。この書物が僞物であらうが、本物であらうが猶太人ならば今の世界を叩き潰すぐらゐの事は遣りかねないと考へて段々調べて見たところ、恐るべきは猶太人でなく、ロシア人とアメリカ人とであることが判つて來た。私の結論としては、猶太人は決して世界の毒素といふ如き質の悪い民族ではない。最後は必ず日本と握手せねばならぬ民族であるが、現在世界を統一して行かうといふには、自然日本にも手を觸れなければならぬ。彼等としては歐洲を覆滅することが目的であるが殊にロシアのロマノフ王朝を最も憎んでゐた。日露戰爭の時シッフが單獨で日本の軍事公債に應募したのは、大に日本の手でロマノフロシアを破つて貰ひたかつたからだ。明治天皇は畏くもシッフに勳二等の勳章を授けてゐられる。又猶太人の共產主義とロシアの共產主義とは全然違ふのであつて、同樣に見ることは大間違ひだ。一昨年私がパレスタインに廻つたとき、英國のバルフオーアが猶太人の共產村へやつて來てどんな演說をしたか。彼曰くロシア人が失敗した共產主義を猶太人がパレスタインに於て成功したことを諸君よく考へて呉れと。これは兩者の全然相異せる所以を說いたものである。元來猶太人の共產主義は公產と譯すべきものだらう。パレスタインへ行つて猶太人の殖民地を見ると淚のこぼれるほど成功してゐる。そして猶太人は皆日本の古武士に見るが如き立派な人物で金を貸しても決して利

息などを取らぬ。それだからロシアの共産黨は貧民が騷いで金持から奪らうといふのだが、パレスタインの猶太人は有産階級が騷いで金のある者が出さうといふのだ。その相違がどこから來るかと言へば神を信ずると信じないとの相違である。極端に言へば神を信じない者は猶太人ぢやない。勿論ロシアの共産黨や革命運動に參加した者の中に猶太人は居ることは居るが、そんな意味で猶太人であるといふことは出來ない。つまり割禮をして神を信じてゐる者のみが猶太人であつて、陰謀などをする者ではない。

神政復古日猶握手

大竹 さうすると所謂世界革命運動と、猶太人の運動とは全然違ふといふことになる。すると日本人は何も猶太人の運動を恐れることは無い筈ですが。

酒井 勿論違ひますから、日本人は猶太人をビクとも恐れることはない。然かし御互が注意することは必要である。

下中 今のお話で、猶太の建國運動とロシアの共産主義運動とが違ふところははつきり判る。

酒井 世界を統一して神政に復古せねばならぬといふ運動だから、帝國があれば邪魔になる。そ

こでロシアを倒した勢で日本も倒さうと思つた者もある。四王天少將の話に三日間で日本を眞赤にして見せると豪語した猶太人もあつたのである。

大竹 今、世界革命をやらうといふ猶太人は第三インターナショナルの方ですな。

酒井 第三インターナショナルと猶太人とは關係が無いのであるが、共産主義によつて世界を潰して仕舞はなければ理想の國は出來ないといふ意味から……。

大竹 新世界をそれから造らうといふのですか。

樋口 自分の思ふ通りにやらうといふのです。

酒井 猶太人の理想は神政復古であるが、それには先づシオニズムによつて猶太の國家を造ることが必要だとしてゐる。猶太人は最早自分の國が出來たので英國人を前に置いて、我々東洋民族は大に奮起せねばならぬなどと氣焰を揚げ、日猶握手論を唱へる者もあるほどです。

下中 そこで判然して置かなければならぬことは今の共産主義運動、卽ちマルクス流の運動は猶太人のシオニズムと全然違つてゐるにも拘らず、その共産運動の背後に猶太人の運動があるといふ風な與太がある。またその與太を陸軍軍人などが信じてゐる。そこで共産主義は不可ない、それと關係ある猶太人の陰謀は不可ないといふ風に考が間違つて來るのです。

大竹　とにかく、この議定書がいかにも變なものである。私は昨年ハルビンでイワノフといふロシア人に會つたが、その男が盛に猶太禍を宣傳してゐて、フォードにも材料を供給してやつたと得意になつてゐた。フォードが米國で猶太禍の書物を出したので猶太人から告訴されたといふ話も聞いたが……。

世界の反猶太熱

酒井　あの問題はフォードが猶太人に降服して仕舞つた。

滿川　私はパレスタインに於ける猶太の建國運動は非常な困難に陷つてゐるやうに聞いてゐる。同地の人口八十萬中六十萬人までが回教徒たるアラビヤ人で、あとの二十萬人が猶太人と基督教徒たる歐洲人とである。そこで三つの異つた宗教と人種とが混雜してゐるので、英國などもバルフォーア宣言を出したことは出したが今では大に手古摺つてゐる。それからも一つはパレスタインが聖書で想像するやうな肥沃の土地でないので、農業に慣れてゐない猶太人の植民政策は旨く行かぬらしい。

酒井　それは猶太人の非常な努力を要する點でせう。英國政府などもアラビヤ人を煽動して猶太

人が成功しないやうに騷がしてゐる。その著しい例は十年前エルサレムのお城の中で猶太人が數十人虐殺されたことがある。それはアラビヤ人が遣つたのだらうと思つてゐたが、今度行つて見ると豈に圖らんや英國の反猶太主義者が英國國旗の下でやつた仕事であつたことが分つた。反猶太熱は英國のみでなく全歐洲に行き亘つてゐるのだから、どの位猶太人が憎まれてゐるかゞ分かります。殊に歐洲の耶蘇教信者の裏面を探つて見ると彼等は隨分非道い罪惡を行つてゐる。そこで今日までの見込は兎に角、今後若しも日本が何處かの國と戰爭をしなければならぬといふやうな場合、何處から軍費を仰ぎ、材料を持つて來るか。私はそんな點から考へても今後は大に猶太人と親しくして行くより外に途がないと思ふ。今度出版した拙著『橄欖山上疑問の錦旗』に詳しく書いて置きました。

大竹　その虐殺當時反猶太主義が相當强い力を持つて居つたといふことになるが、英國政府としては猶太人に同情を持ち、軍隊の方では憎くんでゐたことになつて全く判らない。

酒井　陸軍省は猶太人に同情してゐたが參謀本部には反猶太派が集まつてゐたのです。つまり英國でも二派に分れてゐた。

滿川　樋口さんはかつて私と論爭したとき、猶太人は革命によつてロシアを乘取つたのだからバ

レスタインの様な亞細亞の片隅で國を建てることは問題でないと言はれたが、今の酒井さんのお話とは矛盾しますね。

樋口 パレスタインは別莊にするんだね。世界の金權などは皆猶太人の手に入つてゐる。

滿川 今のソヴエット・ロシアは決して猶太人の天下ではない。共產黨の內訌も根本に於てはトロツキー、ジノヴィエフ等の猶太人を排斥したものだと思ふ。

樋口 それは先きが見えてゐるからだ。このまゝで行けば猶太人の虐殺が始まることを恐れて猶太人を排斥し出したのだ。

滿川 そんなことは無い。若しも猶太人の理想がロシアに於て實現されソヴエット政府が猶太人の政府になつてゐるなら、何を苦しんで虐殺されることを恐れるのです。

もつと思想を堅固に！

下中 そりや滿川君の言ふ通りだ。

酒井 議定書の陰謀とシオニズムとを一緒にしては不可ない。議定書を全譯した包荒子もパレスタインを實際見てから考が變つて、あの書物はもう出版してしまつたのだから致方もないが、

もう古くて駄目だと言つてゐる。

滿川 それなら世界破壞の大陰謀だなどゝ騷ぎ回つて何も知らぬ田舍の人々を驚かし、可憐なる猶太人を傷つけた猶太禍論者は何の顏を以て罪を天下に謝するのです。

大竹 絕版にでもするんだね。

下中 それより仕方はあるまい。

信夫 シオニストの運動はそんなに恐ろしいものではありませぬよ。至つて無邪氣なものです。

大竹 一千六百萬の猶太人が色々に分れてゐるとすると、これを一つにして我々が猶太禍を心配する必要は殆ど無い譯ですな。

樋口 例へば日本人の中に第三インターナショナルに共鳴したりした者があつた時、外國人から見れば日本人が赤化運動をやつてゐることになる。勿論猶太人にもいろ〳〵あるが社會主義運動者には猶太人が多いことは事實だ。

下中 さうするとシオニズムは世界顚覆の陰謀でないことが明かになりました。また議定書が僞書であることは疑ありませぬ。すると今まで日本に傳へられてゐた猶太禍なるものは全く夢の樣な空漠なもので何等恐れる必要はありませんな。

酒井 陰謀ではありませぬ。暗中飛躍です。それを歐洲人が陰謀だといふのです。

下中 兎に角もう少し日本人の思想を堅固にして根據のない猶太禍說の如きにビク／＼しないやうにしたいものだ。

酒井 日本人の思想が堅固になれば何も恐れることはありませぬよ。

下中 ではこの程度で止めて置きます。どうも御多忙中有難う御座いました。

（昭和三年十一月七日夜東京麴町富士見軒に於て）

校了に當り再び著者より

本日本文の全部を校了するに當り、著者より再び一言申上げます。それは本文脱稿後、卽ち本年に入つてから、ユダヤ問題に絡まる若干の事柄が、世間及び著者の身邊に發生したからであつて、報告旁々跋文の意味で、こゝに執筆する責務を感じたのであります。

本年に入つて早々、ユダヤ問題に關する二册の注目すべき書籍が新刊されました。一は藤原信孝氏著述『國際共産黨の話』であり、他は小谷部全一郎氏著述『日本及日本國民起原』でありま す。藤原氏の匿名であることは今更說明するまでもないが、特にこゝに書かなければならぬことは、『第三インターナショナル』と註の入つてゐる『國際共産黨の話』が、むしろ『猶太禍の話』と名前を變へた方が、遙かに內容に副つてゐることであります。藤原氏が十年一日の如くその所說を一貫して來たことは、その方面から見て感心であります。氏が『原稿料かせぎの一夜漬けにこの書物を書いたものでない』ことは、すでに一般の知るところでありませう。けれども氏が徹

頭徹尾ユダヤ禍の妄想に捉へられ近世社會運動の一表現としての國際共產黨を目するに、その源をユダヤ敎の經典たるトーラやタルムードに發してゐると做すが如きは、餘りにも甚だしき錯覺と偏見とではありますまいか。そんなことが第三インターナショナルと何の關係がありませう。

ユダヤ人を目して世界破壞を企てる陰謀民族であるとし、シオニズムも、共產主義も、無政府主義も、個人主義も、何もかもごつちやにしてユダヤ禍の幻影を描き、自ら恐れ自ら驚いてゐる人々の存在せる日本に於て、日猶同祖論を唱へ出したのが『成吉思汗は源義經也』の著者小谷部氏であります。氏は新著『日本及日本國民起原』に於て、日本民族を以てイスラエル民族の正系であるとし、ユダヤ民族はその傍系であるとしてゐられます。曩きにユダヤ禍を高唱したる酒井勝軍氏が、昨年來『橄欖山上疑問の錦旗』や『神州天子國』を著して、日猶握手、神政復古を論ぜらるゝその上に、今この小谷部氏の著述に接しては、ユダヤ禍の信者たらざる者も、何が何だか譯が分らなくなるでありませう。ユダヤ民族は陰謀民族であるといふに、そのユダヤ民族が日本民族と同祖であるに至つては、ユダヤ禍卽ち日本禍といふことになります。これをユダヤ禍信者は何と解釋するのでせうか。

日露戰爭當時の七博士たる岡田朝太郎氏が一月十九日並に一月三十一日の二回に亘り、東京の

各新聞に大々的廣告を掲げられました。私はあれだけの廣告をするに、數千圓の費用を要したであらうといふが如き失禮な推測はやめるとしても、文中見逃すべからざるは數ヶ所に亘つてユダヤ禍を宣傳してゐられることであります。曰く民政黨の暴露戰術とはユダヤ人の故智を學んだものであるとか、曰く軍隊を破壞して國家の威力を失墜せしむるはユダヤが世界を呪咀する一の戰術であるとか、曰く露國復讐の一念はユダヤの反逆的精神呪咀的思想に合致するとか、口を極めてユダヤ人に對する誹謗を試みられたのであります。私が若しもユダヤ人であつたならば、直ちに岡田博士に對して決闘狀を突き付けたかも知れませぬ。たゞ私は日本人であるが故に、日本人中ユダヤ人に對しかくの如き迷妄を抱ける者あることを、明治天皇の神靈の前に慚愧せざるを得ませぬ。畏くも　明治天皇は御製に

よもの海みなはらからと思ふ世になと波風のたちさわくらむ

わたつみの波のよそにもへたてなく親しむ友はある世なりけり

と仰せられてゐるのであります。日本人がユダヤ禍といふが如き外來思想にかぶれ、ヨーロッパ人の尻馬に乘つてユダヤ民族のみを特殊に排斥せんとする限り、日本人は米國の排日に對して抗議する資格を持ちませぬ。

先達て著者が上原元帥を訪問して談論數刻に及んだとき、元帥は自らユダヤ問題を切り出され、著者がユダヤ禍迷妄打破の戰陣に立てるを壯とし、『眞理と正義のために大に戰へ』と激勵されました。又その後松村介石先生を訪ねたとき、先生が『この間或る少壯軍人がヨーロッパのキリスト敎のことを聞きにやつて來たが、中々しつかりした男だつたよ』と姓名を告げられたので『その人ならユダヤ禍宣傳者です』と答へると『さうか。それは惜しいことをした。それと知つたらよく說いて聞かせるのだつたのに。然かし未だにそんな馬鹿な說を眞面目に信じてゐる者があるかね。少し歷史を研究したら、耻かしくてそんなことは言へないよ』と申されました。

數日前、小笠原長生先生の御話にも『どうもユダヤ禍などゝ言つて、折角太陽の光に慕ひ寄つて來やうといふものを、强ひて敵方に追ひ込むやうなことは大間違ひである。因果應報と申すべきは、ロシアがあの通り數百年に亘つてユダヤ人を虐殺したり、壓迫したりした結果、レニンが出現したのである。星の紋がユダヤの紋だらうが何だらうが、一切を包擁して化育に參するところに有難い日本の國體がある』と云はれました。さすが多年法華經を色讀されてゐる先生の見識と今更ながら敬服致すのであります。

『平凡』誌上、ユダヤ禍問題座談會の記事は、ユダヤ禍論者の激怒を買つたやうであります。松

居鍊石氏から送られた『建設』三月號には同氏のこの座談會に關する一文が載つてゐますが、それによると氏等は依然ユダヤ禍論を固持し擁護し、中にも包荒子の如きは『彼等一味の暴論は實に國家の爲め慨嘆の至りに御座候』云々と書いてゐられるのであります。此の人達は自ら反省することなく、地震を起したものは鯰であるとせねば承知が出來兼ねると見へます。まことに長大息の至りに堪へませぬ。

今度大竹博吉君の監輯に成る『ロシア大革命の裏面史譚選輯』全七册刊行の計畫が出來、その第一輯たる『帝制ロシア沒落の眞因』はすでに發行されました。同書の前半を占むるものは、クルロフ將軍著述の全譯であります。大竹君の序文にもある通り、このロマノフ朝の前内務次官は可なり詳細にユダヤ人問題を取扱つてゐますが、プロトコールのプの字も、インボウのイの字も書いて居りませぬ。私はユダヤ禍論者が心を冷かにし、白紙の狀態に立ち囘つて、ユダヤ人に對する眞の科學的研究を始められんことをお勸めいたします。

或はまだ目がさめぬユダヤ禍論者が『それはクルロフがプの字もイの字も書かなかつた筈だ。若しそんなことを書いたら一ぺんにユダヤ人から暗殺されるに相違ないではないか』と申されるかも知れませぬ。それなら私等もユダヤ禍論者の中に、匿名をまもつてゐる人々のあるのが如何

なる理由であるかを略々察することが出來るのであります。

そは兎に角、私はこれで斷然ユダヤ禍論者との論爭を打切ります。

昭和四年五月十日

滿川龜太郎

昭和四年六月十日印刷
昭和四年六月十五日發行

ユダヤ禍の迷妄
（定價金壹圓五拾錢）

著者　滿川龜太郎

發行者　下中彌三郎
東京市麹町區下六番町一〇

印刷者　濤川薫
東京市麹町區下六番町一〇



發
町區下六番町一〇
京二九六三九番
株式會社　平凡社
電話九段　一六六四番　三四七五番　三六四七番

山田製版・松田印刷
河田製本